

KFAW 調査研究報告書

移住によって潜在能力は発揮できるか？
ジェンダーの視点で見た滞日ネパール人の特徴

公益財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム

2014/15 年度客員研究員 佐野 麻由子

共同研究者 田中 雅子

要 約

近年、ネパールからの滞日者は、国籍・地域別在留外国人の中で最も早いペースで増加している。難民認定申請者数も大幅に増加し、国籍別で最多となった。東京都内の公立中学校の夜間学級や外国籍住民の相談窓口でもネパール出身者への対応が必要になっているが、ネパールから日本への移住の実態は把握されていない。そこで、本研究は、どのような人が何を目的に来日しているのか（滞日者の動向）、ネパール人の移動の背景にあるネパール側、日本側の状況（チャンネルおよびルート）、来日後のセイフティネット、どのような属性や資源をもつ人がどのような問題を抱えているのか（滞日者の生活の質）を明らかにすることを目的とした。

研究の方法として、文献調査、質問紙調査、聞き取り調査を採用した。2014年11月から9月にかけて実施した質問紙調査には日本側103人（男性74人、女性29人）、ネパール側89人（男性48人、女性41人）、聞き取り調査には日本側30人（男性18人、女性12人）、ネパール側32人（男性13人、女性19人）の協力を得た。なお調査協力者の選定にあたっては、調査経費および入手できる名簿等の制約から機縁法を採用した。機縁法ゆえ、回答者に偏りがあり、滞日者全体の傾向を示すものにはなっていない。生活の質を把握するための質問紙調査の設計にあたっては、A.セン、M.ヌスバウムの潜在能力アプローチを援用した。

ネパールから日本への移住は、2004年から10年あまりの間に10倍以上増加している。2014年度末に登録されている42,346人を在留資格別にみると、留学(15,697人、37.06%)、家族滞在(10,308人、24.34%)、技能(7,412人、17.5%)、永住者(2,926人、6.9%)、人文知識・国際業務(1,010人、2.39%)、投資・経営(682人、1.61%)の順に多い。

質問紙調査の分析からは、(1) 経済的上昇を求める相対的に学歴が低い者、(2) 経済的上昇だけでなく生活の質の向上、可能性の拡大を求める中・高学歴者が来日していることが推察された。滞日者の中には、以前のような出稼ぎという強い動機はなくとも、機会や選択の幅を広げる可能性に希望を託し、「とりあえず」来日した者もいることがうかがえた。日本は渡航にかかる費用さえ準備できれば、留学・就労のいずれにおいてもハードルが低く、家族滞在が可能であるという意味で、魅力的な移住先になっていると考えられる。

ネパールからの移住者送り出しには、家族や親戚、知人の他、斡旋機関、人材派遣会社、語学学校が関わっている。技能に関しては特定村出身のコックが多いなど Chain Migration (Kharel 2015) の傾向があるが、家族滞在以外の資格においては、語学学校の存在が大きい。カトマンズの中心部だけで日本語学校と斡旋機関を合わせて500以上あると言われる。地方都市にも日本語学校やその分校、斡旋機関が複数あることを確認しており、地方から直接日本に渡航する準備ができるようになっていることがわかる。

来日後のセイフティネットについては、来日間もない移住者や日本語を学習し始めたば

かりの人が言葉の壁を感じず情報収集できるものとして、滞日ネパール人の互助組織がある。ネパール語のインターネットサイトは一定程度利用されているが、互助組織の活動は都市部に限定されており、地理的な制約がある。また、民族・カースト、年齢、在留資格などの多様性や、レストランの経営者とコックの関係に見られるような利害関係も存在するため、ネパール出身というだけで繋がるのが困難な場合もある。したがって、滞日ネパール人コミュニティは、セイフティネットとして必ずしも頼りになる存在とは言えない。

一方、日本の自治体や民間組織、また教育機関は、近年ネパール語での通訳サービスを導入しつつあるが、首都圏などごく一部に限られている。自分の居住地にある資源を活用するためには、日本人もしくは、ネパール以外からやってきた外国籍住民との交流が不可欠であり、そのためには日本語または英語でのコミュニケーション力が求められる。年齢や学歴、階層において幅広い層のネパール人が来日するにつれ、保健、医療、福祉、労働、キャリア形成に関する支援ニーズも多様化している。支援を提供する側は、サービスを多言語化するだけでなく、ニーズを把握するための「交流の場」を設けるなど、工夫が求められる。

どのような属性や資源をもつ人がどのような問題を抱えているのか。質問紙調査からは、日本での生活満足度、幸福度が低い人の傾向として、①日本語能力が相対的に低い、②女性よりも男性、③学歴が相対的に低い、④出国の動機として雇用機会、教育機会の欠如を挙げる、⑤来日時の情報を日本にいる親族・友人・家族以外から得ている、があげられる。ネパールからの出国動機として雇用機会、教育機会の欠如を挙げた者は男性に多く、留学・就労の夢を抱いて来日したものの、就職や日本の大学への進学は難しく、理想と現実との落差に失望し将来像を描けない状況があること（期待と現実とのギャップ）を反映していると考えられる。また、日本での多言語サービスが限られる中、日本語能力を補うネパール人コミュニティへの接点をもてないこと（生活の質を高める情報、ネットワークの不足）、頼れる人が全くいない中での孤独感が、生活満足度、幸福度を下げていると考えられる。来日時の情報を日本にいる親族・友人・家族以外から得ている人は、男性、1990年代生まれの若い世代、学歴が相対的に低い者に多くみられる。

聞き取り調査、質問紙調査の結果からジェンダー別に滞日者の生活の質を担保する際の課題をまとめる。まず、男性については、期待と現実とのギャップを埋めること、生活の質を高める情報、ネットワークの不足を補うことが求められる。女性については、家族以外の滞日ネパール人や日本人との関係を構築する機会が求められる。女性においては、家族による呼び寄せを来日の理由に挙げる者が多く、来日時の情報を親族・友人・家族から得ている者が多い。彼女たちは、孤立は免れているものの、家族以外の滞日ネパール人や日本人との関係を構築する機会が男性に比べて少なく、近親者との関係が破綻した際に生活の質を担保する資源を失うリスクがあると考えられる。

Summary

Nepalese is the ninth largest and the most rapidly growing nationality in Japan. However, this recent phenomenon has not received serious attention, though counseling and support systems for Nepalese are urgently needed, e.g., nighttime junior high schools in Tokyo. In this study we analyzed changing immigration trends from Nepal to Japan in terms of Nepalese immigrants' aims, background, channels, and utility of safety nets. It reviewed the difficulties Nepalese immigrants face in utilizing public support of local governments or mutual support mechanisms.

The study is based on a literature review and both quantitative and qualitative research. The quantitative element collected 103 samples (74 men and 29 women) in Japan and 89 samples (48 men and 41 women) in Nepal through questionnaires from November 2014 to June 2015. The questionnaires incorporated ideas from the capability approach developed by Amartya Sen and Martha Nussbaum. The qualitative element included interviews with 30 informants (18 men and 12 women) in Japan and 32 informants (13 men and 19 women) collected through a snowball sampling method.

The number of Nepalese in Japan has increased more than ten times over a decade. Of 42,346 Nepalese nationals registered in 2014, 15,697 (37.06%) were students, 10,308 (24.34%) came to Japan as dependent families, 7,412 (17.5%) entered Japan as skilled labor—mostly as cooks in India–Nepal restaurants—2,926 (6.9%) had permanent resident status, 1,010 (2.39%) were employed by companies, and 682 (1.61%) owned businesses such as restaurants. Japan is an attractive destination for Nepalese immigrants because they can easily enter Japan as students, skilled workers, or dependent families. Our questionnaire revealed that they can be categorized as (1) those who are poorly educated but seeking upward social mobility and (2) those who are relatively educated and trying to improve the quality of their lives by seeking new opportunities.

We identified the lack of employment opportunities and the limited access to higher education in Nepal as the major pushing factors of out-migration from Nepal. The campaign of Japanese language schools in Japan and Nepal is a pulling factor. Nepalese form a variety of self-help groups, e.g., hometown associations and student associations, in addition to the Non-Resident Nepali Association (NRNA) in Japan. These are primary information sources for newly arrived immigrants and beginning Japanese language learners. There may be two barriers to accessing these organizations. One barrier is geographic because activities of such self-help

organizations are mostly limited to urban areas, though the Nepalese still have access through Internet services in their Nepali language. The other barrier results from conflicts of interests among immigrants in terms of ethnicity, caste, age, and visa category. Thus, it is not easy for the Nepalese to help each other or to access social safety nets.

According to our questionnaire results, the immigrants who are less educated, motivated by economic factors, have limited information links to their relatives, friends, and families, and speak Japanese poorly find it difficult to improve the quality of their lives in Japan. Male immigrants are less likely to cope with difficulties and do not have reliable friends to obtain support. In our study we also found that not many immigrants are associated with self-help organizations. Some are isolated from their own communities. Female immigrants, who mostly remain dependents, also risk losing their safety nets once they lose their ties to their own family members, e.g., in divorce.

In short, we found the following points:

- Nepalese immigrants do not have enough opportunities to interact with Japanese residents.
- Their satisfaction levels correspond to their command of the Japanese language.
- Some less educated immigrants, particularly men, face gaps between their expectations before departure from Nepal and the reality after their arrival in Japan.
- The group of Nepalese who collected information about Japan through family and friends rather than relying only on social media or Japanese language schools are satisfied with their lives in Japan.
- Women and children who migrated with dependent family visas face troubles in collecting appropriate information about schooling or welfare schemes in Japan. Also they face barriers in accessing public services provided by local governments.

目次

第1章 研究の目的	- 1 -
第2章 研究の方法	- 3 -
第1節 聞き取り調査の概要	- 3 -
第2節 滞日者への質問紙調査：回答者の属性	- 4 -
第3節 帰国者への質問紙調査：回答者の属性	- 5 -
第3章 どのような人が何を目的に来日しているのか	- 7 -
第1節 来日するネパール人についての先行研究	- 7 -
第2節 マクロデータにみる滞日ネパール人の概要	- 8 -
第3節 質問紙調査の分析にみる滞日ネパール人の出国/来日の理由	- 13 -
第4節 日本を選んだ理由：聞き取り調査から	- 16 -
第4章 移動の背景	- 18 -
第1節 ネパール側から見た日本	- 18 -
第2節 日本側から見たネパール	- 19 -
第5章 来日後のセイフティネットやサービスの活用	- 28 -
第1節 ネパール人コミュニティ	- 28 -
第2節 日本の組織による情報提供や相談	- 29 -
第3節 教育機関	- 30 -
第4節 保健・医療・福祉	- 31 -
第6章 どのような属性や資源をもつ人がどのような問題を抱えているのか	- 37 -
第1節 先行研究にみる在住外国人にとっての重要な資源	- 37 -
第2節 生活実態の把握：質問紙調査の枠組み	- 38 -
第3節 滞日者の生活の質：質問紙調査の分析にみる潜在能力の発揮状況	- 41 -
第4節 滞日者にとっての資源保持	- 47 -
第5節 滞日者の生活の質：聞き取り調査から	- 50 -
第6節 小括	- 52 -

第7章 帰国後のネパールでの生活について：帰国者への調査	- 53 -
第1節 ネパールに帰国した理由.....	- 53 -
第2節 ネパール帰国後の生活	- 53 -
第3節 日本での生活を振り返っての評価.....	- 55 -
第4節 小括.....	- 59 -
第8章 結論：どのような人が潜在能力の発揮において課題を抱えるのか.....	- 61 -

注

参考文献

巻末資料

1. 滞日者向け質問票（英語）
2. 滞日者向け質問票（ネパール語）
3. 帰国者向け質問票（ネパール語）

表目次

表 1	調査協力者の概要.....	- 2 -
表 2	日本在住者を対象とした聞き取り調査の回答者 30 名の属性	- 3 -
表 3	ネパール帰国者を対象とした聞き取り調査の回答者 32 名の属性	- 3 -
表 4	聞き取り協力者の概要.....	- 4 -
表 5	質問紙調査の回答者の属性.....	- 5 -
表 6	質問紙調査の回答者の属性（帰国者）	- 6 -
表 7	帰国者の滞在年数.....	- 6 -
表 8	在留資格別滞日ネパール人数	- 12 -
表 9	日本を選んだ理由.....	- 15 -
表 10	ネパールから見た各移住先の特徴.....	- 18 -
表 11	ネパール出身留学生在籍状況（2001 年から 14 年）	- 20 -
表 12	日本語学校生の出身・地域別の推移（2003 年から 14 年）	- 20 -
表 13	在留資格を留学から就労資格に変更したネパール人の変更先種別と人数.....	- 24 -
表 14	潜在能力と生活の質を測るための指標との対応	- 39 -
表 15	人間関係についての満足度.....	- 44 -
表 16	頼れる人がいない人の割合.....	- 47 -
表 17	学歴×来日時に頼った社会関係.....	- 49 -
表 18	ネパールに帰国した理由	- 53 -
表 19	日本での人間関係についての満足度.....	- 55 -
表 20	日本での生活に必要なもの.....	- 56 -
表 21	「再び日本に行きたいか」	- 57 -

図目次

図 1	回答者の出身地域.....	- 5 -
図 2	ネパールから日本への入国者数と出国者数.....	- 7 -
図 3	滞日ネパール人数（総数）.....	- 9 -
図 4	ジェンダー別在留ネパール人の動向.....	- 9 -
図 5	滞日ネパール人女性における年齢構成の推移.....	- 10 -
図 6	滞日ネパール人男性における年齢構成の推移.....	- 10 -
図 7	東京・福岡の滞日ネパール人数の推移（全ネパール人に占める割合）.....	- 11 -
図 8	在留資格別滞日ネパール人数.....	- 12 -
図 9	ジェンダー×滞在予定年数.....	- 14 -
図 10	ジェンダー×将来の計画.....	- 14 -
図 11	属性、資源と生活の質との関係についての仮説.....	- 38 -
図 12	ジェンダー×生活満足度.....	- 41 -
図 13	ジェンダー×居住地、心身の健康、生活の充実などについての満足度.....	- 42 -
図 14	ジェンダー×将来のキャリア等への満足度.....	- 42 -
図 15	ジェンダー×夫婦以外の人間関係についての満足度.....	- 45 -
図 16	滞日ネパール人の日本の団体への加入状況.....	- 45 -
図 17	滞日ネパール人の滞日ネパール人団体への加入状況.....	- 46 -
図 18	ジェンダー×仕事の種類、収入、労働条件、在留資格についての満足度.....	- 46 -
図 19	生年×来日時時の主な情報提供者.....	- 48 -
図 20	ジェンダー×帰国後の生活.....	- 54 -
図 21	ジェンダー×現在の生活満足度.....	- 55 -
図 22	ジェンダー×人間関係の満足度.....	- 56 -
図 23	ジェンダー×来日希望.....	- 57 -
図 24	日本語能力×生活満足度.....	- 58 -
図 25	ジェンダー×日本語能力.....	- 59 -
図 26	来日前の日本語能力×滞在年数.....	- 59 -

第1章 研究の目的

ネパールは、全人口 2,660 万人のうち 220 万人が不在者人口であり、国内総生産の約 4 分の 1 を外貨送金¹⁾によって支える「移民大国」(南 2015)である。

国外移住のプッシュ要因として、内戦後の国家再建の長期化など政治的混乱、学卒者の増加に見合った就学や雇用機会の不足が挙げられる(佐藤 2012: 21)。日本への移住も近年加速化し、2004 年の 4,015 人から 10 年あまりの間に 10 倍以上増加し、14 年末時点で 42,346 人が登録されている。国籍・地域別在留外国人の中で 9 番目に大きく、最も速いペースで増加している。難民認定申請者数も 13 年の 544 人から 14 年には 1,293 人へと大幅に増加し、国籍別で最多となった。

東京都内の公立中学校の夜間学級や外国籍住民の相談窓口でもネパール出身者への対応が必要になっているが、ネパールから日本への移住者に関する先行研究は限られている(南 2008)。また、NGO へのネパール人女性からの相談が増加しているが、十分な支援体制が整っていない。

そこで、本研究では、移住という社会的条件故にどのような社会的排除に直面しているのか、つまり、潜在能力が発揮できない状況にあるのか、何が障壁となっているのかをジェンダーの視点から分析する。具体的には、以下の 3 点について明らかにする。

- (1) どのような人が何を目的に来日しているのか(滞日者の動向)
- (2) ネパール人の移動の背景にあるネパール側、日本側の状況
- (3) どのような属性や資源をもつ人がどのような問題を抱えているのか

まず、基礎調査として日本とネパール側の各種統計を用いた動向分析と、ネパールからの送り出し機関と日本での受け入れ機関に聞き取り調査を行った。次に、2014 年 11 月から 9 月にかけて日本とネパールで生活実態を明らかにするための質問紙調査と聞き取り調査を並行して実施した。

質問紙調査には日本側 103 人(男性 74 人、女性 29 人)、ネパール側 89 人(男性 48 人、女性 41 人)、聞き取り調査に日本側 30 人(男性 18 人、女性 12 人)、ネパール側 32 人(男性 13 人、女性 19 人)の協力を得た。調査協力者の選定にあたっては、調査経費および入手できる名簿等の制約から機縁法を採用した。

表 1 調査協力者の概要

	滞日者	帰国者
調査期間	2014年11月～2015年9月	2014年12月～2015年4月
質問紙調査 協力者数	103名 女性 29名 (28.2%) 男性 74名 (71.8%)	89名 女性 41名 (46.1%) 男性 48名 (53.9%)
聞き取り調査 協力者数	30名 男性 18名 女性 12名	32名 男性 13名 女性 19名

以下、第 2 章で研究の方法について述べた上で、第 3 章で滞日者の動向について各種統計、質問紙調査の結果に依拠して述べる。第 4 章、第 5 章では、ネパール人の移動の背景にあるネパール側、日本側の状況、来日後のセイフティネットやサービスの活用について各種統計、聞き取り調査の結果に依拠して述べる。第 6 章では、どのような属性や資源をもつ人がどのような問題を抱えているのかについて質問紙調査の結果、聞き取り調査の結果に依拠して述べる。第 7 章ではネパールに帰国した者への質問紙調査の結果に依拠して、帰国後の生活等について述べる。結論では、聞き取り調査、質問紙調査の結果に依拠してジェンダー別に滞日者の生活の質を担保する際の課題をまとめる。

第2章 研究の方法

第1節 聞き取り調査の概要

本研究では、滞日者および日本からの帰国者を対象に、質問紙調査、ならびに、聞き取り調査を実施した。滞日者に対しては、日本での生活状況と属性、彼らのもつ資源との関係を中心に、帰国者に対しては、ネパールに帰国した後の生活、日本での生活を振り返った際の評価、日本での生活に必要なと思われる資源について話を聞いた。

聞き取り調査の協力者は、日本側30人（男性18人、女性12人）、ネパール側32人（男性13人、女性19人）である。聞き取り調査の協力者の属性は以下のとおりである。

表2 日本在住者を対象とした聞き取り調査の回答者30名の属性

属性	回答数
性別自認	女性12、男性18
聞き取り時の年齢	10歳代1、20歳代16、30歳代8、40歳代5
民族・カースト	ヒンドゥー上位カースト14、ネワール11、ジャナジャティ5
聞き取り時の婚姻歴	未婚9、既婚21（うち2名の配偶者は日本人）
聞き取り時の在留資格	家族滞在9、留学8、技能（調理）3、投資・経営3、永住者2、国際業務1、技能実習1、その他（特定活動、難民申請中など）3
現在の職業	学生10、インド・ネパール料理店勤務6、会社経営3、パート・アルバイト3、工場作業員2、団体職員・および会社員2、実習生1、主婦3

表3 ネパール帰国者を対象とした聞き取り調査の回答者32名の属性

属性	回答数
性別自認	女性19、男性13
聞き取り時の年齢	20歳代5、30歳代7、40歳代12、50歳代7、60歳代1
民族・カースト	ヒンドゥー上位カースト11、ネワール12、ジャナジャティ9
渡航時の婚姻歴	未婚10、既婚22（うち3名の配偶者は日本人）
渡航時の在留資格	学生10、短期滞在6、家族滞在5、研修4、技能実習3、技能（調理）1、日本人の配偶者として3
現在の職業	自営業9、観光ガイド・ホテル従業員4、NGO役員・職員4、主婦4、日本語学校経営3、教員・研究職2、会社員2、弁護士1、医療職1、農業1、無職1

表 4 聞き取り協力者の概要

章との対応	協力者（仮名）	ジェンダー	滞日者・帰国者の別
聞き取り（第3章、第6章）	Nさん（22歳）	男性	滞日者
聞き取り（第3章）	Rさん（22歳）	男性	滞日者
聞き取り（第6章）	Mさん（20歳）	女性	滞日者
事例1（第4章）	Lさん（31歳）	女性	滞日者
事例2（第4章）	Sさん（31歳）	女性	帰国者
事例3（第4章）	Sさん（27歳）	女性	滞日者
事例4（第4章）	Gさん（30歳）	男性	帰国者
	Bさん（28歳）	男性	帰国者
事例5（第5章）	Mさん（44歳）	女性	帰国者
事例6（第5章）	Bさん（32歳）	女性	帰国者
事例7（第5章）	Pさん（33歳）	女性	滞日者
事例8（第5章）	Uさん（57歳）	女性	帰国者
事例9（第5章）	Bさん（55歳）	女性	帰国者

第2節 滞日者への質問紙調査：回答者の属性

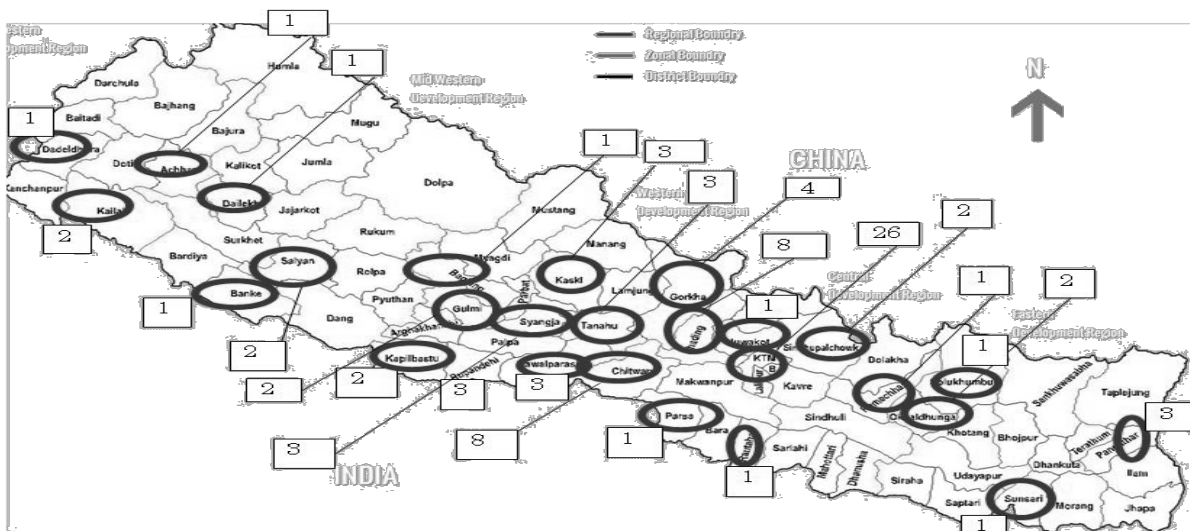
日本で行った質問紙調査の回答者の属性は表5のとおりである。なお、本調査は機縁法によるため、属性、回答に偏りがある。また、対象者の無作為抽出を行うことができなかったため、統計的検定は行っていないことを先に述べる。

また、回答者の出身地は首都カトマンズ周辺（カトマンズ、ラリトプル、バクタプル）が多く、25%を占める。回答者の学歴は相対的に高く、学部以上の学歴をもつ人が46.5%を占める。来日前の職業については、学生が半数以上を占め（55.6%）、正規雇用者が18.9%を占める（n=90）。なお回答者は、女性では学生の滞在資格を持つ者が、男性では技能の滞在資格をもつものが相対的に多くなっている。日本に滞在する全外国人の在留資格をジェンダー別にみた際、家族滞在者、永住者、日本人の配偶者が女性に多くみられるが²、本質問紙の回答者においては家族滞在者が1名、永住者が1名、日本人の配偶者は0名であった。また、日本で従事していることについては、女性ではパートタイム、ネパール人の配偶者、大学院生が、男性では事業主、常勤雇用者が相対的に多くなっている。

表 5 質問紙調査の回答者の属性

属性	回答数
性別自認	女性 29 (28.2%) 男性 74 (71.8%) 計 103
年齢	最低 17 歳 最高 54 歳、平均年齢 27.4 歳
婚姻暦	未婚 55 (53.4) 既婚 45 (43.7) その他 2、無回答 1
民族・カースト	上位カースト 50 (48.5%)、非ヒンドゥ諸民族 (ジャナジャティ) 22 (21.4%)、ネワール 17 (17.9%)、ダリット 2 (2.1%)、その他 4 (4.2%)、無回答 8。
学歴	10 年生まで 5 (5%)、中等教育修了資格取得 7 (6.9%)、上級中等学校(10+2)42 (41.6%)、学士/学部 32 (31.7%)、修士 15 (14.9%)、無回答 2。
在留資格	学生 47 (52.8%)、技能 17 (19.1%)、その他 29 名、無回答 14。 *無回答者 14 名を除いた際の全回答者に占める割合。
日本で従事していること	事業主 (経営者) 8 (7.8%)、常勤雇用 13 (12.6%)、非常勤雇用 31 (30.1%) 日本語学校 54 (52.4%)、専修学校 3 (2.9%)、大学 7 (6.8%)、大学院 3 (2.9%)、大学・学校の教員 1 (1.0%)、ネパール人の配偶者 6 名 (5.8%)、日本人の配偶者 1 (1.0%)、その他 3 (2.9%)。 *兼業も含むため合計が 103 を超える。

図 1 回答者の出身地域



第 3 節 帰国者への質問紙調査：回答者の属性

ネパールで行った質問紙調査の回答者の属性は表 6 のとおりである。なお、本調査は機縁法によるため、属性、回答に偏りがある。また、対象者の無作為抽出を行うことができなかったため、統計的検定は行っていないことを先に述べる。

表 6 質問紙調査の回答者の属性（帰国者）

属性	回答数
性別自認	女性 41 名（46.1%）、男性 48 名（53.9%）計 89。
年齢	最低 23 歳 最高 65 歳、平均年齢 42.8 歳。
民族・カースト	ヒンドゥ：上位カースト 44（49%）、非ヒンドゥ諸民族（ジャナジャティ）15（16.9%）、ネワール 24（27.1%）、その他 5（5.6%）、無回答 1。
学歴	10 年生まで 2（2.2%）、中等教育修了資格取得 11（12.4%）、上級中等学校（10+2）25（28.1%）、学士/学部 27（30.3%）、修士 24（27.0%）。
来日前の職業	農林漁業 8（9.0%）、製造 1（1.1%）、建設 6（6.7%）、貿易 7（7.9%）、小売り 1（1.1%）、観光・飲食業 11（12.4%）、公共サービス 9（10.1%）、教育 26（29.2%）、保安 2（2.2%）、医療 6（6.7%）、社会福祉 8（9.0%）、その他 3（3.4%）、無職 13（14.6%）。
滞在年数	平均 5.3 年、最小：1 年未満、最大 22 年（無回答 5）。
当時の在留資格	留学 23（26.7%）、短期滞在 16（18.6%）、家族滞在 13（15.1%）、就学 6（7.0%）、企業内転勤 5（5.8%）、その他 17（19.8）、無回答 3。 *無回答者 3 名を除いた際の全回答者に占める割合。

回答者のカースト・民族については、ヒンドゥのバフン、チェットリ等の上位カーストが回答者のおよそ半数を占める。また、非ヒンドゥ諸民族のおよそ6割をネワール³が占めている。回答者の学歴は相対的に高く、2名をのぞき中等教育修了資格を取得している。来日前の職業については、農林漁業8名（9.0%）、製造1名（1.1%）、建設6（6.7%）、貿易7（7.9%）、小売りが1（1.1%）、観光・飲食業が11（12.4%）、公共サービスが9（10.1%）、教育が26（29.2%）、保安が2（2.2%）、医療が6（6.7%）、社会福祉が8（9.0%）、その他が3（3.4%）である。

日本での滞在歴は、平均 5.3 年である。5 年未満が 36 名（42.9%）、うち 7 名（8.3%）は 1 年未満であった。

表 7 帰国者の滞在年数

年数	回答数	%
5 年未満	36	42.9%
6～9 年	22	26.2%
10 年以上	13	15.5%

滞在資格は、多い順に留学が 23（26.7%）、短期滞在が 16（18.6%）、家族滞在が 13（15.1%）、就学が 6（7.0%）、企業内転勤が 5（5.8%）で、留学を目的にした者が多い。

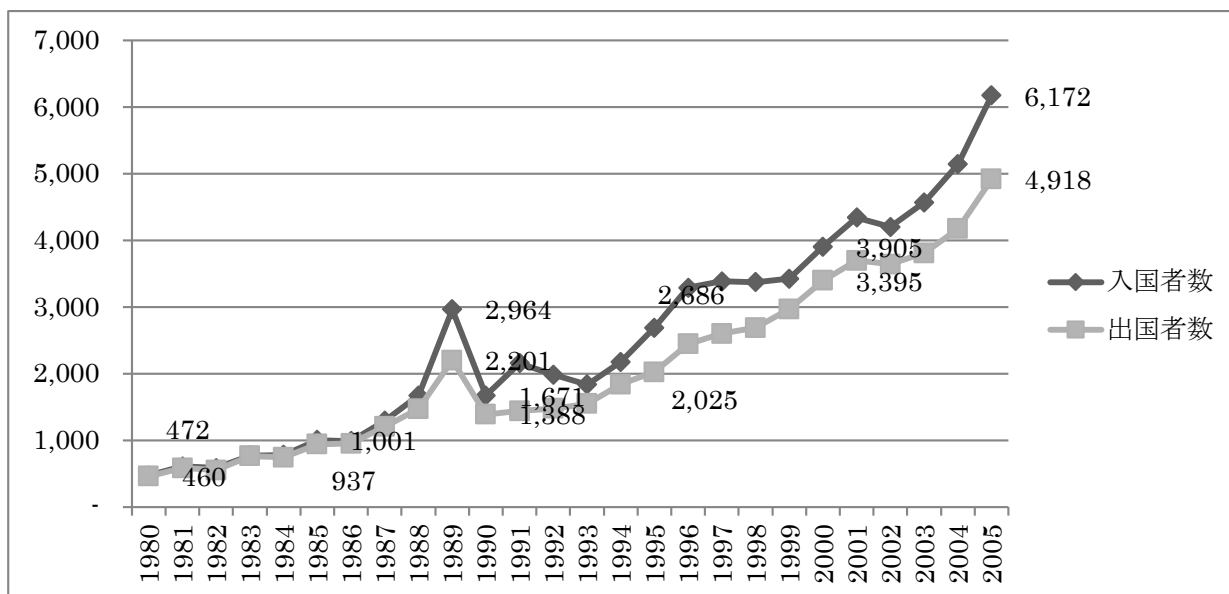
第3章 どのような人が何を目的に来日しているのか

第1節 来日するネパール人についての先行研究

1. 1980～90年：就労を目的とした来日

滞日ネパール人に関する先行研究である Yamanaka (2000) によれば、就労を目的とした日本へのネパール人の入国は 1980 年代より開始され、90 年代初期にかけて増加した。1986 年には 986 名であったが、89 年には 2,964 名に増えている。彼らの一部は、観光ビザで入国し帰国せずに超過滞在者となった。その数は 1995 年時点で 3,000 人に達したと見積もられている (Yamanaka 2000)。

図 2 ネパールから日本への入国者数と出国者数



出入国管理統計 00-00-02 国籍別 入国外国人 (1950～2005)、および、出入国管理統計国籍別 出国外国人 (1950～2005) 00-00-04 より筆者作成

Yamanaka が、1994～98 年にかけて日本とネパールで行った東海地方のネパール人労働者の調査によれば、189 名の調査協力者 (男性 159 名、女性 30 名) は、1985～97 年の間に入国している。彼らの平均年齢は、男性が 32.7 歳、女性が 30.6 歳と 30 代前半が多く、男女とも滞日者の 7 割が既婚者で、就労を目的に子どもをネパールに残して来日していた (Yamanaka 2000:72)。主な民族・カーストは、非ヒンドゥ諸民族 (ジャナジャティ) のグルン (23.9%)、マガール (13.2%)、ネワール (10.7%)、タカリ (10.1%)、ライ (6.9%) 等のチベットーモンゴロイド系民族である。男性のおよそ 8 割 (77.9%)、女性の 9 割弱 (86.7%) がこれらの民族の出身である。学歴については、比較的高く、中等教育修了資格取得者が 25.2%、大学である。来日前の職業については、男性は観光業 (30.2%) が最も多く、次いで、学生 (23.9%)、農業従事者 (13.2%)、かつてのグルカ兵 (8.8%)、専門職、公務員 (7.5%)、

教師やソーシャルワーカー(6.3%)となっている。女性については、主婦(33.3%)が最も多く、ソーシャルワーカー、看護師(26.7%)、学生(23.3%)となっている (Yamanaka 2000)。

2. 2010年以降：就学を目的とした来日

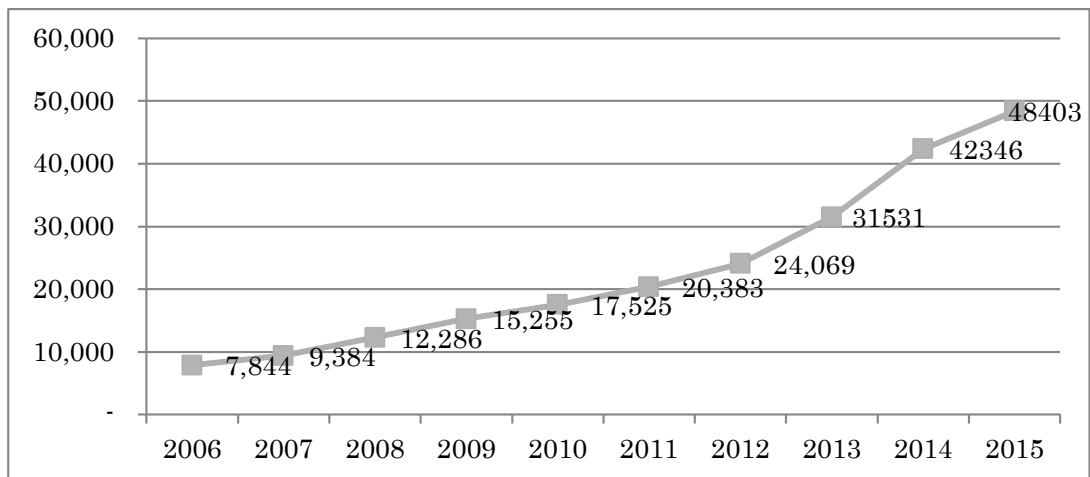
ネパールでは、留学を目的とした移動も増加傾向にあり、出国者数は2011年の6万2391人から2013年7月の9万1519人に増加した。2011年までのネパール人学生の留学先で延べ人数が多い順にイギリス、オーストラリア、アメリカ、日本となっている (Nepal Migration Year Book 2010 Table 6.3)。

近年、増加傾向にあるネパール人留学生の増加要因について、佐藤 (2012) は、日本留学経験者や日本で学ぶ留学生及び就職・起業した元留学生、さらに大使館や専修学校関係者に対する調査に基づき、次のように分析する。ネパール人留学生増加のプッシュ要因としては、政治的混乱と経済停滞によるネパール国内の雇用機会の減少、海外移住の第一段階として留学を選択する傾向があること、急速な高等教育人口の増加を国内の高等教育機関が収容しきれないことを挙げる。また、日本のネパール人留学生のプル要因としては、学費が米豪などより安価であること、週28時間までのアルバイトが可能であること、留学生の就職機会が増加していることを挙げる。また、専修学校留学生の増加要因としては、専修学校が現地の日本語学校と連携したリクルートを活発に行っていることが背景にあるという (佐藤 2012 : 27)。

第2節 マクロデータにみる滞日ネパール人の概要

ネパールから日本への移住は、近年加速化し、2004年の4,015人から10年あまりの間に10倍以上増加し、14年末時点で42,346人が登録されている。国籍・地域別在留外国人の中で9番目に大きく、最も早いペースで増加している。

図 3 滞日ネパール人数（総数）



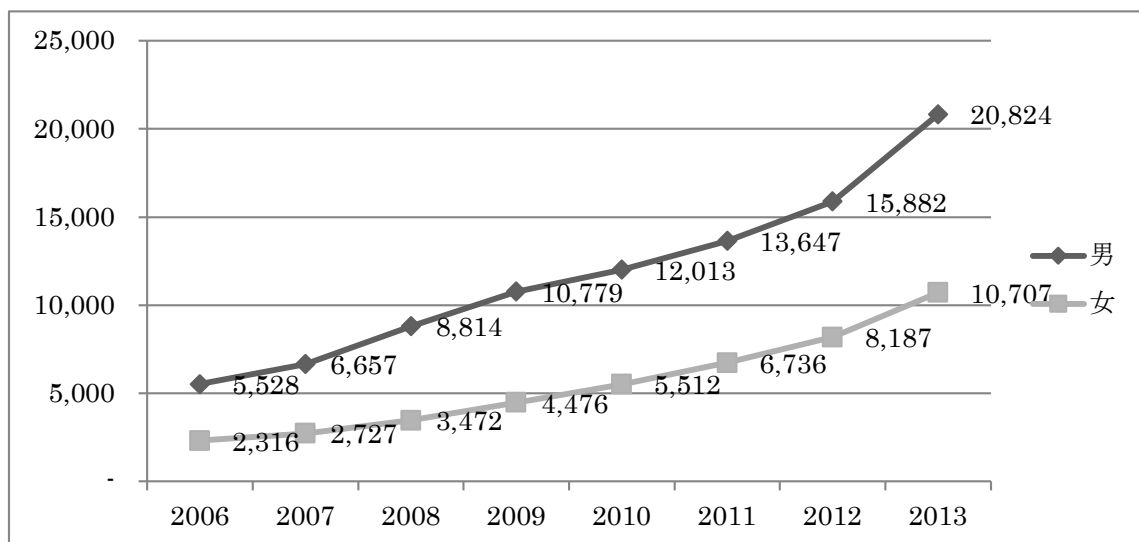
政府統計の総合窓口 国籍・地域別在留資格（在留目的）別在留外国人 2006～2015年12月より作成
2015年は6月末の、それ以外は12月末のデータである。

以下、統計資料を用いて滞日ネパール人の概要を述べる。市町村別・在留資格別・性別等のデータは公表されておらず、各項目にわたって性別分析をすることはできなかった。

1. 性別、年齢

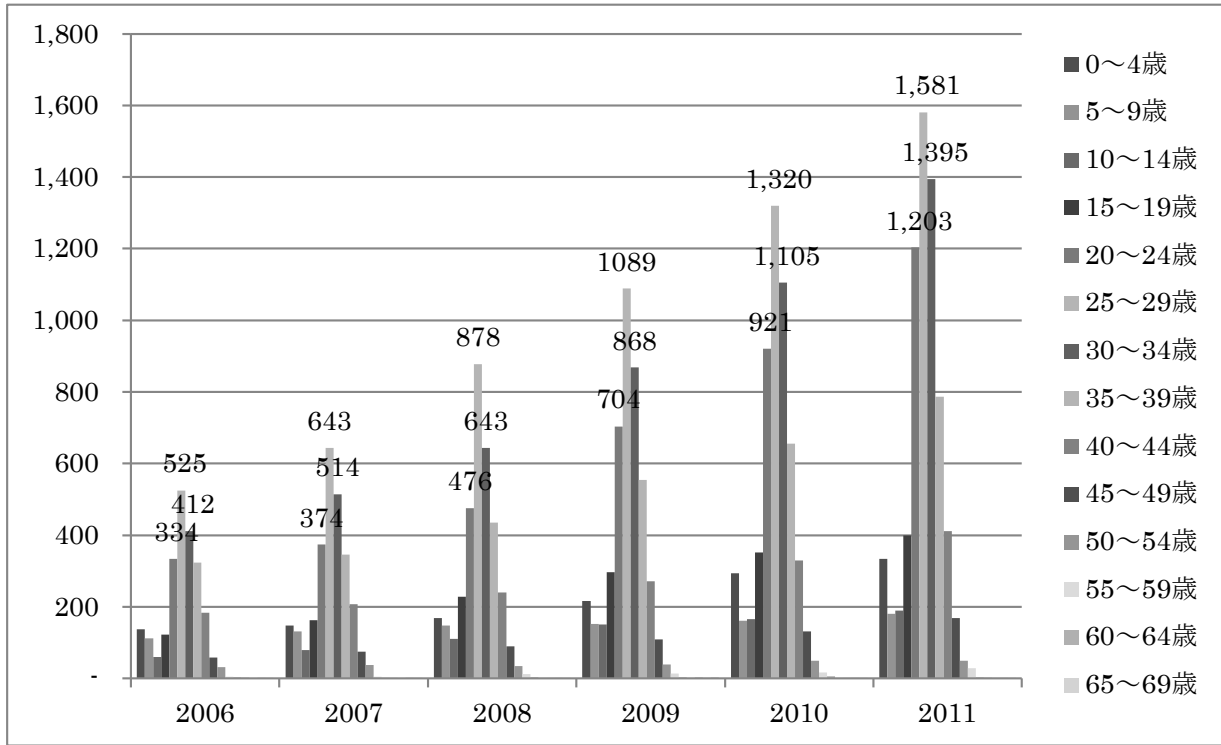
短期滞在を除いた在留ネパール人は、14年度末時点で、男性 28,044 人（66.2%）、女性 14,302 人（33.8%）の計 42,346 人となる。年齢を 10 歳区分で見ると、男女ともに 21～30 歳の人口が多い。全体の 48.2%を占める。次いで、31～40 歳が全体の 28.8%を占める⁴。

図 4 ジェンダー別在留ネパール人の動向



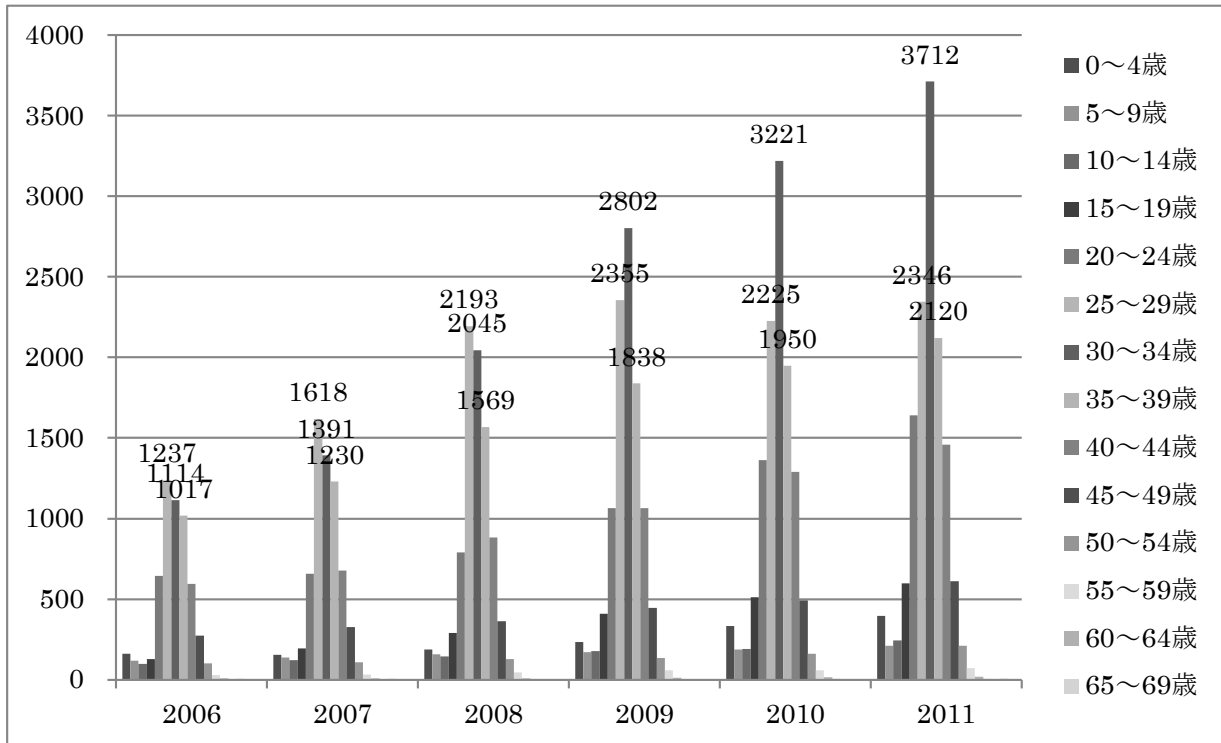
在留外国人統計第 2 表国籍・地域別 年齢・男女別 在留外国人 2006～2013 より作成

図 5 滞日ネパール人女性における年齢構成の推移



政府統計の総合窓口 第2表国籍（出身地）別 年齢・男女別 外国人登録者より作成

図 6 滞日ネパール人男性における年齢構成の推移

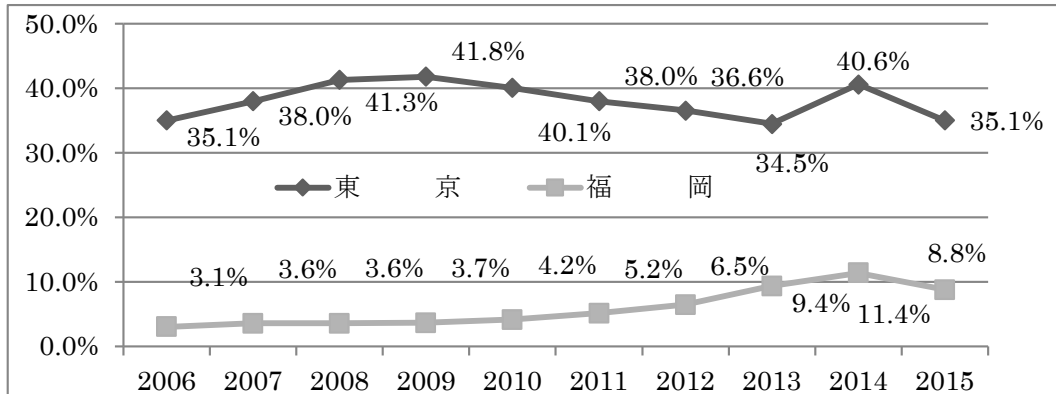


政府統計の総合窓口 第2表国籍（出身地）別 年齢・男女別 外国人登録者より作成

2. 居住地

都道府県別にみると、14年12年度末の時点で、滞在者が多い順に東京 14,671 (34.6%)、福岡 4,117 (9.7%)、愛知 3,247 (7.7%)、千葉 2,807 (6.6%)、神奈川 2,468 (5.8%) を挙げることができる。東京都では、04年の1,754人から10年間で8倍以上増加した。また、福岡県においても06年の242人から8年間で17倍に増加した⁵。

図7 東京・福岡の滞日ネパール人数の推移（全ネパール人に占める割合）



都道府県別 国籍・地域別 在留外国人 2006～2015年12月のデータより作成

3. 在留資格

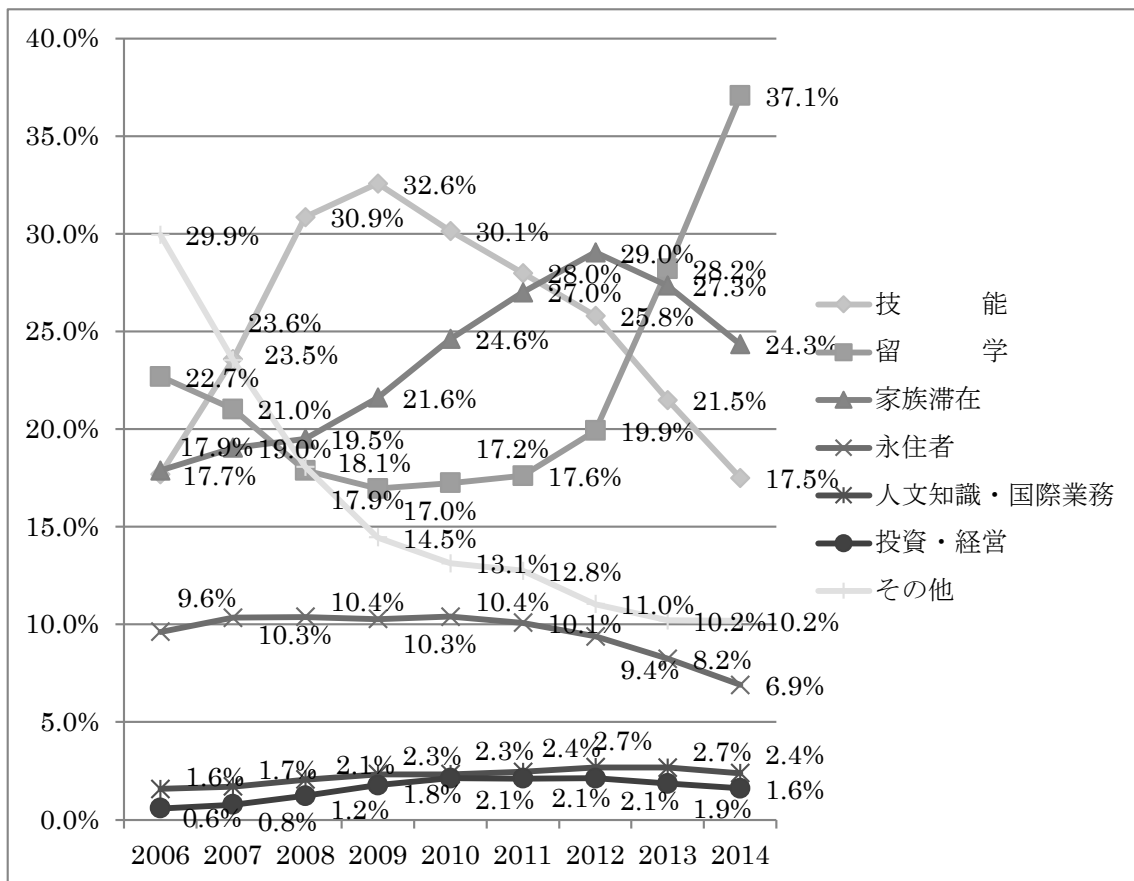
14年度末に登録されている42,346人を在留資格別にみると、留学(15,697人、37.06%)、家族滞在(10,308人、24.34%)、技能(7,412人、17.5%)、永住者(2,926人、6.9%)、人文知識・国際業務(1,010人、2.39%)、投資・経営(682人、1.61%)の順に多い。技能実習は305人(0.72%)と、技術や日本人や永住権取得者の配偶者等の資格よりも下位である。

表 8 在留資格別滞日ネパール人数

年	技 能		留 学		家族滞在		総数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
2006	1,388	18%	1,780	23%	1,403	18%	7,844
2007	2,213	24%	1,973	21%	1,787	19%	9,384
2008	3,791	31%	2,197	18%	2,397	20%	12,286
2009	4,970	33%	2,587	17%	3,297	22%	15,255
2010	5,283	30%	3,022	17%	4,314	25%	17,525
2011	5,704	28%	3,589	18%	5,505	27%	20,383
2012	6,209	26%	4,793	20%	6,991	29%	24,069
2013	6,775	21%	8,892	28%	8,620	27%	31,531
2014	7,412	18%	15,697	37%	10,308	24%	42,346

在留外国人統計第1表国籍・地域別在留資格（在留目的）別在留外国人（2010～2014年12月）より作成
2006～2009年の留学数については「留学」と「就学」の合計数を表示としている。

図 8 在留資格別滞日ネパール人数



在留外国人統計第1表国籍・地域別在留資格（在留目的）別在留外国人（2010～2014年12月）より作成
2006～2009年の留学数については「留学」と「就学」の合計数を表示としている。

技能の資格での滞在者のほとんどが料理人で、大半はインド・ネパール料理店で働く人たちである。15年8月現在、レストラン検索サイトでの「ネパール料理店」の登録件数は1,393⁶ある。その経営にネパール出身者が関与していることから、投資・経営の資格者には、インド・ネパール料理店の経営者が多数含まれていると考えられる。人文知識・国際業務は企業で雇用されている人たちなどを指す。奨学金がない限り、留学生の多くは扶養可能な証明書類が出せないことから、家族滞在者は、技能、人文知識・国際業務、投資・経営の資格で滞在している人たちの配偶者や子どもたちだと考えられる。

ネパールから日本への就労目的での渡航に関して二国間協定が結ばれているのは「技能実習生制度」のみである⁷。渡航費用は60万円程度と安価であるものの、日本語学校への留学や料理人としての渡航と比べて、この制度の利用者は少ない。また、技能実習生の送り出し国としてもネパールは上位にはなく、日本側で統計等は開示されていない。

日本語学校関係者や行政書士からの聞き取りによれば、留学資格での滞在中には奨学金を得て大学・大学院で学ぶ人もいるが、多くは最初に日本語学校生として来日する。日本語学校に入学する前にかかる費用は入学金や授業料など100万円程度である。技能資格を取得する場合、招聘側の経営者あるいは仲介人に100万から200万円程度の手数料を払っている人が多い。いきなり投資・経営資格を申請する人は少なく、留学か技能の資格で入国し、500万円程度の資金を貯めてから資格変更をしている人が多い。人文知識・国際業務の資格者のうち、日本の企業に直接採用される人は少なく、日本の大学や専修学校を卒業後に就職している。

第3節 質問紙調査の分析にみる滞日ネパール人の出国/来日の理由

1. 滞日者への質問紙調査の分析

どのような人が何を目的に来日しているのか。ネパール出国の理由を複数回答で尋ねたところ、雇用機会の欠如（39.8%）、技術を向上させる教育機会の欠如（32.0%）、家族の助言（25.2%）が挙げられた（n=98）。ジェンダー別にみると、男性では雇用機会や教育機会の欠如を挙げる人の割合が、女性では家族の助言を挙げる人の割合が高い。

日本を選択した理由を複数回答で尋ねたところ、技能を身につける（36.9%）、日本語を習得する（33.0%）、家族による呼び寄せ（28.2%）、お金を稼ぐ（21.4%）、日本の文化を学ぶ（20.4%）、安全・安心を期待して（14.6%）が挙げられた（n=101）。男性では技能を身につける、お金を稼ぐが多く（それぞれ、7ポイント、16ポイント差）、女性では家族による呼び寄せ、文化を学ぶ、安全・安心への期待が多い（それぞれ、25、16、14ポイント差）。

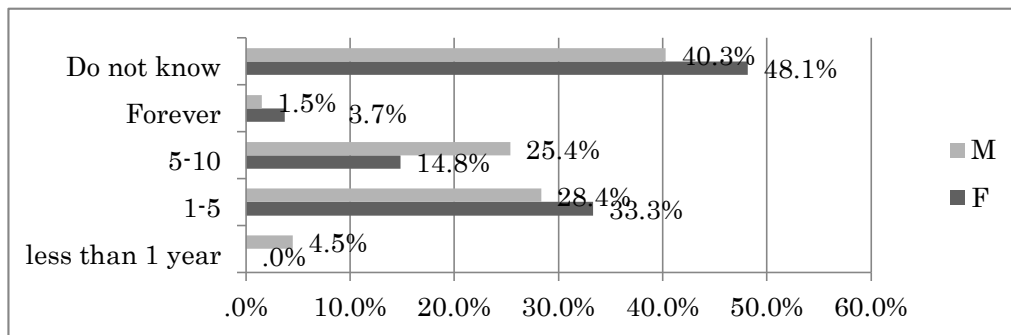
滞在予定年数を訪ねたところ、未定が42.6%と最も多く、1年～5年が29.8%、5年～10年が22.3%、永住は2.1%であった（n=94）。

滞在計画については、上級学校で学ぶが45.6%、事業をするが27.2%、正規雇用者にな

るが 11.7%、他の国に移動するが 8.7%、日本国籍をとるが 4.9%であった (n=91)。

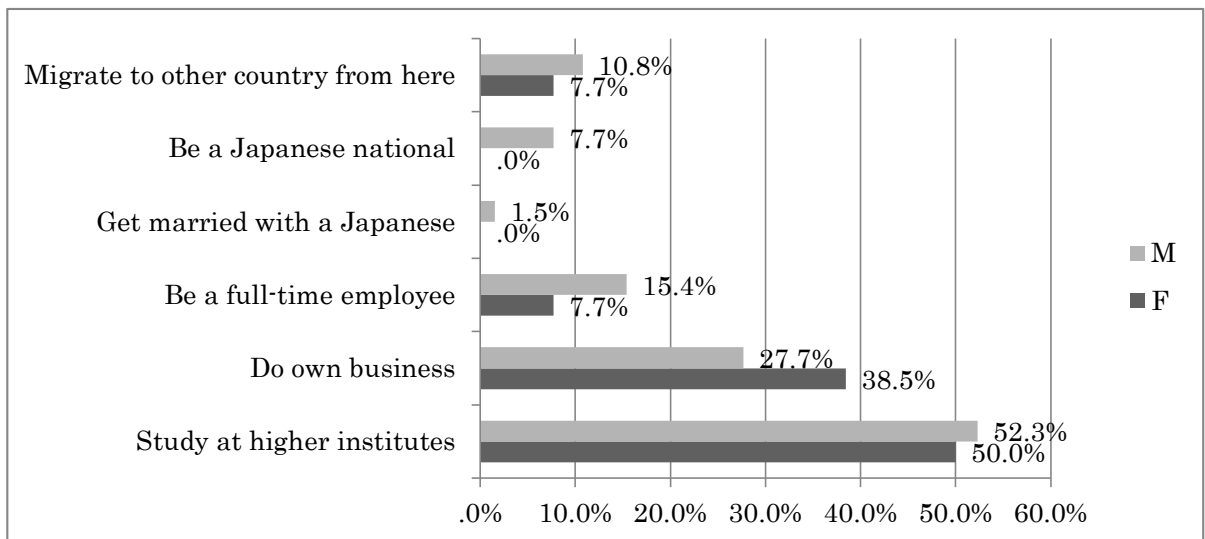
ジェンダー別に将来の滞在年数をみると、女性において未定と回答する者 (48.1%)、1～5年の滞在計画 (33.3%) が相対的に多く、男性において5～10年 (25.4%) をあげる者が多い (図 9)。

図 9 ジェンダー×滞在予定年数



将来の計画を男女別にみると、男性において女性よりも相対的に多かったのが、上級学校で学ぶ (52.3%)、正規雇用者になる (15.4%)、他の国に移動する (10.8%) であった。他方、女性において男性よりも多かったのが、事業をする (38.5%) であった (図 10)。

図 10 ジェンダー×将来の計画



上記結果より、(1) 経済的上昇を求める相対的に学歴が低い者、(2) 経済的上昇だけでなく生活の質の向上、可能性の拡大を求める中・高学歴者が来日していることが推察された。特に、男性は技能を身につけお金を稼ぐという目的が、女性は家族による呼び寄せが主たる来日の理由になっていることが推察された。

2. 帰国者への質問紙調査の分析

ネパールを離れた理由については、多い順に「家族の助言に従って」(22.5%)、「就業機会の欠如」(22.5%)、「専門を学ぶ教育機関の欠如」(20.2%)となっている。ジェンダー別に違いがみられたものは、「専門を学ぶ教育機関の欠如」(7ポイント差)、「家族の助言に従って」(6ポイント差)、「友人や同僚の助言に従って」(22ポイント差)で、いずれも相対的に男性に多くみられた。

日本を選んだ理由については、多い順に、技能を身につける(23.6%)、お金を稼ぐ(18.0%)、家族による呼び寄せ(16.9%)、日本語を習得する(15.7%)、日本の文化を学ぶ(14.6%)であった(n=89)。ジェンダー別に多少の違いがみられたものは、「家族による呼び寄せ」、「日本語を習得する」であった。前者は、女性に多く(14ポイント差)、後者は男性に多くみられた(8ポイント差)。

表 9 日本を選んだ理由 (%) (n=89)

理由	%
技能を身につける To learn particular subjects/skills	23.6
お金を稼ぐ To earn money	18.0
家族による呼び寄せ Invitation by family/relatives	16.9
日本語を習得する To learn Japanese language	15.7
日本の文化を学ぶ To learn Japanese culture	14.6

3. 帰国者をあわせた分析

滞在者、帰国者への調査結果双方をあわせて分析してみると、若い世代において雇用機会の欠如、教育機関の欠如を挙げる人の割合が高かった。特に1990年代生まれにおいて「そうだ」と回答した者の割合が高い。「雇用機会の欠如」については90年代生まれにおいて「そうだ」と回答した人の割合が44.4%であり、2番目に多かった60年代生まれの30.8%と比べても14ポイント近く差がある。同様に「教育機関の欠如」についても90年代生まれにおいて回答者の割合が31.1%となっており、2番目に割合の高かった80年代と比べると、10ポイント近く差がある。「家族の助言」についても90年代において37.8%、2番目に多い60年代における23.1%と比べても13ポイントの差がある。

また、ジェンダー別にみると、男性において雇用機会、教育機会の欠如を挙げる人の割合が高く、女性においては家族の助言を挙げる人の割合が高い。雇用機会の欠如については、男性において37.3%、女性において25.0%があてはまると回答している(n=182)。教育機会の欠如については、男性において23.6%、女性において13.9%があてはまると回答

している (n=182)。家族の助言については、男性において 13.6%、女性において 29.2%が
あてはまると回答している (n=182)。

学歴別にみると、雇用機会の欠如をあげる人の割合は、相対的に学歴が低い人に多い。
具体的には、10 年生まで (Lower Secondary) において 50.0%、学士/学部
(Bachelor/Undergraduate) において 40.0%であった。他方、教育機関の欠如を挙げる人
の割合は、上級中等学校 (Higher Secondary10+2) 以上の学歴のある者に集中していた。
具体的には、上級中等学校 (Higher Secondary10+2) において 24.2%、学士/学部
(Bachelor/Undergraduate) において 21.8%、修士課程以上において 18.4%で、その他の
学歴レベルでは該当者はいなかった。同様に、家族の助言に従っても中等教育修了資格取
得以上に集中している。具体的には、中等教育修了資格取得で 16.7%、上級中等学校 (Higher
Secondary10+2) で 27.0%、学士/学部 (Bachelor/Undergraduate) で 25.9%、修士課程
以上で 2.6%であった。

日本を選択した理由について、帰国者、滞日者をあわせて分析したところ、多い順に技
能を身につける (30.7%)、日本語を習得する (25.0%)、家族による呼び寄せ (22.9%)、
お金を稼ぐ (19.8%)、日本の文化を学ぶ (17.7%) が挙げられた (n=192)。

世代別にみると、若い世代においてあてはまると回答した者が多いのは、日本語を学ぶ
(43.5%)、技術を学ぶ (37.0%) であった。1960 年代生まれと比較すると、それぞれ 31
ポイント、6 ポイントの差がある。逆に、1960 年代生まれにおいて多かったのが、お金を
稼ぐ (38%) である。

ジェンダー別にみると、女性よりも男性に相対的に多かったのが、ネパール人の友人・
同僚による呼び寄せ、技術を学ぶ、お金を稼ぐであった。それぞれ、10 ポイント、6.7 ポ
イント、6.3 ポイント差がある。逆に、男性よりも女性に相対的に多かったのが、安全を
期待して、日本の文化を学ぶ、奨学金が得られやすいであった。それぞれ、5.4 ポイント、
4.0 ポイント、2.6 ポイントの差があった。

以上の分析からは、(1) 経済的上昇を求める相対的に学歴が低い者、(2) 経済的上昇だ
けでなく生活の質の向上、可能性の拡大を求める中・高学歴者が来日していることが推察
された。滞日者の中には、以前のような出稼ぎという強い動機はなくとも、機会や選択の
幅を広げる可能性に希望を託し、「とりあえず」来日した者もいることがうかがえた。先行
研究で指摘されているように、ネパール国内の雇用機会の減少、国内の高等教育機関の不
足がプッシュ要因になっているといえる。また、世代、ジェンダー、学歴によって来日の
目的、日本を選んだ理由が異なることがわかる。

第 4 節 日本を選んだ理由：聞き取り調査から

福岡県内にある日本語学校生 N さんや R さんは、聞き取り調査⁸のなかで日本を選んだ

理由について、「イギリスやオーストラリアの学校に行けなかった」、「ネパールで紹介された学校だったので選んだ」と述べ、強い来日希望があったわけではないことをうかがわせた。

Nさん（男性、22歳、ジャナジャティ、日本語学校生）

イギリスやオーストラリアに行きたかったが、行けなかった。最後の選択肢で日本にきた。福岡県についても全く知らず、ネパールで紹介された学校だから選んだ。福岡はビザがとりやすいと聞いた。日本語検定のN4やN5レベル⁹を合格しないと東京には入れない。日本に来るための簡単な方法なのではないか。沖縄も簡単。日本語学校も数多くある。物価は安い、時給は低いので、よいともいえない。

Rさん（男性、22歳、ジャナジャティ、日本語学校生）

ネパールでの日本語学校の説明会で現在の学校の校長先生の話聞いた。そして、ここを選んだ。日本が初めての海外。イギリスやオーストラリアに行きたかったが、結局日本に来た。聞いたところでは、イギリスやオーストラリアは大変なようだ。2年後にネパールにかえって、もう一度、日本の学校に入り、日本に住みたい。日本のように忙しい生活が好きだから。ネパールでは仕事がない。

第4章 移動の背景

第1節 ネパール側から見た日本

1. 他国との比較

ネパールの移住研究の第一人者で「ネパール移住年鑑」(Nepal Migration Year Book)を発行する Nepal Institute of Development Studies (NIDS)の創設者でもある Gurung は、ネパールから見た移住先の特徴を表10のように分類する¹⁰。

表10 ネパールから見た各移住先の特徴

移住先	特徴
① アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアなどの英語圏	高い英語力が求められ、看護師など専門職であれば就労機会は多い。渡航前に英語力や専門職としてのスキルを身に着的けるための投資が必要であり、そのための経済力があることが前提になる。
② 非英語圏欧州諸国	渡航後に現地語を学ぶ必要があるため、生活が安定するまで時間がかかるが、移住者のための言語教育を受けた後、大学・大学院を経て、現地で民間企業に就職している者 ¹¹ もあり、安定した生活を営むチャンスもある。
③ 日本と韓国	日本は渡航時の語学力のハードルが低く、留学、就労、技能実習生など留資格の選択肢が多様。就労の場合は家族滞在資格を得やすい。 韓国は、留学より就労や結婚目的での移住が多い。移住者に対する政策など日本とは異なるため同様に扱うことはできないが、渡航前の経済階層は、日本を目指す人たちと近い。
④ マレーシアと湾岸諸国	多くは家族や知人、斡旋会社を介して就労目的で渡航。苛酷な労働環境下での事故が報じられているものの、①から③と比べて渡航にかかる費用が安いことから、高等教育を受けた若者にとってハードルの低い渡航先である。
⑤ インド	農村での季節労働など一時的な形態から、長期にわたるものまで様々。渡航に手数料がかかることは少なく、学歴も求められない場合が多いため、未就学者や中途退学者にとって、選択しやすい移住先である。

日本が①②と④の間にあることは、ネパール政府のデータからも読み取れる。労働・雇用省海外雇用局によれば、2006/07年度から11/12年度にかけて就労目的で日本に渡航した

人は女性 320 人、男性 5,076 人の計 5,396 人で、カタール、マレーシア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、クウェート、バーレーン、オマーン、韓国に次いで、9 番目に多い。一方、①②への渡航者は極めて少ない。

ネパールでは富裕層の多くが、英語を仲介言語とする私立学校に子どもを通わせており、都市の名門私立学校出身者は、留学であれ就労であれ、前項の①もしくは②を目指す。近年、地方にも私立学校が増えたことにより変わりつつあるものの、日本に渡航する人は、①②を目指すグループと比べればネパール語で教育を受ける公立校出身者が多いと考えられる。

教育省が留学希望者に対して発行する書類の発行数によれば、2009 年度には、日本は、オーストラリア、イギリス、アメリカ、キプロスに次いで、ネパールからの留学先の 5 位であった。13 年はオーストラリア、日本、インド、マレーシア、アメリカと順位が変わっており、15 年現在日本は 1 位である。この背景には、各国の政策の変化があり、日本の場合、後述する日本語学校側の事情がある。また学生の側は、特定国を目指すより、留学ビザの取得が容易であり、できるだけ少ない費用で渡航できるところ、つまり「行けるところに行く」（濱田 2014：37）傾向がある。日本の語学学校や専修学校による現地での広報活動の活発化に呼応して日本を目指す学生が増えている。

日本を含む③は、①②と④の間にある渡航先である。韓国は、留学より就労や結婚目的での移住が多く、ネパール人移住者の構成や移住者に対する政策など日本とは異なるため同様に扱うことはできないが、渡航前の経済階層としては近いと考えられる。

留学、就労ともに上位に入っているのはマレーシアと日本だけである。ただし、マレーシアは、就労目的が圧倒的に多く、留学目的はごく僅かである。日本への渡航は、在留資格が留学であっても、アルバイト中心の生活を送っているなど、生活実態として就労目的と大差ない場合がある。また当初の在留資格が留学であっても、卒業後就職して資格変更をする人もいるため、留学と就労の境界が流動的であることが日本への移住者の特徴である。また、日本は納税証明書の提出によって扶養可能な所得があることが証明できれば、家族滞在資格¹²で呼び寄せが可能である点も異なる。

第 2 節 日本側から見たネパール

1. 急増するネパール人留学生

日本側からのプル要因について述べる前に、まずネパール人留学生の増加の推移を見る。表 11 は日本学生支援機構による「外国人留学生在籍状況調査結果」と文部科学省「留学生受け入れの概況」からネパール出身者のデータを取り出したものである。2014 年度は、高等教育機関の在籍者が 5,291 人、専修学校を除く日本語教育機関の在籍者が 5,157 人の計 10,448 人で、中国、ベトナム、韓国に次いで多く、増加率が最も高い国の一つである。高等教育機関に限ってみると、01 年からの 14 年までの 13 年間で 18.7 倍に増えている。

表 11 ネパール出身留学生在籍状況（2001年から14年）

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
高等教育	283	307	344	462	617	998	1,309	1,476	1,628	1,829	2,016	2,451	3,188	5,291
日本語教育	-	-	-	-	-	-	-	-	-	752	957	1,150	2,619	5,157
合計										2,581	2,973	3,601	5,807	10,448

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO) 学生支援に関する各種調査「外国人留学生在籍状況調査結果」より作成

11年に高等教育機関に在籍していた2,016人の内訳は、大学院300人(16.4%)、学部485人(24.1%)、短大23人(1.1%)、専修学校1,175人(58.3%)、準備教育課程3人(0.1%)で、かつ全体の5%にあたる100人が国費留学生である。つまり、ほとんどが私費留学生であり、過半数は専修学校に在籍者である(佐藤2012:22)。

なお、09年までの在留資格種別は、大学生・専修学校生が「留学」、各種学校在籍者が「就学」に分かれていた。日本語学習者でも大学の留学生別科や専修学校の日本語科の学生は「留学」、それ以外の日本語学校に通う場合は「就学」となっていた。10年7月1日に「出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律」(以下、「改正法」)後は「留学」に一本化された。

次に示す表12は、2014年時点での上位5カ国・地域の日本語教育機関在籍者数の推移を示している。ネパールは、03年に初めて10位に登場し、14年までの11年間に29倍増えた結果、韓国や台湾を抜いて3番目に在籍者の多い国となった。なお、表12の日本語教育機関在籍者と表11のネパール出身学生数が一致しないのは、それぞれの調査の対象や回答した学校が異なるためと考えられるが、増加の傾向は理解できる。

表 12 日本語学校生の出身・地域別の推移（2003年から14年）

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
中国	31,669	23,482	11,986	16,067	15,798	17,968	26,632	29,271	22,408	18,093	18,250	16,118
ベトナム	298	532	1,004	876	646	607	847	1,087	1,410	2,039	8,436	13,758
ネパール	164	318	663	599	495	517	839	943	1,221	1,371	3,095	4,779
韓国	7,023	7,137	7,512	8,060	9,235	10,528	8,360	6,708	3,484	2,675	2,386	2,081
台湾	1,064	1,127	1,295	1,518	1,890	2,228	2,304	1,924	1,395	1,425	1,425	1,837

一般財団法人日本語教育振興協会「日本語教育機関の概況」より作成

中国、韓国、ベトナムでは、日本に留学し、日本語を身に着けることがその後の雇用機

会につながると考えられるが、日本語学習者の動機が、ネパールで日本語を生かす機会は乏しい。日系企業が少ないネパールでは観光業を除くと日本語を生かす機会は少ないが、それにも関わらず、日本への留学生が増加した背景として、日本からのプル要因の結果増加した現地の日本語学校について次に述べる。

2. 送り出し機関としての日本語学校

ネパールからの移住者送り出しには、家族や親戚、知人の他、斡旋機関、人材派遣会社などが関わっているが、日本への移住の経路また情報源として、語学学校の存在が大きい。首都カトマンズの中心部だけで日本語学校と斡旋機関を合わせて 500 以上あると言われる¹³。新聞広告や校内の掲示物には、日本国内の提携校が記され、日本からの出張者が学校説明会を開く学校もある。

2015 年 2 月の現地調査では、カトマンズ、ポカラ、チトワンなどの主要都市だけでなく、中西部のネパールガンジや東部のビルタモードなど地方都市にも日本語学校やその分校、斡旋機関が複数あることを確認している。地方から直接日本に渡航する準備ができるようになっていることがわかる。

現地の日本語学校に入学する学生の多くは、6 カ月間の初級クラス終了後に日本への渡航を目指すため、平仮名、片仮名、120 字程度の漢字を教え日本語能力試験のうち最も難易度が低い N5 の合格を目指す初級クラスのみ開講している学校が多い。1 クラスあたりの学生数は学校によって異なるが、カトマンズ市内の学校の場合、5 名程度学生が集まれば随時開講している。12 年生までの中等教育修了後に仕事をしながら学ぶ人が多いため、学校も朝と夜のみ授業を行っている。在籍者は数名から数十名程度で、規模は小さい。経営者や教師は、日本語学校や専修学校に留学して帰国した人たちで、最も難易度が高い N1 に自身が合格している人は少なく、上級コースを教えられる人材は少ない¹⁴。

かつては月 1,000 円程度の授業料が一般的であったが、留学生を受け入れる日本側の語学学校から学生一人当たり 10 万円から 20 万円の手数料が支払われるようになっている。これを収入源として、授業料を一切無料にしている学校もある¹⁵。日本側から現地校に支払われる手数料は、日本からのプル要因の一つである。

学生は入学金や授業料を支払わねばならないものの、アメリカの大学の年間の学費が 400 万円程度することを考えると、日本は安価な留学先と言える。また、「留学」の在留資格をもつ者は、週 28 時間以内（長期休業期間中は 1 日 8 時間以内）の就労が許可されていることもプル要因である。後述の事例のように、実際には困窮している学生もいるが、働きながら自分で学費や生活費を稼ぐことができる渡航先だと考えられている。

3. 受け入れ機関としての国内の日本語学校

日本国内の日本語学校は、中国からの留学生が減少し始めたことをきっかけに、2005 年

頃からネパールで学校説明会など広報活動を行うようになった。13年度におけるネパール出身者 778名の進学率は 92.7%で、中国 85.7%、ベトナム 85.9%、韓国 39.8%、台湾 48.1%と比べると高い¹⁶。しかし、ネパール出身者のうち 672名は専修学校に進学しており、大学進学者は 88名、大学院進学者は 8名である。日本語学校卒業生のうち中国出身者は、大学と大学院進学者で半数以上を占めていることから、ネパール出身者の大学・大学院進学率は高いとは言えない。大学院に在籍するネパール人には、日本語学校を経由せず、英語で履修できるコースに直接入学する国費留学生が多いと考えられる。

来日時点では大学進学を目指している学生が多いはずだが、日本語習得が進まず専修学校に進学する人が多いのはなぜか。その理由として、来日後は、学校も住まいも、時にはアルバイト先もネパール出身の仲間と一緒に、日本語を話す機会が少ないという声を聞く。一般財団日本語教育振興協会¹⁷のデータベース登録機関全国 345校のうち、15年 8月現在、ネパール人が 50名以上もしくは 20%以上いる学校が千葉、東京、神奈川、香川、福岡、大分、沖縄に計 33校ある。うち 14校は福岡に、11校は東京にある。本研究では、東京と福岡で各 2校を訪問し、ネパール出身者の動向についてインタビュー調査を行った。

05年にネパールからの受け入れを開始した東京の T校は、14年末の在籍者計 400人のうち 97人がネパール出身者で、ベトナムに次いで多い¹⁸。その半数が女性で、大卒など高学歴の人が多くことが特徴であるという。日本語力に限界があるので、肉体労働以外にアルバイト先を見つけることが難しいが、日本に来るまで厳しい労働をしたことがない人もおり、仕事が続かない人がいるという。

同じく東京の U校には 45人が在籍しており、うち 11人が女性である¹⁹。ネパール出身者は出席率が比較的高く、トラブルを起こす人は少ないものの、家賃の滞納や、学生同士で借金をするなど経済的な困窮は見受けられる。就職や大学進学を果たした学生もわずかにいるが、専修学校に進む人が大半で、目標が明確でなく学習意欲が低い学生も若干いるという。

福岡の F校は、07年にネパールからの募集を開始し、15年現在 173人が在籍しており、44人が女性である。卒業生の中には帰国後に起業し、日本向けの映像編集ビジネスを行っている人もいるが、多くは日本で専修学校か大学に進学している。ネパール出身者同士でもカーストの違いによって、一緒に座れないと言ったり、(出自がわかるため)フルネームで呼ばれることを嫌がる学生がいた。学生寮で同室者の組み合わせを考える際に気を配っているという。

いずれの学校も、ネパール側の学校と提携して募集を行っており、その学校とは緊密な連絡を取っている。日本語学校側にとって、ネパール出身者は受け入れやすいと考えられているようだが、学生はどのように暮らしているのか。東京の T校に通う女性 Lさんを紹介する。

事例 1：東京の日本語学校生—ゆらぐ滞在目的

1984 年生まれの L さん（31 歳）は、人権関連の NGO 職員をしていた 2008 年に研修で来日したことがあり、修士号取得を目指して 14 年 7 月に再来日した。渡航前の半年間、カトマンズ市内の日本語学校に通い、そこで紹介された東京都の郊外にある T 校に、入学金と 1 年目の学費等を合わせて 100 万円相当を支払った。午後のコースに所属し、12 時から 16 時まで週 5 日間授業を受けている。

来日後すぐにアルバイトを見つけることができず、2 カ月目にスーパーマーケットに出荷する野菜の袋詰めの仕事をした。朝 4 時に起床し、電車でアルバイト先に出かけ、6 時から 11 時まで週 4 日働き、月 85,000 円の収入になる。支出は 3 万円が家賃や光熱費、2 万円は食費、3 万円は通信費・交通費・雑費で、貯金は全くできていない。

15 年 5 月に 2 年目の学費 50 万円の納入期限がきたが貯えがなかったため、専修学校に通うネパール人同窓生たちから、無利子でひとりあたり 5 万円から 20 万円を借りた。同級生のひとりが、英語で学べる大学院が少ない日本での進学を諦めて帰国したので彼女も帰国を考えたが、途中帰国は 1 年分の学費を無駄にすることになると学校側に言われ、留まることにした。卒業までに日本語能力試験の N1 に合格する見込みがないため、16 年度は大学の留学生別科に通って日本語学習を続け、17 年春に大学院に進学したいと考えている。アルバイトの時間を増やすことはできないため、在学中に 50 万円を返済することは難しく、今後の学費を捻出するあてもない。しかし、借金を残して帰国することはできないので、時間給の高いアルバイトを見つけて日本で暮らし続けるほかないと考えている。

ネパールでは社会活動に関わり、他者のために働く満足感があつたが、今は日本語習得への焦りと金銭上の不安で、精神的に追い詰められている。来日当初はネパールにいたときより生活が良くなったと感じていたが、時間が経つにつれ、日本で何が得られるのか不安が高まっている。目的が日本語の習得や学業ではなく、借金の返済に変わっていくことが危惧される。

4. 留学生の就職

日本語学校の在籍は最長で 2 年までで、その間に日本語を習得し、進学する場合は入学金等を準備しなくてはならない。帰国する人は少なく、大半は進学を選ぶ。大学・大学院よりも専修学校に進学する人が多いが、留学生が就職・起業した場合、在留資格を変更する必要がある。表 13 は、在留資格を留学から就労に変更した人数の推移である。変更許可申請が認められた人の国籍・地域別順位で、ネパールは、中国、韓国、ベトナム、台湾に次いで 5 番目に多く、統計が公開されている 2002 年から 14 年の間で計 1,614 人が留学からの在留資格の変更が認められている。高等教育機関と日本語学校在籍者数が合わせて 500 人程度だった 03 年当時、就職した学生はわずか 16 人だが、両者を合わせて 1 万人を越えた 14 年には 278 人が日本国内にとどまって就職や起業の機会を得ている。12 年間で 14.6

倍になっており、増加は目覚ましい。しかし、日本語もある程度身に着けていると考えられる高等教育機関の在籍者が 02 年から 14 年までの 12 年間で 17.2 倍になっていることを考えると、日本に留まって働く機会を得やすくなっているわけではない。

表 13 在留資格を留学から就労資格に変更したネパール人の変更先種別と人数の推移

在留資格	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
人文知識・国際業務	7	8	12	9	22	26	75	96	73	93	134	185	180
技術	5	4	10	9	17	25	69	52	27	31	61	80	82
教授	5	3	3	4	6	6	5	9	14	8	7	9	6
投資・経営						3	6	13	19	15	20	18	7
研究	2	1	1	2		2	3	1	3		1	1	1
教育						1	1	2	5	2			
医療			1				2						
技能			1										
その他											1		2
合計	19	16	28	24	45	63	161	173	141	149	224	293	278
全体に占める割合(%)	0.6	0.4	0.5	0.4	0.5	0.6	1.5	1.8	1.8	1.7	1.5	2.5	2.1

法務省「留学生等の日本企業等への就職状況について」2002 から 15 年より作成

事例 2：短大、専修学校を経て、正社員を経験

カトマンズのホテルで働く女性 S さん(31 歳)は 2005 年から 13 年まで日本で過ごした²⁰。渡航前に日本語を学び、奨学金を得て日本の短大を卒業後、観光業の専門知識を身につけるべく専修学校に進学した。就職するまでに、28 か所もアルバイトを経験したが、卒業後は旅館に正社員として採用され、2 年間働いて帰国した。食事や寮の提供はあったが、給与は繁忙期に 20 万円、閑散期は 10 万円ほどしかもらえなかった。正社員として働いたことは運が良かったと思っているが、自分だけが正社員で、他の日本人は派遣社員であった。

彼女の場合は、短大に直接留学できるだけの日本語力を身につけてから渡航したこと、また短大の奨学金を得ることができたため、学費の心配はなかった。また、日本で何を学ぶか明確で、専修学校卒業後も望んだ仕事を見つけることができた。給与額は不安定ではあったが、頻繁に日本国内を旅行する自由や時間は確保できた。自己の内面にある力や、管理・保有・制御・行使に関する力は拡大したと言える。

人間らしい仕事という意味では、彼女は賃金など雇用条件においては国籍差別を受けず、達成できているが、彼女よりも低い待遇で働く日本人の同僚との人間関係には悩んだ。派遣社員という日本の雇用の仕組みに困惑し、自分が外国人でかつ正社員であることが関係

を難しくしたと感じている。他者との対等な関係を築くことは困難であったと思われる。

専修学校に在籍する私費留学生の多くは、学費を工面するためのアルバイトに時間をとられている。Sさんの場合は卒業後に正社員として就労する機会を得たので、日本に長く滞在したが、専修学校卒業後の進路に希望が持てず、退学して帰国した人もいる。

5. 技能実習生

就労目的の渡航に関して二国間協定が存在すること自体、移住を促すプル要因である。ネパールと日本の間では、2009年に公益財団法人国際研修機構（Japan International Training Cooperation Organization: JITCO）が運営する「技能実習生制度」に関する二国間協定が締結された²¹。この制度は、賃金不払いや低賃金労働、携帯電話の所持禁止など人権侵害の温床となることが指摘されており、米国国務省の人身売買年鑑でも取り上げられる。ネパールの送り出し機関への聞き取りでも、同様の指摘がなされているが、本稿ではネパールからの実習生に関する点のみ取り上げる。

二国間協定の締結以前の2006年に11人、07年に14人、08年に21人、09年には48人が個人としてこの制度を利用している。制度の運用が始まった10年には60人に増加しているが、中国、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイなど年間1,000名以上送り出している国と比べて少なく、JITCOの国籍別統計では「その他」として集計されている。

ネパール政府側の窓口である労働・雇用省（Ministry of Labour and Employment: MOLE）海外雇用局（Department of Foreign Employment: DOFE）側の資料では、15年2月までに女性324名、男性330名、計654名がこの制度を利用したことが記録されている²²。ネパール全土75郡すべてから実習生が送り出されており、男性は最も多いゴルカ郡でも23名だが、女性はマクワンプル郡から全体の34%にあたる111名が送り出されており、次に多いカスキ郡の19名と比べて大差がある。マクワンプル郡出身の女性実習生の経験を紹介する。

事例3：技能実習生から日本人との結婚へ

Sさん（27歳）は、大分県の農園で3年間働いた²³。来日前は先住民団体の職員だったが、先に技能実習生として日本で働いていた妹の仕送りで日本語を学び、自分も来日した。

朝7時から夕方4時まで週6日働き、82,000円の収入があった。住まいは提供されていたので、支出は月2万円で済んだので、残りはすべて実家に仕送りした。インターネットや電話が使えたのは休日の1時間だけで、外出も食品など買い物のために週1時間認められただけだった。ネパールからは女性4人、男性1人の計5人が同じ農園に派遣されたが、自分以外は、試験に合格せず帰国したり、失踪していなくなった。実習期間を終えて一旦帰国した後、農園の同僚であった日本人農業実習生と結婚し、現在は日本で暮らしている。

厳しい労働や自由を束縛される生活に耐えられず、失踪する人は跡を絶たないが、彼女

と同じ先住民コミュニティから技能実習生として働き続ける人が 7 人いる。ネパール語を母語としない彼女たちは、ネパールで待遇の良い職に就くことは困難だが、日本ではネパール語を母語とする人と比べたハンディはなく、辛い労働にも耐えて、十分な仕送りができたことに満足している。上昇志向の高い人にとって、技能実習生という選択肢は留学より劣位の選択肢と見られがちだが、来日ルートと満足度にはそれほど相関関係はないのではないかと。

JITCO の WEB サイトに掲載されている認定された送り出し機関は、2015 年 7 月 1 日現在、首都カトマンズと隣接するラリトプール市に計 124 ある。14 年 6 月 2 日時点では 76 機関であったことから、1 年間で大幅に増加していることがわかる。以下、本調査に唯一協力を得ることができた N 社²⁴への聞き取り²⁵から現状と問題点を述べる。

ネパールで「マンパワー・カンパニー」と呼ばれる人材派遣会社は、日本語学校と異なり、マレーシアや湾岸諸国など複数国への送り出しに関わっている。05 年創業の N 社は、マレーシアと中東に 13,000 人以上をすでに送り出し、13 年に日本への技能実習生の送り出し業務に参入した。14 年末までに計 40 名の男性を、鳶や建築大工など職種で首都圏と神戸に派遣している。事前の語学研修用に日本語学校を併設しており、JITCO 派遣業務は日本に滞在経験のある女性が担当し、モニタリングのため年に数回日本に出張している。送り出し機関は、実習生が途中で帰国したり、失踪した場合など、受け入れ側の協同組合から罰金が科される。N 社では実習生の渡航後もスカイプで頻繁に連絡をとるなどケアに努めているが、それでもなお、難民申請手続きを代行するブローカーに騙されて、研修先から失踪する者が跡を絶たない。ブローカーの取り締まりや、実習生の待遇改善など日本側で対処すべき問題があると考えている。

事例 4：技能を生かす場を探して

N 社から大工の実習生として栃木県に派遣された男性 G さん（30 歳）の職場には、他に 3 人ネパール人がいたが、うち、ひとりはいづつ病になり 3 カ月で帰国した。彼自身は派遣先のインド人社長に気に入られ、技能ビザを取得して再渡航する予定である。大工の仕事は好きだが、日本とネパールでは道具も工法も違い、技能を生かすことは難しいと考えている。

同社から鳶職の実習生として派遣され、千葉県で暮らした男性 B さん（28 歳）は、1 カ月あたり 11 万から 17 万円の収入を得ていた。寮での日本人の同僚との同居生活に馴染めず、途中で帰国したネパール人実習生もいたが、彼は地域の行事に積極的に参加して日本に馴染むよう努めた。帰国後は鳶の技能を生かす場がないので、日本語学校を始める予定でいる。

技能実習生制度は、彼らが帰国したときのキャリアに生かしづらいというミスマッチだけでなく、滞在中の居住環境や労働環境に問題があることは明らかである。ネパール側の送り出し機関もこれらの問題点は理解しているものの、他の形態での渡航に関する二国間協定はないため、送り出し機関としては、この制度の継続・拡大は望んでいる。

また日本で「外国人家事労働者特区法」が可決したことを受け、ネパールから家事労働者を日本に送り出すためにすでに動き出している現地の人材派遣会社もある。苛酷な労働環境が予想されることや、人身売買の温床にならないかといった問題点が指摘されており、ネパールから日本に向かう新たなプル要因となることが懸念される。

第5章 来日後のセーフティネットやサービスの活用

日本で暮らす上での不安、もしくは日本からの帰国理由として、調査対象者が就労と並んで多く挙げたのは、教育と出産や病気の治療に関する問題である。以下、ネパール人コミュニティ内や日本の組織による情報提供や、教育機関や保健・医療・福祉分野でのサービスとその利用について述べる。

第1節 ネパール人コミュニティ

駐日ネパール大使館は、長期滞在する人にも大使館での登録義務を課しておらず、日本で利用できるサービスに関する情報提供も積極的には行っていない²⁶。

滞日ネパール人が結成した組織として、海外在住ネパール人協会（Non-Resident Nepali Association: NRNA）やネパール人留学生協会（Nepalese Students' Association in Japan: NESAJ）など、比較的安定した在留資格を取得している人の全国組織と、相互扶助を目的に居住地で結成されたグループ、出身郡毎の同郷人会、民族・カースト毎の団体、政党の日本支部がある。NRNA 傘下の女性部会の他、若者や女性といった属性別の同好会的なグループはあるが、いずれも数名から数十名の小規模で、成員も流動的である。これらの組織は、ダサインなどネパールの祭事に合わせた定期的な行事の開催以外に、日本で死亡した人の遺体の搬送費を集めるような互助活動を行っている。こうした組織のリーダーは、レストラン経営者など雇用側が多く、コックとして働く人などが、賃金未払いなど労働問題を相談することは難しい。

日本で発行されているネパール語の新聞 Nepali Samaachar は、滞日ネパール人コミュニティの情報交換を目的に発行されている。インターネットがまだ普及していなかった1999年の発刊当初は、ネパールの政治ニュースを発信することが主な目的とし、有志が500人の会員にFAXで送信していた。2010年にGMTインターナショナル社を設立してからは、月2回、5,000部を発行している。北海道から沖縄まで年間5,000円を支払う購読者がいるほか、ネパール人が多く利用する公共施設では無料配布をしている。タブロイド判8ページに、ネパールや日本での出来事のほか、求人や外国送金、ビザ取得代行の広告などが掲載されている。同社はWEBでのニュースサイトやインターネットラジオも運営している。

本研究の調査では、上記いずれの組織にも加入していない人が大半を占めていることが明らかになっている。滞日ネパール人の居住地は全国に広がっており、民族やカーストの出自、年齢層、在留資格による多様性が大きいことを考えると、これらの組織の加入率を上げることよりも、日本人もしくはネパール人以外の外国籍住民との関係を深め、居住地のサービスを活用できるようになることのほうが現実的だと考えられる。しかし、来日から日が浅く日本語でのコミュニケーションが困難な人にとってそのハードルは高く、ネパ

ール語の WEB サイトやラジオは重要な情報入手の手段である。

第 2 節 日本の組織による情報提供や相談

1. 自治体

一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の「多言語生活情報」は 14 言語で発信されているが、ネパール語は入っていないため、全国どこにいてもネパール語で生活情報を入手できる状態にはなっていない。仙台市などネパール語で情報提供を行っている自治体でも、災害対策など分野が限られ、WEB サイトではなく紙媒体のみなど限定的である。新宿区は 2014 年度から「しんじゅく多文化共生プラザ」でネパール語での在留資格や生活に関する相談窓口を週に半日設けている以外、自治体がネパール語の相談を受け付けている例はない。

2. 民間団体

一般社団法人社会的包摂サポートセンターが運営している無料の電話相談「よりそいホットライン」は、2014 年より 9 番目の言語としてネパール語での相談を受け付けている。その内容は、生活全般、仕事や学校に関すること、性暴力やドメスティック・バイオレンスなど女性の相談などである。

武蔵野市の特定非営利活動法人国際活動市民中心（Citizen's Network for Global Activities: CINGA）は、在住外国人支援の一環として、弁護士や行政書士、社会保険労務士、精神科医などに専門家による相談会を都内で開催しており、ネパール語の通訳も配置している。

移住者支援に特化した団体には、移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）や非正規滞在者の問題を扱う Asian People's Friendship Society (APFS)、その労働相談部門が独立した APFS 労働組合があるが、これらの団体にはネパール出身者からの相談は少ない。レストランで料理人として働く人は、契約書と異なる待遇や賃金未払いなど問題を抱えている人も少なくない。しかし、在留資格が技能（料理人）である以上、他の職種で仕事を見つけることも難しく、転職するにしてもネパール料理店で働く可能性以外考えにくいいため、組合等に相談せず、そのまま働き続ける場合が多い。

その他、ネパール人と関係が深いのは、難民申請者への支援を行う認定 NPO 法人難民支援協会 (Japan Association for Refugees: JAR) やカトリック東京国際センター (Catholic Tokyo International Center: CTIC) である。ネパールからの難民申請者は、06 年の包括和平協定後も続く暴力や人権侵害を理由に、12 年 320 人、13 年 544 人と増加し、14 年には 1,293 人と国籍別で最多となった。15 年 5 月末現在、CTIC がサービスを提供している計 116 人のうち、男性 13 人、女性 5 人の計 18 人がネパール出身者で、ナイジェリアの計 24 人に次いで多い。ここでは、緊急シェルターの提供、医療を含む相談業務のほか、食糧・

衣類支援、日本語教室、なんみんカフェ（食事とおしゃべりの場の提供）を行っている。利用者は東京都内や栃木県に住む 20 歳代から 50 歳代までと幅広い。支援を受けるだけでなく、入国管理局に収容されている人の訪問ボランティアに参加する人もおり、他国出身の難民申請者との交流をしている。

日本政府は、ネパールの紛争は終結し迫害の恐れはないとして難民認定をしてこなかったが、15 年 4 月初めてネパール人の夫婦を難民として認定した²⁷。難民申請後撤回する人もおり、留学生や技能実習生が就労目的で申請する例が含まれていることが指摘されているが、CTIC 等で支援を受けた人の中には、申請時点でネパールに帰国した場合、迫害に遭う可能性が高かったにも関わらず、不認定となった人もいる。本稿では難民認定制度の問題は取り上げないが、難民申請者の中には、ネパール人コミュニティとの関わりを避けたり、心身ともに困難な状況にある人がいることは留意したい。

第 3 節 教育機関

日本で子どもに教育を受けさせることが困難であることを理由に、帰国を決意した人もいるが、近年、家族滞在者が増加に伴い、ネパール出身で就学期の子どもが在籍する学校は増えている。以下、東京都内の現状を述べる。

1. 私立学校

2013 年 4 月、東京都杉並区阿佐ヶ谷に主にネパール出身の子どもを対象としたエベレスト・インターナショナル・スクールが開校し、日本のメディアでも取り上げられた²⁸。2015 年度は、3 歳児から小学 5 年生までの 100 人以上が在籍している。日本語とネパール語科目以外は英語で授業を行うため、英語で教育を受けさせたいと考える日本人を両親にもつ子どもも通学している。授業料は月 4 万円で、他に入学金や送迎バスを利用する場合の交通費がかかるため、レストランのオーナーなど滞日ネパール人の中でも比較的所得の高い世帯の子どもが多い。一方、大使館職員や民間企業社員の場合、江東区のインド学校に子どもを通学させることが多い、高所得者層の中でのこの違いは今後研究すべき興味深い点である。

なお、日本語で教育を行う私立中学・高校にもネパール国籍の生徒が在籍している例を確認しているが、統計等がないため、本稿では割愛する。

2. 公立学校

東京都の公立学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童・生徒は、2014 年度の調査で計 2,306 人おり、うち 101 人がネパール語を母語としている²⁹。中国語、フィリピン語、英語、韓国・朝鮮語に続いて 5 番目に多い。ネパール語は、11 年からこの調査で上位 10 語

に入っており、家族滞在で子どもを同伴する例が増加していることがわかる。ただし、母語がネパール語以外の民族言語である場合「その他」として集計されるため、ネパール出身で日本語指導を必要とする子どもはこの調査結果より多いと考えられる。また、両親がネパール出身であっても、自身が日本で生まれ育ち、日本語指導が必要ない場合は、この調査の対象外である。

上記の調査には、公立中学校の夜間学級は含まれていないが、15年7月現在、東京都下8校のすべてにネパール国籍の生徒が在籍している。年度途中の入退学が多いため数は流動的だが、中国やフィリピンを抜いてネパール国籍者が半数を占めるところもある。9年間の義務教育を終えていないことが入学の条件であり、10代が多いが、20歳以上の生徒もいる。ほとんどが家族滞在ビザで来日しており、ホテルのベッドメイキングや空港の清掃員、弁当工場での作業員、もしくは親が経営するインド・ネパール料理レストランで働いている。10代の生徒の中には高校進学を目指す人も少なくない。

3. 補習校

外国にルーツをもつ子どもの学習支援は、NPOなどによって行われており、その形態は多様である。ここでは高校進学支援に特化して支援を行っている認定NPO法人多文化共生センター東京が運営するたぶんかフリースクールの在籍者について述べる。同センターでは2010年頃からネパール国籍の子どもが在籍しており、近年特に増加傾向にある。最初の卒業生は都内の商業高校に入学した後、私立大学に進学している。

15年6月現在在籍中の5人はすべて女子で、いずれも来日1年未満だが、16年春に高校を受験する予定で、日本語での勉強に励んでいる³⁰。ネパールでは英語で教育を行う私立学校に在籍していた生徒が多く、中等教育修了資格試験（SLC）に合格している。日本でも英語で学校教育を受けられると誤解して来日した子もいる。兄弟はネパールで学校に通っており、自分だけ親と一緒に来日して看護師資格の取得を目指しているという女子もいる。親が日本に呼び寄せる子どもをどのように選択しているのか、別途調査が必要であるが、補習校には女子の在籍者も多いことから、必ずしも男子を優先して日本に呼び寄せているわけではないようだ。

第4節 保健・医療・福祉

1. 心身の健康

2014年下半期に移住先で命を落としたネパール人は世界中で461人おり、うち3人は日本で亡くなっている³¹。日本で活動する臨床心理士のビゼイ・ゲワリによれば、2011年から12年3月までに7人のネパール人が自殺している³²。男性5人のうち4人は技能ビザで来日したコックで、女性2人のうちのひとは留学生であった。推定される自殺の理由は様々だが、ゲワリは、移住者が母語で相談できる場所が少ないことや、日本語学校や専

修学校の学生も搾取の対象になりやすいこと、最低賃金を支払われていないコックの待遇の問題などをあげている。ネパールのメディアで、日本で事故や事件は、湾岸諸国やマレーシアほど取り上げられることは少ないものの、滞日ネパール人も心身の健康に関する支援を必要としていることがわかる。

「在日外国人の健康支援プロジェクト」を実施する特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会（以下、シェア）が東京都から委託を受けている「東京都外国人結核患者治療服薬支援員養成・派遣事業」では、2014年度に最も通訳派遣回数が多かったのはネパール語の43件で、06年からの14年までの9年間の総計は208件に上る。累計では中国語に次いでニーズが高い。ネパール語の結核に関する啓発パンフレットを作成して啓発活動も行っている。全国のエイズ拠点病院への調査でも、新患受診時にネパール語通訳が利用された件数は、上位10言語の中に入っている。

15年6月には、コックとして勤務していたレストランが閉鎖され、職と住まいを同時に失って路上で生活していた男性が、結核患者であることがわかり、病院に収容されたという報告がある³³。ネパールで胸部レントゲン検査を受けたことがある人は極めて少ない。来日後も定期健康診断が義務づけられている学校や職場に所属していない場合、病気になってから医療機関を受診することになる。そこではじめて国民健康保険の存在やその必要性を知った人もいる。関東甲信越地域での無料出張健康相談会には、来日後間もない人がやってくるが多く、国民健康保険に加入していない人もいる。コックなど、時間がない中、駆けつける人もおり、健康上の不安を抱えていても病院に行く余裕がないことがわかる³⁴。

帰国者への調査では「出産費用が心配だった」ことを理由に帰国したという回答を複数から得た。1994年から国民健康保険の加入者には出産育児一時金の支給制度があるが、その制度を知らなかった、保険に加入していなかった、オーバーステイであるため利用できないと考えたという。日本で出産した人の場合も、通訳はおらず、身振り手振りで説明を受けながらの出産は不安だったと語っている。脆弱な人ほど英語ではなくネパール語でのコミュニケーションを必要としている。医療機関でのネパール語通訳の需要は高いが、通訳ができる人材は限られており、対応が難しい地域もある。15年に難民支援協会が発行した「ゆびさしメディカルカード」など、日本語とネパール語を併記したツールの普及が求められる。

2. 高齢者への対応

永住資格をとり、東京で会社経営をしていた男性Iさんは、母親を家族滞在資格で呼び寄せたが、彼女は日本に馴染めず、日本の高齢者施設を利用することも困難であったため鬱病を患った。一家で帰国後、母親は健康を回復したが、今後は移住者の親のための入居施設をネパールで開設したいと考えている。

家族滞在の資格で来日するのは、子どもだけでなく、親の場合もある。ネパール側に施設が整わなければ、親を帯同することを選択する人が増えることが予想される。

3. ドメスティック・バイオレンスへの対応など人権保護や救済

インタビュー調査の対象者のうち、日本在住者の中に自身がドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence: DV）の悩みを抱えていると回答した人はいなかったが、帰国者の女性計 20 人のうちふたりは、DV の被害と離婚を経験していた。滞日ネパール人の組織は男性によって結成されたものが多く、外国語相談のネパール語通訳もネパール人男性が行っていることが多い。DV の被害者は、同じネパール人のコミュニティのメンバーに相談することが困難であり、特に男性には相談しづらい。しかし、各自治体の女性センターなどが設置している女性相談窓口で、外国語で相談ができる窓口は少ない。よりそいホットラインは DV に関してもネパール語で相談できる貴重なサービスだが、まだ普及の途上にある。相談できないままにいる女性も少なくないのではないかと。DV 被害に遭った M さんの例を紹介する。

事例 5：日本人男性と離婚した M さん

M さん（44 歳）は、20 歳代の頃、香港か韓国に行ってみたくと考えていたときに、ネパールに来ていた日本人男性と知り合い 6 カ月後に結婚して日本に移住した。間もなくして、夫が薬物中毒になっていることがわかったが、夫が逮捕されると自分ひとりでは暮らしていけないと考え、警察に通報できなかった。夫の知人や両親も知るところとなったが、夫が薬物中毒に陥ったのは自分のせいだと責められた。夫は M さんに対して「あほ」、「ばか」など侮辱する言葉しか発せず、精神的暴力の状態が続いた。結婚 2 年目に妊娠したが、自分がまだ日本に慣れておらず、育てるのに不安があったので中絶した。夫からは後々まで中絶すべきではなかったと彼女を責めた。

8 年目に子どもが生まれたが、子どもが最初に覚えた言葉が「ばか」だったのが悲しかった。自殺したかったが、子どものために我慢した。その後、夫が日本人女性と同棲し始めたのを機に、離婚する決意を固め、子どもの養育費を求めて裁判をしようとしたところ、夫は M さんの署名を偽造して一方的に離婚を成立させていたことが発覚した。夫が再婚し、日本には不在であることと、彼女を理解してくれる弁護士を見つけることができず、追認する他なかった。

現在、M さんは子どもとネパールで暮らしているが、夫からは養育費等一切支払われておらず、自分の収入は不定期でしか入らないので、時々日本に働きに行っている。実家の家族は彼女のことを理解してくれているが、夫には自分だけでなく家族の名誉も傷つけられたと感じている。

M さんは、日本語も堪能で日本人の友人・知人も多いが、結婚当初は日本語もよく理解

できず、夫の薬物中毒や精神的暴力の問題について相談できる相手はいなかった。離婚を決意してからは、弁護士に相談するために法テラスまで足を運んだが、裁判は行えず、泣き寝入りの状態になっている。DV などについて相談できる女性相談の窓口に行ったことはなく、存在を知らなかったという。

4. 同伴家族のキャリア形成

ここでは、移住による潜在能力の発揮について、移住先での経験と、帰還後に移住の経験をどのように生かしたかという点から検討する。質問紙調査と聞き取り調査のいずれでも、同伴家族として日本に滞在した男性は非常に少なかった。近年、技能（調理）の在留資格で女性が先に来日し、家族滞在という形で夫が後からやってくるパターンも見られるようになったが、未だに夫の後を追って妻や子どもが移住する方が多い。オーストラリアやイギリスなど、看護師として妻が先に渡航し、夫が従うカップルが一定数いる移住先とは異なる。以下、同伴家族として滞在した女性たちの移住先日本と帰還後のキャリア形成に関する経験を紹介する。

事例 6：日本に来て閉ざされた道

B さん（32 歳）は、博士号取得のため大学院に留学する夫とともに 3 年間の予定で日本に渡航した³⁵。ネパールの大学で臨床心理学を教える研究者であったことから、自分も日本に在籍中に博士号を取得したいと考えていた。夫の指導教員に相談したところ「博士論文を書くのは大変な作業です。ふたり同時に博士課程に進むと、夫に迷惑をかけることになりませんか。妻として夫が学位論文を書くのを支えなさい」と言われた。夫の留学先が日本でなく欧米であれば、こんなことは言われず、自分も同時に学位を取るチャンスがあったのではないかと思っている。

日本で大学院に進むことはあきらめて、仕事を探したが、最初は弁当箱に惣菜を詰める作業しか見つからなかった。しばらくして、幼稚園で英会話を教える仕事を見つけたが、ネイティブ・スピーカーと日本人教師のアシスタントで、自分は子どもたちのおむつを替える仕事など雑用しかさせてもらえなかった。ネパールでの経験を生かす仕事が見つけられず、侮辱されたような気分で過ごした。

その後、日本で妊娠・出産し、地域のボランティアの方たちにお世話になった。日本で多少でも働いたことは良い経験にはなったが、日本で 3 年間は過ごしたことで、キャリア形成のための大切な時間が無駄になったと思っている。子どもが生後 50 日で帰国し、今は子育てに追われているが、日本で博士号を取得し、ネパールに帰国して仕事を見つけた夫と自分を比べて焦っている。

B さんなど比較的若く、高学歴の女性たちは、子どもの頃から英語で教育を受け、日本へ

の移住前にインドなどの大学に留学した経験や、企業の管理職、大学の研究職を経験した人もおり、日本でその経験を生かせないことに苛立つ人も少なくない。同様の経験は男性もするが、夫の指導教員や同僚から妻として「内助の功」に徹すると言われる点で、女性のほうが特異な経験をしている。

事例 7：日本に適応するには日本女性のように暮らすこと

日本で暮らして 9 年になる P さん（33 歳）は、インドの大学院を卒業した後、ネパールの銀行で専門職として働いていた³⁶。エンジニアの夫とともに来日後、自分の経験を生かせる仕事を探そうとしたが、難しいとわかってから、パートタイムでパン屋の配達の仕事をしている。ネパールにいる父や米国に移住した弟が「今の暮らしに満足できるのか」、「アメリカなら仕事が見つかるのではないかと」、彼女を心配している。しかし、「自分までフルタイムの仕事をしたら、夫と子どもの生活が成り立たない。パートタイムで働く程度にして、家族を支えよう」と考えるようになった。日本に適応するには、近所の日本人女性と同じように暮らすのがコツだと考え、パン屋でのパートタイムの仕事をずっと続けようと思っている。

日本で自分の経験を生かす仕事が見つからなかったとしても、日本での滞在経験が、帰国後生かされることはある。次に見るのは、帰国後に自分で事業を立ち上げた女性たちの例である。

事例 8：起業して子どものための玩具をつくる

U さん（57 歳）は、香港で英語教師として働いた経験があり、夫の留学先の日本は二つ目の移住先だった³⁷。日本でも英語を教えたかったが、英語は頼まれたときに教える程度で、主にインド料理店でパートタイムの仕事をした。

日本で「奥さん」として暮らすことは、つらい経験だった。自分が自由に使えるお金が少なく、何を買うにも最初に値段を見なければならぬし、時にあきらめたりしなくてはならなかった。

保育園に通っていた息子の友だちの母親たちは、みな忙しそうなので、付き合うことができなかった。地域の高齢の人たちはとても親切にしてくれたが、助けてもらうばかりで、自分が彼らの助けになることができないことが残念だった。

それでも日本ではネパールにはないものをたくさん見た。保育園での連絡用のファイルの仕組みは素晴らしいと思ったので、帰国して 18 年も経った今でも大事に保管している。帰国後、子ども用の教材や玩具を作る仕事を始めた。安全な材料を使って、フェアトレード商品として生産しており、子どもの教育に関わる NGO や国際機関が顧客である。日本での経験ではつらいこともあったが、役に立っていることもあると感じている。

事例 9：自分の経験をもとにした移住者のための活動

ネパールで教員をしていた B さん（55 歳）は、90 年代のはじめ、日本に働きに行ったまま戻らない夫を訪ねて短期滞在資格を得て日本を訪れた³⁸。2 カ月間の滞在で日本が気に入ったので再び日本を訪れ、夫のいる静岡の工場で働くことにした。ある日ブラジル人女性が訪ねてきて夫の浮気が発覚し、相手の女性を恨んだ。その後、夫とは復縁したが、滞在から 2 年過ぎた頃、オーバーステイを理由に工場の制服のまま手錠をかけられて大阪まで移送された。ずっと泣き続けていたら、手錠は外してもらえたが、40 名くらいの様々な国からきた女性と一緒に施設に収容され、1 週間ほど過ごすことになった。全員がいるところで裸になってシャワーを浴びるように言われるなど、ひどい扱いを受けた。

帰国してから人権について学ぶ機会があり、自分が手錠をかけられたこともおかしいと考えるようになった。その後、移住者のための団体を結成して、人権侵害を受けて帰還した人の保護や、安全な移住に関する啓発活動をしている。

男性たちがネパールと移住先を頻繁に行き来できていれば、渡航先で他の女性と関係をもつこともないのではないかと、夫と関係のあったブラジルからの移住女性も日本での支えを必要としていたのではないかと思うようになった。フェミニストとしての考え方を身につけてから、責められるべきはブラジル人女性ではなく自分の夫ではなかったのかと考えるようになった。

現在、ネパールでは移住経験のある当事者の女性たちが、各地でグループを結成して渡航先での経験を共有したり、これから移住しようとする人に安全な移住について啓発活動を行っている。B さんは自分の経験を国内外で話し、移住者の人権保護の活動に関わるリーダーのひとりになった。教員に戻ることはなかったし、移住前から予定した活動ではないものの、B さんが生きがいをもって取り組む活動を始められたことはキャリア形成の一つにつながったと言えるのではないかと。

同伴家族として日本に滞在した女性たちは、地域の人たちの助けにより、日々の生活には困らなかったものの、キャリア形成など自己実現という意味では、不満も多く聞かれた。この点は、90 年代初頭に帰国した人から最近帰国した人までほぼ共通している。これはホスト社会の日本の側における女性の役割や、同伴家族としてやってくる移住女性への視線が変わっていないせいかと考えられる。

日本からの帰国後、日本語学校経営をしたり、何らかの事業を起こした人は、渡航前の学歴が比較的高い。彼女ら・彼らは、日本への移住者が少ないときに来日した人たちであり、現在急増している滞日ネパール人とは背景が異なると考えられる。学歴や出身の階層の面でより多様な人が日本を目指す中、今後日本から帰国する人がこれまでの人たちと同様に、経験を生かすことができるかどうか注視する必要がある。

第6章 どのような属性や資源をもつ人がどのような問題を抱えているのか

第1節 先行研究にみる在住外国人にとっての重要な資源

在住外国人にとって日本で生活する上で重要になる資源は何か。先行研究より、移動先での重要な資源として、移民ネットワーク、エスニック・メディア、移住社会とのつながり、言語能力が挙げられる。

移民ネットワークとは、先に移住している親族や友人との社会的ネットワークを指す。移住先の決定において重要な役割を果たすほか、移住後の仕事探しや相互扶助、セイフティネットとして重要な役割を担うという。樋口（2015）は、移民ネットワークのもつ機能についてまとめている。その機能とは、(1) 移民の促進機能、すなわち、移住にともなうコストとリスクを下げる機能、(4) 適応機能、ネットワークを介して提供される就労や生活の援助により移住先に適応しやすくなることを助ける機能である。受け入れ社会との関係が薄い移民にとって、ネットワークを介して得られる情報や相互扶助は移住先での命綱でもある（樋口 2015 : 34）。湘南台では、アルゼンチン系移民が経営するバーや弁当店、頼母子講が作られていった。経営者は頼母子講を、若者はバーベキューグループをつくり、人によって異なるニーズに対応した組織が形成され、こうした組織を介してつくられたネットワークが、資金調達や親睦、求人情報の交換といったかたちで適応機能を果たしているという（樋口 2015 : 35）。

エスニック・メディアとは、在住外国人向けの新聞、雑誌、ラジオ、テレビを指す。イシ（2012）は、エスニック・メディアが果たす役割として、言葉の壁の解消、日本社会の行政の監視役、コミュニティの言論形成、自己表現の場の提供を挙げる。エスニック・メディアは、受け入れ先において十分なネットワークをもたない人のセイフティネット、すなわち、社会生活全般に対し安全や安心を提供するための仕組みの役割を果たしていると言える。ただし、近年、エスニック・メディアの経営者の多くが利益追求を優先する傾向もみられ、その役割が十分に果たせていないことが懸念されているという（イシ 2012 : 121）。

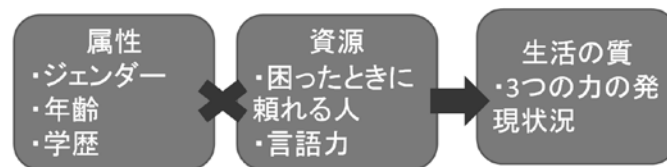
移住先の社会とのつながりも、移民ネットワーク同様重要な資源である。移住先の社会とのつながりは、彼らの定住後の生活の質に影響を与える。ただし、移住先の社会とのつながり方は、ジェンダー、職業によって規定されることが指摘されている。Hagan（1998）は、アメリカのマヤ移民を事例に、ジェンダー化されたネットワークが、移住先で従事する仕事に影響を及ぼし、移住先でのネットワーク構築およびそこから得られる資源量に影響を与え、結果として居住権の獲得に影響を及ぼすことを明らかにした（Hagan 1998）。

日本語能力もまた、日本文化への適応の度合いに間接的に影響を与えるという点で1つの資源といえる。日本語能力と日本文化への適応について、安達（2002）は留学生を事例に次の点を指摘する。日本語能力と日本文化への適応の直接的な関連は薄いものの、日本

語能力の高低が、日常における人間関係―外国人中心か、日本人を含む人間関係か―に影響を与え、日本文化への適応の度合いに影響を与える。日本語能力の低い学生は、身近な人や外国人にネットワークが限られがちで、適応が促進されにくい。他方、日本語能力の高い学生は、日本人の友人を得たり、アルバイト先で日本人との付き合いを広げたりすることができ、日本文化に適応しやすいという。従って、留学生支援の方法によっては、日本語能力の低い学生の適応を促進することができることも述べている（安達 2002）。

以上の先行研究から、資源、すなわち、移民ネットワークや移住社会とのつながり（困ったときに頼れる人）、エスニック・メディア（情報）へのアクセス、日本語の語学力を持つ人ほど日本社会に適応しやすく、結果として生活の質が高くなる、これらの資源はジェンダー、年齢、学歴といった属性によって影響を受けるという仮説を導いた。

図 11 属性、資源と生活の質との関係についての仮説



筆者作成

第 2 節 生活実態の把握：質問紙調査の枠組み

滞日者の生活実態を把握するにあたり、本研究では潜在能力アプローチを採用する。その意図は、「生活の質」という点から生活実態を把握し、何が障壁となっているのか、翻って、彼らの生活の質を高めるにはどのような資源が必要なのかを分析する点にある。具体的には、A.センの潜在能力アプローチを引き継ぎ、政策への還元を企図して具体例を提示したヌスバウムのリストを採用する（ヌスバウム 2005）。そして、カビールの潜在能力の類型を補助線として用い次のように整理した。カビールは、「開発とジェンダー」の関心のもと、行為者の意識の変化に関わる力を「内側からの力」、男性支配を変革するための戦略となる連帯によって得られる力を「連帯する力」、力を奪われた女性が状況を変革するために資源を動員し障害に対処する力を「はたらきかける力」と定義した。上記発想を借り、「自己の内面にある力」、「他者との対等な関係を築く力」、「管理・保有・制御・行使に関する力」と読み替え、リストを 3 つに分類した。

表 14 潜在能力と生活の質を測るための指標との対応

発現される 潜在能力	要素	質問項目
A. 自己の内面にあ る力 (the power within)	1 人生を最後まで全うでき る。	H-5. How do you feel your present life in Japan? -Satisfied with everyday life -Happier than the life in Nepal -Worried about everyday life -Worse than the life in Nepal (Choose only one in each element Fully agree/Agree /So so/Disagree/Strongly disagree)
	2 心身が健康である。	H-6. How do you feel about each aspect of your life
	3 適切な住居に住める。	in Japan now?
	4 移動の自由がある。暴力 の恐れがない。	-Mental and physiological conditions -Accommodation
	5 自分の感覚・想像力に従 って、人生の意味を追求 できる。	-Getting professional counseling for future carrier (Choose only one in each aspect Highly satisfied/Satisfied/ So so/Worried/Seriously worried)
	6 自らの良心を守りつつ、 人生を省察できる。	I-2 What is your plan in Japan? I-3. How many years more will you be in Japan? I-5. What are you going to do in Nepal? (Multiple choices)
B. 他者との対等な 関係を築く力 (the power with)	7 他者と愛情をもって関わ りあえる。	H-2. Please indicate any Japanese groups that you have memberships now (Multiple choices)
	8 他者を受け入れ、協力関 係を築ける。	H-3. Please indicate any Nepalese groups that you have memberships now in Japan (Multiple choices)
	9 差別されず、尊厳が認め られる。人間らしく働け る。	H-6. How do you feel about each aspect of your life in Japan now? -Relationship with Japanese spouse/family

	10	自然と関わりながら生きることができる。	<ul style="list-style-type: none"> -Relationship with Nepali spouse/family in Japan -Relationship with Nepali spouse/family in Nepal -Relationship with Japanese friends -Relationship with Japanese colleagues -Relationship with Japanese neighbors -Relationship with Nepali friends/colleagues -Relationship with other foreign friends/colleagues -Sexual relation with spouse/partner/Abuse by them -natural disaster (Choose only one in each aspect Highly satisfied/Satisfied/ So so/Worried/Seriously worried)
	11	笑いや遊び、レクリエーションを楽しめる。	H-6. How do you feel about each aspect of your life in Japan now? -Enjoying life (Choose only one in each aspect Fully agree/Agree /So so/Disagree/Strongly disagree)
C.管理・保有・制御・行使に関する力 (the power to)	12	政治参加の権利や言論・結社の自由がある。	H-6. How do you feel about each aspect of your life in Japan now? -Types of works engaged in
	13	雇用やビジネスの機会を得られ、財産を築ける。	<ul style="list-style-type: none"> -Income/Earning -Working conditions -Legal status in Japan -Access to public services (Choose only one in each aspect Highly satisfied/Satisfied/ So so/Worried/Seriously worried)

第3節以降では、滞日者への質問紙調査の結果に依拠して、滞日者全体の生活の質を「自己の内面にある力」の発現、「他者との対等な関係を築く力」の発現、「管理・保有・制御・行使に関する力」の発現の3点から概観したのちに、属性および資源ごとの分析結果について述べる。

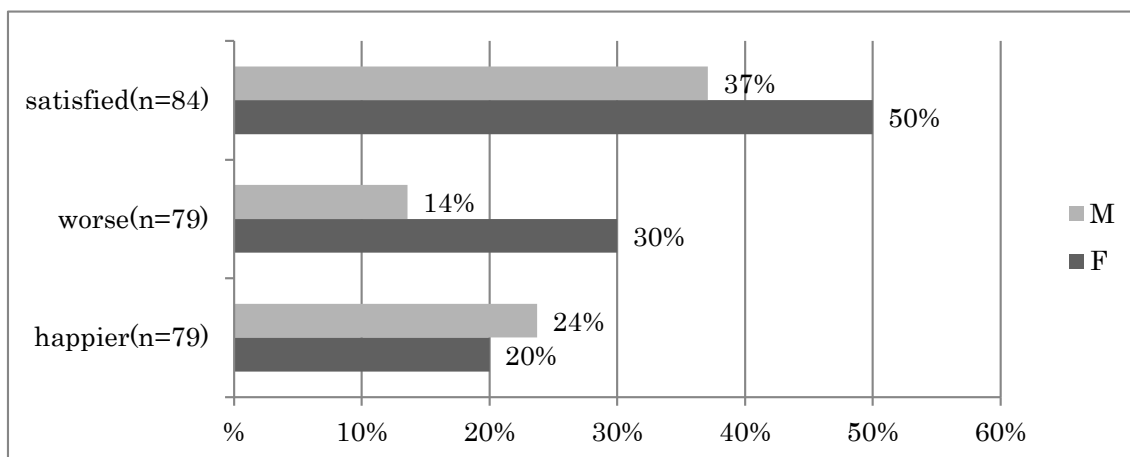
第3節 滞日者の生活の質：質問紙調査の分析にみる潜在能力の発揮状況

1. 自己の内面にある力の発揮—生活満足度、幸福度

まず、回答者全体の傾向をみる。「現在の生活に満足している」と回答した人は41% (n=84)、「ネパールにいた頃よりも状況が改善した」と回答した人は50% (n=79) で、半数は自己の内面にある力の発揮ができてきているようだ。他方、「悩みがある」と回答した人は36% (n=81)、「ネパールにいた頃よりも不幸と回答した人は33% (n=79) であった。

次に、ジェンダーと生活満足度についてのクロス分析の結果をみる(図12参照)。「現在の生活に満足している」にあてはまると回答した人の割合は、女性において50%、男性において37%であった(n=84)。他方「ネパールの生活と比べて状況が悪化した」と回答した女性の割合は、男性より多く、女性30%、男性14%であった(n=79)。「ネパールにいた頃よりも幸せだ」と回答した人は、男性24%、女性20%であった(n=79)。

図12 ジェンダー×生活満足度「現在の生活に満足している」「ネパールでの生活より状況が悪化した」「ネパールにいた頃よりも幸せだ」



ジェンダー別に自然災害、住居、心身の健康、生活の充実について満足しているか否かを尋ねたところ、心身の健康については、女性の方が満足度が高いが、「人生を楽しんでいる」については男性の方が回答者の割合が高かった。具体的には、「自然災害について満足」と回答した人は、男性において17.0%、女性において28.6%であった。「住居について満足」と回答した人は、男性において48.1%、女性において59.1%であった。「心身の健康について満足」と回答した人は、男性が30.0%、女性が38.1%、「生活を楽しんでいる」と回答した人は、男性において30.0%、女性において28.6%であった(図13)。

図 13 ジェンダー×自然災害、居住地、心身の健康、生活の充実についての満足度

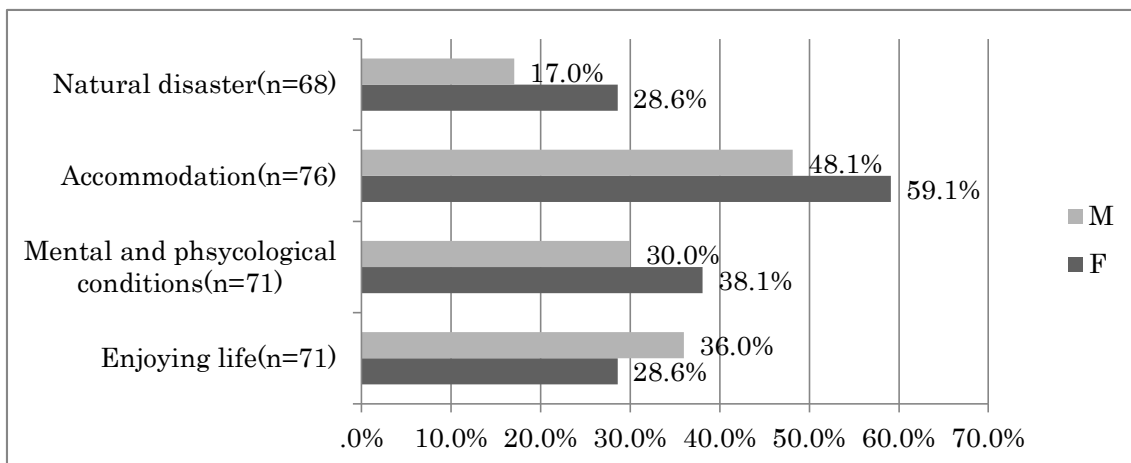
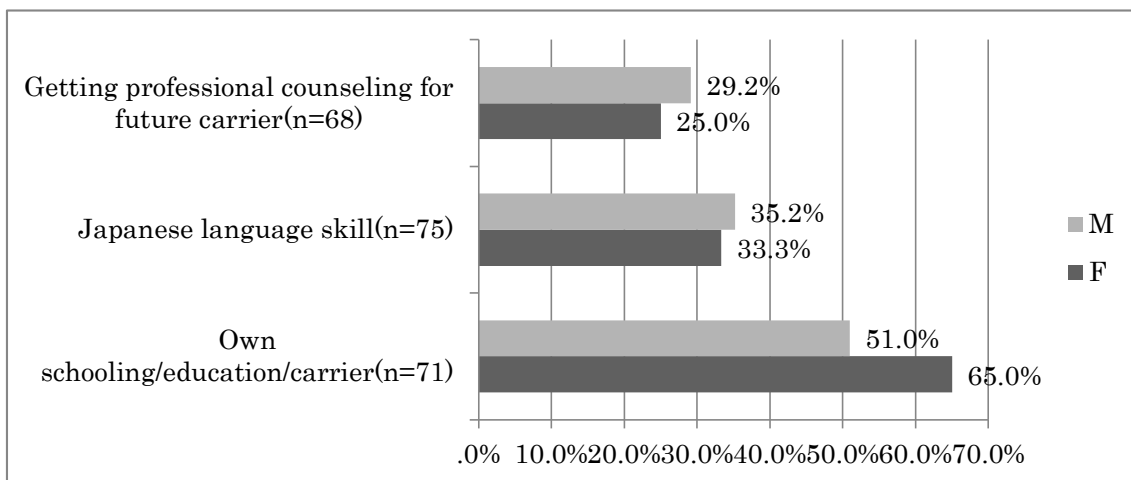


図 14 にあるようにキャリア形成についての満足度については、「自身の教育・キャリアについて満足している」と回答した割合は女性において 65.0%、男性において 51.0%であった (n=71)。ただし、「将来のキャリアについての専門的な相談体制」については、男性の方が満足度が高く、男性において 29.2%、女性において 25.0%であった (n=68)。

図 14 ジェンダー×将来のキャリアへの相談体制、日本語能力、自身の教育・キャリアの満足度



どのような人が、自己の内面にある力の発揮に課題を抱えているのか。ジェンダー別の分析では、女性よりも男性において満足度、過去との比較による幸福度、自然災害、居住地、心身の健康についての満足度が低い。また、出国理由に雇用機会の欠如、教育機会の欠如を挙げた人においても「ネパールにいた頃よりも状況が悪化した」と回答する人が多い。雇用機会の欠如を挙げた人は、学歴が低い人に多くみられた。

他方、「生活を楽しんでいる」については女性の満足度が低く、「将来のキャリアについての専門的な相談体制」についての満足度も女性において低い結果となった。

滞在中に最も重視することと満足度については、「お金」と回答した人において満足していると回答した人の割合は80.0%、そうではない人においては32.8%であった（n=82）。

ネパール人の配偶者と回答した人において「ネパールにいたころと比べて状況が悪くなった」と回答した人は40.0%、そうではない人においては16.7%であった（n=77）。同様に、心配ごとについても、ネパール人の配偶者と回答した人において80.0%とそうではない人33.8%に比べて、該当者の割合が高くなっている（n=79）。

ネパール人の同僚、友人について挙げた人において生活に満足していると回答した人の割合は63.5%、そうではない人においては36.4%であった（n=82）。

日本人の同僚、友人を挙げた人において以前より幸せと回答した人の割合は、42.9%、そうではない人においては16.1%であった（n=77）。同様に、生活満足度についても日本人の同僚、友人を挙げた人において68.2%、そうではない人31.7%であった。家族と滞在している人の満足度は相対的に高いという結果もでた。

2. 他者との対等な関係構築に関わる力の発現—人間関係の満足度

回答者全体の傾向をみると、日本にいるネパール人の配偶者・家族との関係（50.7%、n=71）、ネパールにいる配偶者・家族との関係（67.2%、n=67）、ネパール人の友人・同僚との関係（59.7%、n=72）については全体的に満足度が高い。他方、日本人の友人、日本人の同僚、日本人の近所の人との関係についての満足度は低く、満足している人の割合はそれぞれ有効回答者の30%に満たない。日本人との接点がなく、満足度が低いと推察される（表15）。

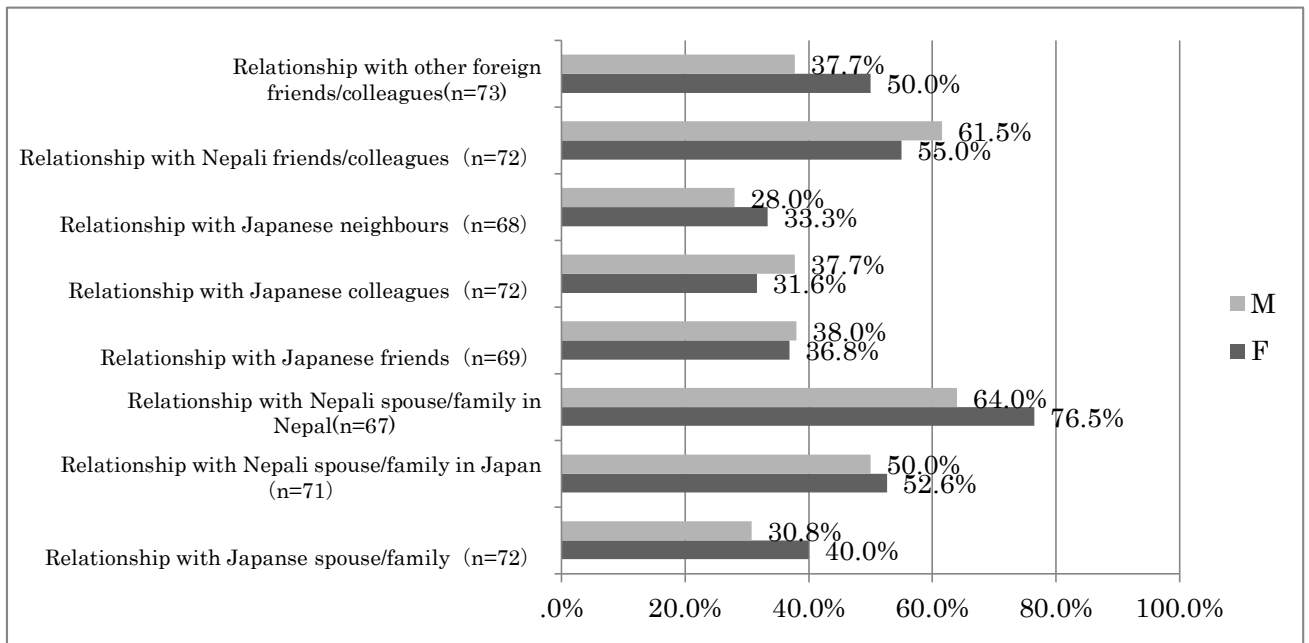
表 15 人間関係についての満足度

質問項目	満足していると回答した人の割合 (%)	回答者数 (n)
日本人の配偶者・家族との関係 Relationship with Japanese spouse/family	33.3	72
日本にいるネパール人の配偶者・家族との関係 Relationship with Nepali spouse/family in Japan	50.7	71
ネパール人の配偶者・家族との関係友 Relationship with Nepali spouse/family in Nepal	67.2	67
日本人の友人との関係 Relationship with Japanese friends	25.2	69
日本人の同僚との関係 Relationship with Japanese colleagues	25.2	72
日本人の近所の人との関係 Relationship with Japanese neighbors	29.4	68
ネパール人の友人・同僚との関係 Relationship with Nepali friends/colleagues	59.7	72
外国人の友人・同僚との関係 Relationship with other foreign friends/colleagues	41.1	73

男女の違いについて述べれば、男性の方が満足度が相対的に高かった項目は、ネパール人の友人・同僚との関係（6.5ポイント差）、日本人の同僚との関係（6.2ポイント差）であった。

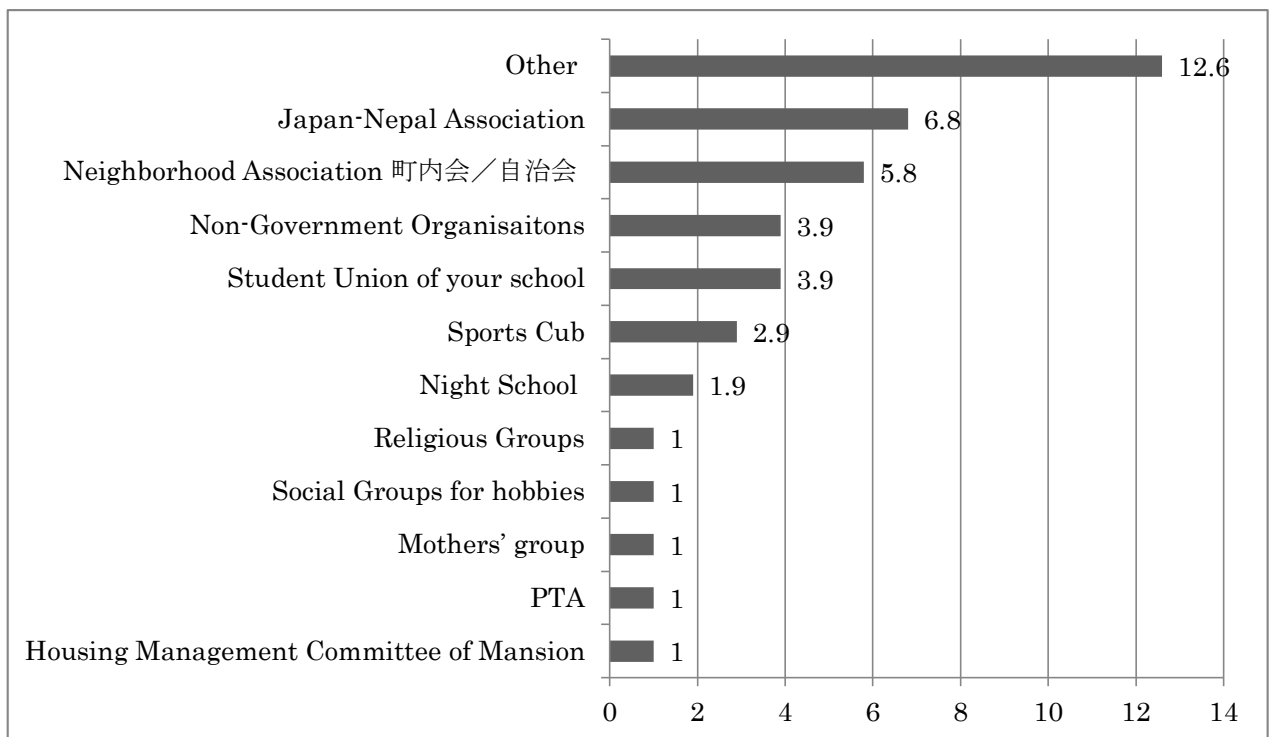
他方、女性において満足度が相対的に高かった項目は、ネパールにいる配偶者・家族との関係（12.5ポイント差）、外国人の友人・同僚との関係（12.3ポイント差）、日本人の配偶者・家族との関係（9.2差）であった。ジェンダーによって、交友関係—同僚、友人、彼らの国籍—が異なることが推察された（図 15）。

図 15 ジェンダー×夫婦以外の人間関係についての満足度



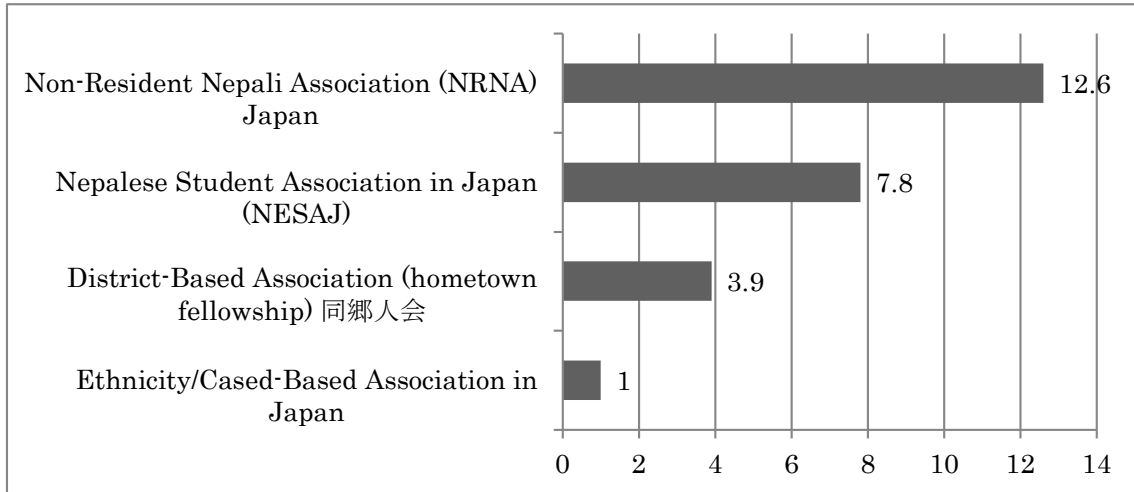
次に、滞日ネパール人の日本の団体、および、滞日ネパール人の団体への加入についてみる。今回の調査では、ともに加入率が低い。日本の団体の加入については、有効回答 51のうち、6.8%が日本ネパール協会に 5.8%が自治会・町内会に加入していた（図 16）。

図 16 滞日ネパール人の日本の団体への加入状況 (n=51)



滞日ネパール人の団体への加入については、有効回答数 51 のうち 12.6%が在外ネパール人の組織である NRNA に、7.8%が滞日ネパール人の学生団体に加入していると回答した (図 17)。

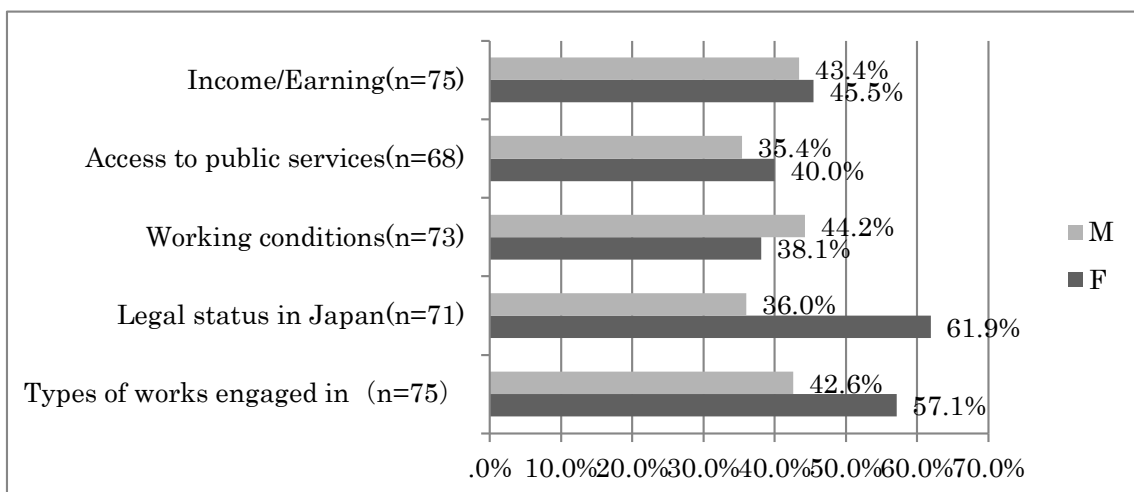
図 17 滞日ネパール人の滞日ネパール人団体への加入状況 (%) (n=51)



3. 管理・保有・制御・行使に関わる力の発現

従事している仕事の種類、収入、労働条件、在留資格に示される法的地位のいずれの項目について満足だと回答した人は 50%程度である。公共サービスへのアクセスについては、51.3%が満足だと回答した。男女に顕著な違いがみられた項目は、在留資格等の法的地位への満足度 (男性 36%、女性 61.9%)、従事している仕事の種類 (男性 42.6%、女性 57.1%) であった (図 18)。

図 18 ジェンダー×仕事の種類、収入、労働条件、在留資格についての満足度



第4節 滞日者にとっての資源保持

1. 日本での潜在能力の発揮に関わる資源1：「困ったときに頼れる人」、相談機関

今回の回答者においては全体的に友人、家族等近い人に頼る傾向があり、NGO や行政機関を頼る人は少ない。相談相手の国籍をみると、いずれの相談項目についても8割近くがネパール人を挙げている。たとえば、就職の相談については40%がネパール人の友人を、18.6%がネパール人の家族を挙げている（n=70）。同様にローンの相談については40%がネパール人の友人を、27.5%がネパール人の家族を挙げる（n=34）。病気になったときの世話については友人が39.7（n=68）、家族が35.3%、家事の支援等については友人が31.9%、家族が40.3%となっている（n=72）。日本の福祉制度に関する助言ですら、ネパール人の友人が25.0%、ネパール人の親族・家族が17.9%と、日本の友人16.1%を上回る（n=56）。また、「誰も頼れる人がいない」と回答する人も一定数存在する。具体的には、家族・子どもの世話、DVの相談、精神的な支援等、私的な相談事に多い。相談相手が誰もいないと回答した者は、相対的に男性に多い。

「誰も頼れる人がいない」と回答した人が多い順に項目を挙げれば、家族・子どもの世話、DVの相談、精神的なサポート等、私的な相談事・悩みに多いことがわかる（表16）。

表 16 頼れる人がいない人の割合

項目	誰もいないと回答した人の割合 (%)	全回答者数 (n)
家族・子どもの世話 To get support for child/family care	34.0	53
DVの相談 To get advice on domestic violence	32.2	59
精神的なサポート To get psychological support	24.1	58
ローンの相談 To get a loan/financial support	15.9	69
家族問題についての助言 To get advice for family problems	15.6	64
健康についての相談 To get advice on health problem	15.0	60
日本の福祉制度に関する助言 To get advice on welfare system	14.3	56
家事の支援等 To get support for household work	9.7	72
就職の相談 To get a job	8.6	70
病気になったときの世話 To get care during sick or injured	7.4	68
おしゃべりや食事を楽しむ To enjoy together (eating, chatting)	6.6	61
買い物に出かける To go for shopping together	6.0	67

2. 日本での潜在能力の発揮に関わる資源 2：来日時の情報源

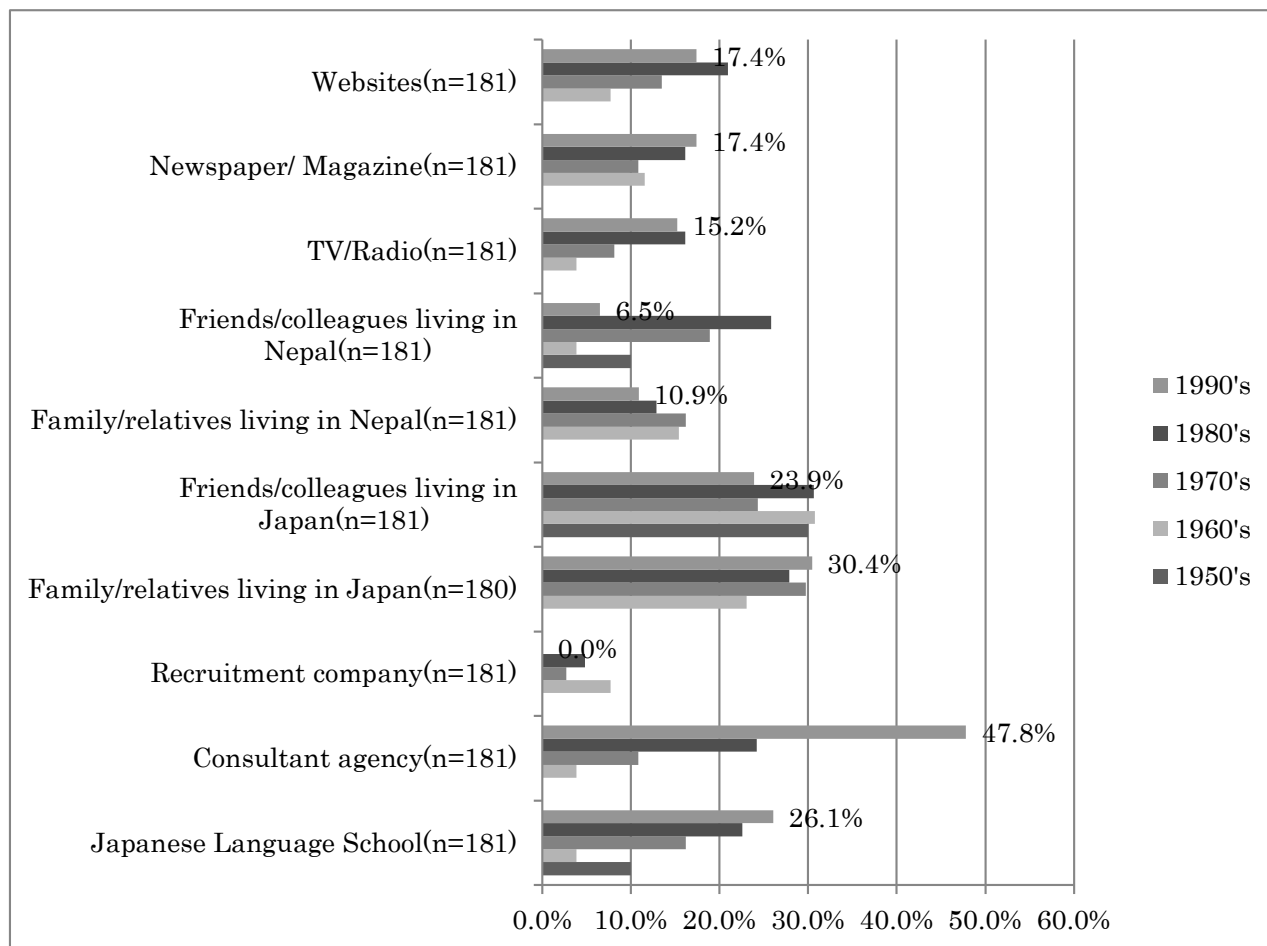
出国前の日本についての情報源を複数回答で尋ねたところ、日本に住んでいる友人・同僚（50.5%）、日本に住んでいる家族（39.8%）、日本語学校（21.5%）であった（n=102）。

情報源を家族・親族・友人だった群とそれ以外（日本語学校、コンサルタント、ウェブ、新聞等）に分類して分析したところ、「心配ごとがある」については、前者で21.4%、後方で44.2%だった。また、「以前よりも状況が悪くなった」と回答した人の割合は、前者で7.4%、後方で23.5%だった（n=78）。つまり、日本にいる家族・親族・友人という存在が、生活上の心配の有無に影響を及ぼしていることが推察された。

ジェンダー別にみると、女性において家族・親族・友人を情報源として挙げる人が多い（女性75.0%、男性67.1%、n=101）。

帰国者を対象にした調査結果と滞日者を対象にした調査結果を統合し年齢別に分析したところ、1990年代生まれにおいて、コンサルタントを介しての来日した人が47.8%、日本に住んでいる家族親戚が30.4%、日本語学校が26.1%、日本に住んでいる友人・同僚（23.9%）の順に多くなっている（図19参照）。

図19 生年×来日時の主な情報提供者



調査対象者の選定において偏りがあるため一般化できないものの、今回の調査結果では若い世代、男性が比較的コンサルタント会社、リクルート会社や日本語学校といった機能分化的社会関係の中で来日しているという結果になった。学歴と情報源の関係をみると、学歴が高くなるにつれ、家族・親族・友人以外の情報源（日本語学校、コンサルタント、ウェブ等）の割合が高くなる傾向がみられた（表 17）。

表 17 学歴×来日時に頼った社会関係

	日本語学校、ウェブ	家族や友人	合計
10 年生まで (Class1-10)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	4 (100.0%)
中等教育修了資格取 (SLC pass)	1 (14.3%)	6 (85.7%)	7 (100.0%)
上級中等学校 (10+2)	15 (36.6%)	26 (63.4%)	41 (100.0%)
学士/学部 (upper Bachelor)	13 (28.3%)	33 (71.7%)	46 (100.0%)
その他	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)
合計	31 (31.3%)	68 (68.7%)	99 (100.0%)

3. 日本での潜在能力の発揮に関わる資源 3：語学力

日本語能力と幸福度との関連について述べれば、日本語能力の得点³⁹が低い人において「以前より悪くなった」と回答する人の割合が多い。具体的には、「心配ごとがある」と回答した人は日本語得点 7 点において 100%、8～14 点において 21.70%、15 点以上で 40.5% だった (n=67)。「以前より悪くなった」と回答した人は日本語得点 7 点において 50%、8～14 点において 13%、15 点以上で 19% だった (n=67)。また、ひらがな、カタカナが読めない人ほど、「1 年以下の滞在予定」、「1～5 年の滞在予定」と回答する人の割合が高く、滞在予定年数が短い傾向がみられた。先行研究でも言及されているように、日本において語学力は重要な資源になっていると思われる。なお語学力については、男女に有為な違いをみることはできなかった。

4. 日本での潜在能力の発揮に関わる資源 4：保険

滞日者の保険加入状況については、「知らない」と回答した人が 9.7% であった。概ね何かの保険に加入しているという結果になった。加入率が多い順に、日本の国民健康保険が 78.0%、日本の雇用保険が 14.6%、年金が 11.7%、日本の私的保険が 8.7%、ネパールの私的保険が 7.8%、留学生向けの保険が 6.8%、旅行保険が 5.8% となっている (n=97)。

第5節 滞日者の生活の質：聞き取り調査から

1. 自己の内面にある力の発揮－生活満足度、幸福度

聞き取り調査に協力してくれた Nさんは、将来の不安について度々口にしていました。努力は続けているが、ネパールでローンを組み来日し、学費や生活費を稼ぐためのアルバイトに多くの時間を費やし、勉強に集中できない不安な状況を吐露する。

Nさん（男性、22歳、ジャナジャティ、日本語学校生）

ポカラの大学を辞めて就職を目指して日本に来た。でも難しいから少し後悔している。介護のアルバイトをしている。老人ホームで。自分で探した。資格をとりたいたいと思っている。28時間という決まりがあるので、仕送りは難しい。友人は、コンビニ、トライアルで夜勤のバイトをしている。8時間勤務。3時～7時まで働いて、そのまま学校に来る。家族の仕送りがないので、勉強よりも仕事になってしまう。日本ではなんとか生活ができていけるけれど、目標が達成できない。実力次第。期待はあっても、今をどう生きるのか。ネパールで銀行のローンを組んできている。勉強に集中できない。仕事のことばかりを考えてしまう。授業への出席率はいいけれど、成績が悪いのはネパール人。学校に来るだけで精一杯なのかもしれない。

Mさんも来日したものの、自宅とアルバイト先、学校とを往復する毎日を送り、日本で観光する機会ももてず、充実感を得られていないようだ⁴⁰。

Mさん（女性、20歳、ジャナジャティ、日本語学校生）

ネパールで上級中等学校（10+2）を終えて、コンサルタントの女性に勧められて日本語学校に入った。あまり勉強しないまま、3か月も勉強していないと思うが、日本に来た。普通の会話はできるが漢字は読めない。この先、どうしようか決めかねている。親は帰ってこいという。母親がさびしがっている。日本では観光する時間がない。休みの日は寝ている。仕事に行き、学校に行き、また仕事に行くという日々。楽しくはない。アルバイト先では日本語ができず、叱られて泣いたこともある。日本よりもネパールの生活の方が楽しかった。自分で稼ぐのは大変、眠れないのが問題。自分を気遣う時間がとれない。母親よりも老けているかもしれない。

2. 人間関係の満足度

Mさんは、アルバイトの関係で友人と集まれないことをさびしく感じている。また、ときどきネパールを思い出し、ホームシックにかかるかと述べている。

Mさん（女性、20歳、ジャナジャティ、日本語学校生）

誕生日等に友人と集まる。でも、なかなか集まらない。悲しい。以前勤務していたアルバイト先の会社がなかなか休みをくれなかった。現在は休みを取りやすいが。友人は、マガール、グルン、ライ、シェルパ⁴¹に多いが、上位カーストの人たちも仲良くしてくれる。家族と会えないので、ホームシックになる。会社の日本人と話すのが、友人ではない。

3. 日本での潜在能力の発揮に関わる資源1：「困ったときに頼れる人」、相談機関

日本での潜在能力の発揮に関わる資源となる「困ったときに頼れる人」、相談機関について尋ねたところ、日本語学校生のNさんは、ネパール人同士の交流があまりなく、現在のアルバイト先の会社や学校が頼りになると述べていた。また、場合によっては民間会社が提供する有料サービスを利用するとも述べていた。

Nさん（男性、22歳、ジャナジャティ、日本語学校生）

困っていることは、日本人との接点がないこと、日本語が難しいこと、仕事の情報がないこと、将来のこと。卒業後大学に入れるのか。Japan-Nepal Associationに入っているけど、参加していない。学校以外のネパール人とはあまり接点がない。東京や名古屋では在日ネパール人の団体が多いと聞くが、福岡はあまり活発ではないように思う。困ったときに頼りになる人は、会社の方。病院を紹介してくれた。その人に会えたのが、ラッキーだった。学校も助けてくれる。あとは民間会社（便利屋のような存在）等が提供している有料の支援を利用する。

2015年6月12日に実施した福岡県内にある日本語学校関係者への聞き取り調査からは、学校内でのネパール人同士のコミュニケーションが薄れていることがうかがえた。かつては、学校に在籍しているネパール人同士でお祭りシーズンと一緒に企画する話がよく聞かれたが、そうしたことは耳にしなくなったという。インターネット等が発達し、昔ほど、情報共有の必要性がなくなったからではないかと学校関係者はコメントをしていた。

日本語学校関係者

かつては、ネパール人同士のなかで団結力が昔あった。しかし、近年はコミュニケーションとりづらくなったようだ。三年前であれば、学校でダサインの祭をやるという学生がいた。去年くらいからそうしたリーダーシップは薄れた。ネパールソサイエティという大きな集まりには行くようだが。情報共有のモチベーション下がっているから、団結が薄れるのか。他の国の出身者も同様の傾向にある。

以上より、滞日者の中には日本でのネパール人の移民ネットワークを持たず、身近に頼れる人がいない滞在者も少なからずいることがうかがえた。

第6節 小括

滞日者の生活の質については、質問紙調査から、生活満足度および幸福度、人間関係についての満足度、従事している仕事、収入、労働条件、在留資格についての満足度を明らかにした。結果、回答者全体において満足度の低い項目は人間関係であった。

今回の調査では、総じて日本人との交流が少ないだけでなく、滞日ネパール人団体への加入率が低く、ネパール人の間でも人間関係が希薄化していることが推察された。先行研究では、同国人同士のつながりがいざというときにセイフティネットになることが指摘されていたが、ネパールからの移住者は、民族・カーストなどの出自、在留資格によりつながりにくいことを反映していると思われた。

また、資源、すなわち、移民ネットワークや移住社会とのつながり（困ったときに頼れる人）、エスニック・メディア（情報）へのアクセス、日本語の語学力を持つ人ほど日本社会に適応しやすく、結果として生活の質が高くなる、これらの資源はジェンダー、年齢、学歴といった属性によって影響を受けるという仮説を検証した。

属性—ジェンダー、学歴—や資源—来日時の情報源、語学力—ごとに分析したところ、日本での生活満足度が低い人の特徴として、①学歴が相対的に低い、②出国の動機として雇用機会、教育機会の欠如を挙げる、③来日の情報を日本にいる親族・友人・家族以外から得ている、④日本語能力が相対的に低い、があげられた。

ジェンダー別にみると、出国動機として雇用機会、教育機会の欠如を挙げた者は男性に多く、夢を抱いて来日したものの、理想と現実との落差に失望し将来像を描けない状況があることが推察された（期待と現実とのギャップ）。また、来日の情報を日本にいる親族・友人・家族から得ていない者は男性に多く、困ったときに頼れる者がいないと回答した人の割合も男性に多かった。特に、男性において孤立する者が多いことが推察された（生活の質を高める情報、ネットワークの不足）。他方、女性についての問題を考えると、出国の理由として家族による呼び寄せが多い、情報源を親族・友人・家族から得ている人が多いという点を鑑みて、孤立は免れているものの、家族以外の滞日ネパール人や日本人との関係を構築する機会が相対的に少なく、近親者との関係が破綻した際に生活の質を維持する資源を失うリスクがあることが推察された。

第7章 帰国後のネパールでの生活について：帰国者への調査

第1節 ネパールに帰国した理由

本章では、ネパールへの帰国者を対象にした質問紙調査の結果を記す。具体的には、(1) ネパールに帰国した理由、(2) ネパールに帰国した後の生活、(3) ネパールに帰国してからの生活満足度、(4) 日本での生活を振り返った際の評価、(5) 日本での生活に必要なと思われる資源について分析した。

表 18 より、帰国した理由について多い順に、ネパールでビジネスを始めた (25.8%)、自分の配偶者および子どもの面倒をみる (20.0%)、ビザを延長できなかった (12.4%)、両親の面倒をみる (11.2%) となっていることがわかる (n=84)。

表 18 ネパールに帰国した理由 (%)

理由	%
就職できなかった Could not find a job	2.2
自身の健康上の理由から Own health problems	2.2
日本が好きではなかったから Did not like Japan	2.2
ネパールで仕事をみつけたから To find a job in Nepal	3.4
ネパール人と結婚したから To get married with a Nepali	4.5
両親の面倒をみるため To support own parents	11.2
ビザを延長できなかったため Could not extend a visa	12.4
自分の配偶者および子どもの面倒をみるため To support own spouse and children	20.2
ネパールでビジネスを始めたため To start own business in Nepal	25.8

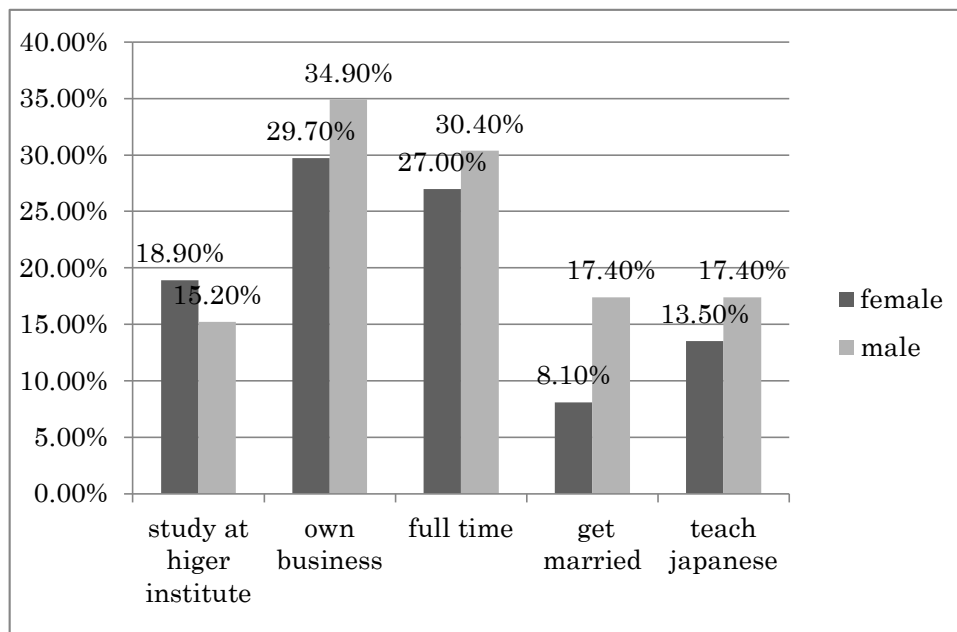
ジェンダー別に違いがあったものは、両親の面倒をみる、ネパールでビジネスを始めたであった。前者については8ポイント、後者については13ポイント女性よりも男性の方が高い結果となった。

第2節 ネパール帰国後の生活

ネパールで現在していることを尋ねたところ、多い順に自身のビジネスをしている (34.9%)、正規雇用者として働いている (28.9%)、上級の学校で学んでいる (16.9%)、

日本語学校で教えている（15.6%）、ネパール人との結婚（11.0%）となっている（n=84）。今回の回答者では、男性と比較して女性に多くみられたのは、上級の学校で学んでいるという回答であった（図 20）。

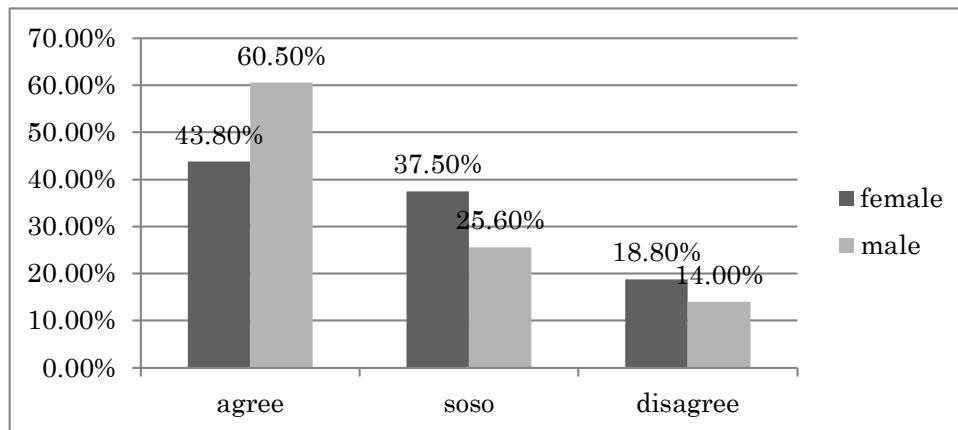
図 20 ジェンダー×帰国後の生活



現在の生活満足度について尋ねたところ、現在の生活に満足していると回答した人は79.2%で、日々との生活に不安を感じていると回答した人は29.3%であった（n=75）。日本の生活よりも幸せだと回答した人は、53.3%で、日本の生活よりも悪くなったと回答した人は10.7%であった（n=75）。

ジェンダー別に分析したところ、「日本の生活よりも幸せだ」について「同意する」と回答した人は男性において60.5%、女性において43.8%で、男性においてあてはまると回答した人の割合が女性よりも17ポイント高かった（図21）。

図 21 ジェンダー×現在の生活満足度



現在の収入については、5万ルピー以上が25.0%、3万～5万未満が33.8%、1万～3万未満が18.9%、1万ルピー未満が8.8%、無収入が1.5%であった (n=68)。

第3節 日本での生活を振り返っての評価

日本での生活に満足していたと回答した人の割合は 60.8% (n=74)、日本での生活で心配があったと回答した人は 25.4%であった (n=67)。ネパールでの生活よりも幸せだったと回答した人は 39.7 (n=73)、ネパールでの生活よりも悪かったと回答した人は 9.9%であった(n=71)。

日本での人間関係の満足度について質問したところ、ネパール人の友人/同僚との関係については 53.6%が満足と回答したが、日本人の同僚との関係については 49.3%が、日本人の友人との関係については 47.9%が満足していたと回答した。全体として低かったのが、日本人の近所の住民との関係で、34.8%が満足していたと回答した (表 19)。

表 19 日本での人間関係についての満足度

日本での人間関係	満足していたと回答した人の割合	回答者数 (n)
日本人の友人との関係 Relationship with Japanese friends	47.9	71
日本人の同僚との関係 Relationship with Japanese colleagues	49.3	69
日本人の近所の住民との関係 Relationship with Japanese neighbors	34.8	69
ネパール人の友人/同僚との関係 Relationship with Nepali friends/colleagues	53.6	69

ジェンダー別に分析したところ、女性の方が男性よりも相対的に人間関係の各項目についての満足度は高い。大きな差がみられたものとして、日本人の近所の住民との関係（16ポイント）、ネパール人の友人、同僚との関係（12ポイント）が挙げられる（図 22）。

図 22 ジェンダー×人間関係の満足度

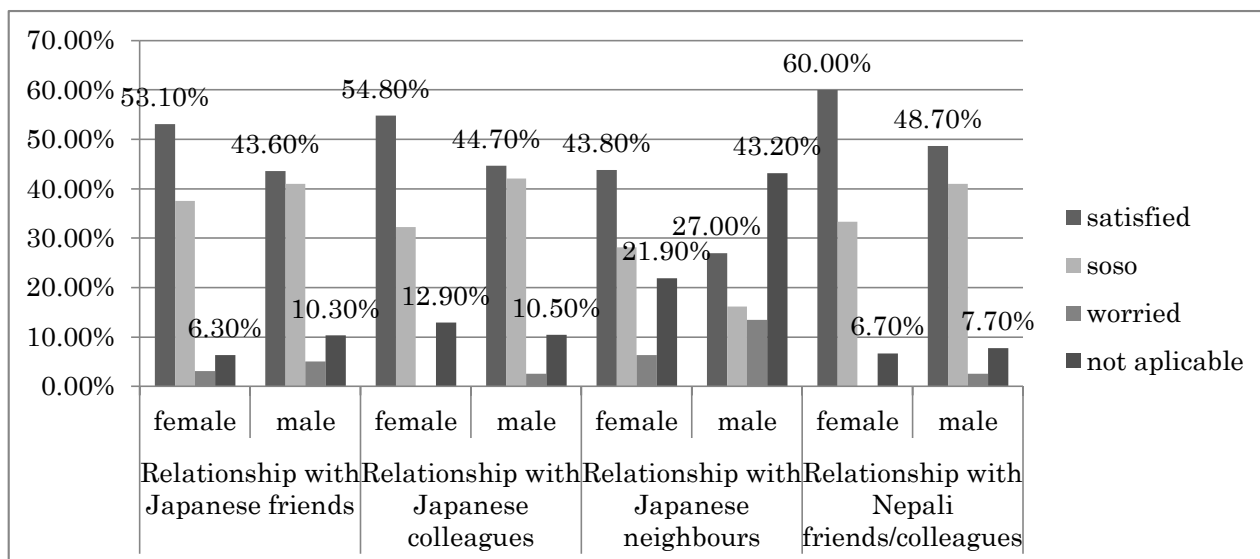


表 20 日本での生活に必要なもの (%)

必要なもの	%
日本語の能力 Japanese Language Skill	61.4
仕事のための技能 Particular skills for job	43.4
日本人の友人・同僚 Japanese Friends/Colleague	34.9
お金 Money	26.5
ネパール人の友人・同僚 Nepali Friends/Colleague	6.7
ネパール人の配偶者 Nepali Spouse	3.3
日本人の配偶者 Japanese Spouse	1.2

日本での生活で重要あるいは必要だと思われるものについて尋ねたところ、多い順に日本語の能力（61.4%）、仕事のための技能（43.4%）、日本人の友人・同僚（34.9%）、お金（26.5%）であった（表 20）。ネパール人の友人・同僚については 6.7%、ネパール人の配偶者については 3.3%が、日本人の配偶者については 1.2%が必要であると回答した（いず

れも n=83) (表 20)。

ジェンダー別に「日本での生活に必要なもの」を分析したところ、男性に多かった回答が仕事のための技能、お金でそれぞれ女性と比べ、12 ポイント、5 ポイント多かった。女性に多かった回答は日本語の能力、日本人の友人・同僚で、それぞれ 22 ポイント、8 ポイント多かった。

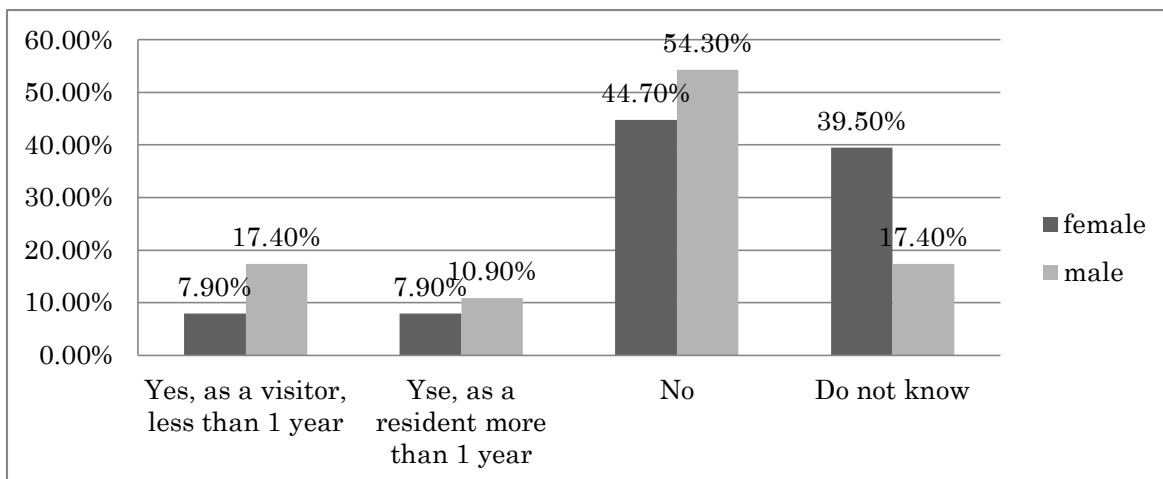
再び、日本に行きたいかを尋ねたところ、「いいえ」が 50.0%、「わからない」が 27.4%、「1年未満の滞在であれば」が 13.1%、「1年以上の滞在であれば」が 9.5%であった(n=84)。

表 21 「再び日本に行きたいか」 (%)

回答	%
いいえ No	50.0
わからない Do not know	27.4
1年未満の滞在であれば Yes, as a visitor, less than 1 year	13.1
1年以上の滞在であれば Yes, as a resident more than 1 year	9.5

ジェンダー別に来日希望を分析したところ、「いいえ」と回答した人の割合は、男性 54.30%、女性 44.70%で、男性の方が女性に比べて 10 ポイントほど高かった。つまり、男性において再度の来日を希望する者は少ない結果となった (図 23)。

図 23 ジェンダー×来日希望

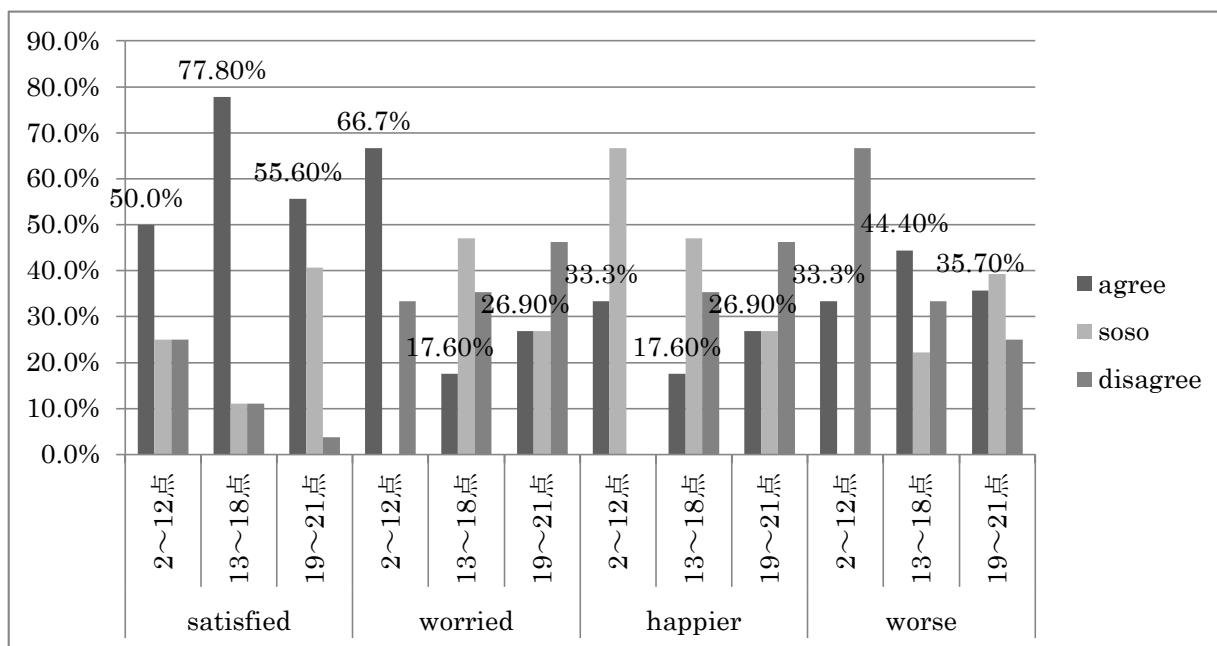


日本に来る前の語学力について尋ねたところ、日本語の会話、ひらがなとカタカナの読解、ひらがなとカタカナの筆記については回答者のそれぞれ 53.5% (n=71)、57.1% (n=70)、

52.4%(n=65)ができると回答した。漢字の読解については27.6%(n=58)、漢字の筆記については23.2%(n=56)ができると回答している。さらに、本や新聞の読解になると17.5(n=57)が、日本語でメールを書くことについては25.4(n=59)ができると回答した。

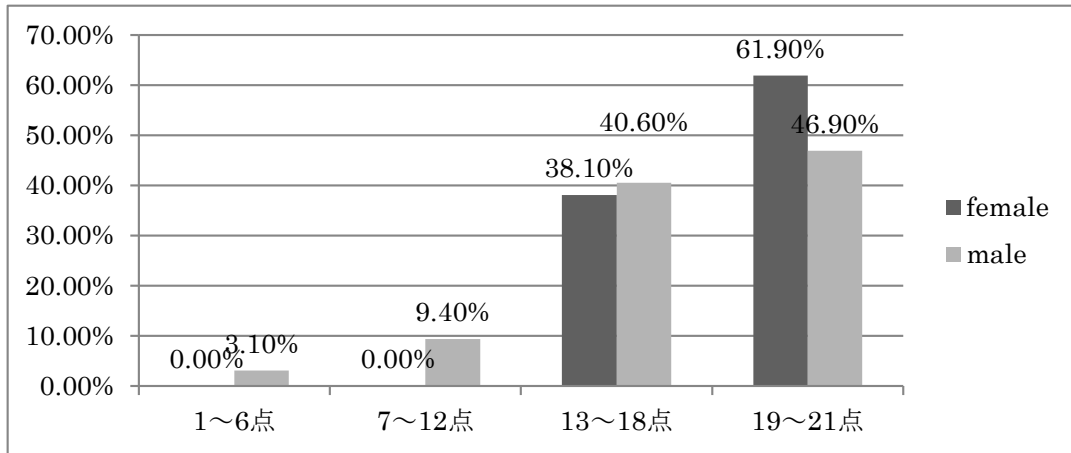
日本に来る前の日本語の語学力(会話、読解、筆記)を「自信をもってできるといえる」を3点、「できる」を2点、「できない」を1点とし、点数化した。平均は17.7点であった。日本に来る前の語学力と「日本での生活に満足していた」、「生活で心配ごとがあった」とを関連づけて分析したところ、相対的に得点が低い人においては満足度が低く、心配ごとがあったことがうかがえた。他方、「ネパールの生活よりも幸せ」、「ネパールの生活よりも悪化した」については、語学力との関連はみられなかった(図24)。

図24 日本語能力×生活満足度



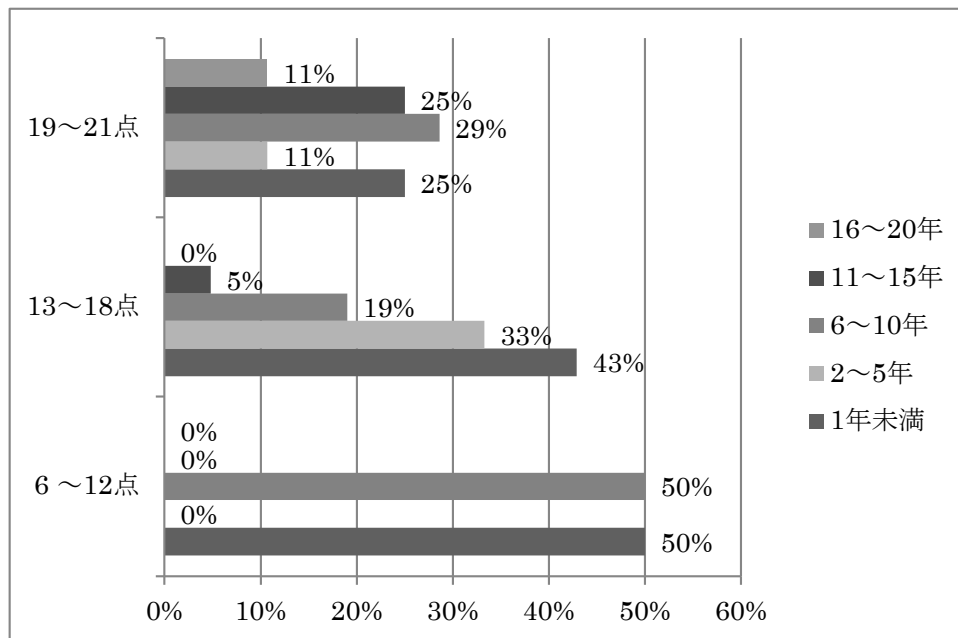
ジェンダー別に分析すると、19~21点だった者は女性において61.9%、男性において46.9%で、女性において得点が高い者が多い傾向がみられた(図25)。

図 25 ジェンダー×日本語能力



今回の回答者においては、日本に来る前にある程度の日本語能力が高くなるにつれて 1 年未満の滞在者が占める割合が低くなり、日本語能力をある程度身につけている人の方が、滞在年数が相対的に長くなる傾向が読みとれた (図 26)。

図 26 来日前の日本語能力×滞在年数



第 4 節 小括

帰国後の生活状況については、およそ8割の人が満足していると回答している。また、半数近くは日本の生活よりも幸せだと回答している。ジェンダー別にみると、現在の生活が日本にいたときの生活よりも幸せだと回答した人は男性に多く、再び日本に行きたいと思

わないと回答した人も男性に多くみられた。女性においては家族の呼び寄せによる来日が多いのに対し、男性においては、教育機会を求め、家族の助言に従って来日した者が多いこと、帰国の理由として「両親の面倒をみる」、「ネパールでビジネスを開始する」を挙げることが多いことを勘案すると、男性に対する期待（日本で技能や語学力を身につけ、帰国後家族の面倒をみる）が、日本での「自己の内面にある力」の発揮に影響を与えていたことが推察された。また、帰国後、事業を開始した者も男性に多く、日本で技能や資金を蓄え、起業し、安定した生活の糧を得たことも、男性において現在の生活を相対的に高く評価する傾向につながったと推察できる。

日本での生活に必要なと思われる資源については、多い順に日本語の能力、仕事のための技能、日本人の友人・同僚、お金が挙げられた。ジェンダー別に分析したところ、男性に多かったのが仕事のための技能、お金である。他方、女性に多かったのは日本語の能力、日本人の友人・同僚であった。女性において家族滞在の資格で来日する者、無職だった者が相対的に多いことが結果に反映されていると推察された。

日本に来る前の日本語能力が高くなるにつれて 1 年未満の滞在者が占める割合が低くなり、日本語能力をある程度身につけている人の方が、滞在年数が相対的に長くなる傾向が読みとれた。日本語能力が相対的に高い人の方が、生活満足度が高くなる傾向が読み取れることから、日本語は重要な資源のひとつであることが推察された。

サンプリングの理由により統計的検定はできなかったものの、語学力と滞在年数の関係については、来日前の語学力が高い人ほど、滞在年数が長くなるのではないかという仮説を導くことができた。

第8章 結論：どのような人が潜在能力の発揮において課題を抱えるのか

先にみてきたように日本は渡航にかかる費用さえ準備できれば、留学・就労のいずれにおいてもハードルが低く、家族滞在が可能性であるという意味で、魅力的な移住先になっている。質問紙調査の分析では、(1) 経済的上昇を求める相対的に学歴が低い者、(2) 経済的上昇だけでなく生活の質の向上、可能性の拡大を求める中・高学歴者が来日していることが推察された。滞日者の中には、以前のような出稼ぎという強い動機はなくとも、機会や選択の幅を広げる可能性に希望を託し、「とりあえず」来日した者も含まれていることがわかった。しかし、機会や選択の幅を広げる可能性にかけて来日したものの、専門職に就くことは難しい。男性の場合インド・ネパール料理店の経営やそこでコックとして働く人が多く、女性はその家族として渡航し、食品加工などの工場でパートタイムの仕事を掛け持ちする人が多い。ネパールでは考えられないほどの現金収入が得られる人もいるが、在留資格制度の壁により、職業選択の自由はない。移住によって経済的地位は上昇するが、社会的地位は下降する「矛盾した階級移動」(Parreñas 2001)の傾向がみられる。

来日後のセイフティネットについては、来日間もない移住者や日本語を学習し始めたばかりの人が言葉の壁を感じず情報収集できるものとして、滞日ネパール人の互助組織がある。ネパール語のインターネットサイトは一定程度利用されているが、互助組織の活動は都市部に限定されており、地理的な制約がある。また、民族・カースト、年齢、在留資格などの多様性や、レストランの経営者とコックの関係に見られるような利害関係も存在するため、ネパール出身というだけで繋がるのが困難な場合もある。したがって、滞日ネパール人コミュニティは、セイフティネットとして必ずしも頼りになる存在とは言えない。

一方、日本の自治体や民間組織、また教育機関は、近年ネパール語での通訳サービスを導入しつつあるが、首都圏などごく一部に限られている。自分の居住地にある資源を活用するためには、日本人もしくは、ネパール以外からやってきた外国籍住民との交流が不可欠であり、そのためには日本語または英語でのコミュニケーション力が求められる。年齢や学歴、階層において幅広い層のネパール人が来日するにつれ、保健、医療、福祉、労働、キャリア形成に関する支援ニーズも多様化している。支援を提供する側は、サービスを多言語化するだけでなく、ニーズを把握するための「交流の場」を設けるなど、工夫が求められる。

滞日者の生活の質については、質問紙調査から、生活満足度および幸福度、従事している仕事、収入、労働条件、在留資格についての満足度を明らかにした。結果、全体として満足度の低い項目は人間関係であった。今回の調査では、総じて日本人との交流が少ないだけでなく、滞日ネパール人団体への加入率が低く、ネパール人の間でも人間関係が希薄化していることが推察された。先行研究では、同国人同士をつながりがいざというときのセイフティネットになることが指摘されていたが、先にも述べたようにネパールからの移

住者は、民族・カーストなどの出自、在留資格によりつながりにくいことを反映していると思われた。さらに、属性—ジェンダー、学歴—や資源—来日時の情報源、語学力—ごとに分析したところ、日本での生活満足度が低い人の特徴として、①学歴が相対的に低い、②出国の動機として雇用機会、教育機会の欠如を挙げる、③来日の情報を日本にいる親族・友人・家族以外から得ている、④日本語能力が相対的に低い、があげられた。ジェンダー別にみると、出国動機として雇用機会、教育機会の欠如を挙げた者は男性に多く、夢を抱いて来日したものの、理想と現実との落差に失望し将来像を描けない状況があることが推察された（期待と現実とのギャップ）。また、来日の情報を日本にいる親族・友人・家族から得ていない者は男性に多く、困ったときに頼れる者がいないと回答した人の割合も男性に多かった。特に、男性において孤立する者が多いことが推察された（生活の質を高める情報、ネットワークの不足）。他方、女性においては、家族による呼び寄せを来日の理由に挙げる者が多く、来日時の情報を親族・友人・家族から得ている者が多い。彼女たちは、日本での生活において孤立は免れているものの、家族以外の滞日ネパール人や日本人との関係を構築する機会が男性に比べて少なく、近親者との関係が破綻した際に生活の質を担保する資源を失うリスクがあると考えられる。

帰国者への質問紙調査では、現在のネパールでの暮らしは日本の生活よりも幸せだと回答した者が回答者の半数に及んだ。ジェンダー別にみると、現在の生活が日本にいたときの生活よりも幸せだと回答した人は男性に多く、再び日本に行きたいと思わないと回答した人も男性に多くみられた。男性においては、教育や経済的上昇の機会を求め、家族の助言に従って来日した者が多いことを鑑みると、家族による稼ぎ手としての男性への期待が男性の日本での生活満足度を下げていると推察できる。また、帰国後、事業を開始した者も男性に多く、日本で技能や資金を蓄え、起業し、安定した生活の糧を得たことも、男性において現在の生活を相対的に高く評価する傾向につながったと推察できる。

帰国者に日本での生活で重要だと思われるものについて尋ねたところ、多い順に日本語の能力、仕事のための技能、日本人の友人・同僚、お金が挙げられた。ジェンダー別に分析したところ、男性に多かったのが仕事のための技能、お金である。他方、女性に多かったのは、日本語の能力、日本人の友人・同僚であった。女性において家族滞在の資格で来日する者、無職だった者が相対的に多いことが結果に反映されていると思われた。

以上の結果から、滞日ネパール人全体が直面していると考えられる課題、属性や有している資源ごとに直面する課題とその背景について次のようにまとめることができた。

- 全体として滞日者と日本人との交流機会が少ない。
- 家族滞在資格で来日したネパール人女性や子どもほど、行政等によるサービスが追いつかない故に、学校教育や福祉関連の情報入手において困難を抱えている。
- 男性、学歴が相対的に低い人、および、出国の動機としてネパールでの雇用機会の

欠如や教育機会の欠如を挙げる人ほど、来日後の期待と現実のギャップに苦悩している。

- 来日に際しての情報を日本にいる友人、家族以外から得ている人ほど、日本での生活満足度、幸福度が低い。
- 日本語能力が低い人ほど、日本での生活満足度、幸福度が低い。

聞き取り調査、質問紙調査の結果からジェンダー別に滞日者の生活の質を担保する際の課題をまとめる。まず、男性については、期待と現実とのギャップを埋めること、生活の質を高める情報、ネットワークの不足を補うことが求められる。女性については、家族以外の滞日ネパール人や日本人との関係を構築する機会が求められる。

謝辞

本研究の調査にご協力くださった、Saraswoti Bharati さん、Dinu Bajracharya さん、Jiwak Bajracharya さん、統計資料の整理をお手伝いくださった小澤桃子さん、滞日ネパール人の支援を行っている団体の方々、私たちに経験を語ってくださった多くのネパール人回答者のみなさんに感謝します。

注

- ¹ QUARTS India、2015、Billions of dollars from overseas workers will be key to rebuilding Nepal's ravaged economy, <http://qz.com/392011/billions-of-dollars-from-overseas-workers-will-be-key-to-rebuilding-nepals-ravaged-economy/> (2015年8月18日閲覧)
- ² 在留外国人統計表番号 13-12-03 第3表 在留資格別 年齢・男女別 在留外国人。
- ³ 仏教徒とヒンドゥ教徒によって構成されるネワールは、非ヒンドゥ諸民族(ジャナジャティ)と同様に先住民として認定されている(Nepal Foundation for Development of Indigeneous Nationalities http://www.nfdin.gov.np/securi/?page_id=116 2015年8月26日閲覧)。ただし、カトマンズ盆地に集住しており、開発指標等では、ヒンドゥ上位カーストのバフン、チェトリと同様、比較的高いことから、他のジャナジャティと区別して扱うことが多い。
- ⁴ 在留外国人統計表番号 14-12-02-1 国籍・地域別 年齢・男女別 在留外国人。
- ⁵ 在留外国人統計表番号 14-12-04 都道府県別国籍・地域別在留外国人。
- ⁶ 「食ベログ」のネパール料理検索結果。 <http://tabelog.com/> (2015年8月18日閲覧)
- ⁷ ネパール政府は、インド、カタール、アラブ首長国連邦、韓国、バーレーンとも移住労働者に関する二国間協定を結んでいる(Sijapati and Limbu 2012:71)。
- ⁸ 2014年9月22日、福岡県内の日本語学校での聞き取り。
- ⁹ N4とN5は、主に教室内で学ぶ基本的な日本語がどのぐらい理解できるかを測る。
- ¹⁰ 2015年3月1日NIDSで聞き取り。
- ¹¹ 2014年7月25日ドイツ・ゾースト(Soest)でネパール女性JSさんにより聞き取り。
- ¹² 家族滞在者は資格外活動許可申請をすることによって、週28時間まで「収入を伴う事業を運営する活動又は報酬を受ける活動」が認められる。
- ¹³ 2014年8月27日、日本語学校関係者へのメールインタビュー。
- ¹⁴ 2014年9月3日、日本語学校関係者へのインタビュー。
- ¹⁵ 授業料無料と書いた新聞広告や看板は数多くみられる。
- ¹⁶ 一般財団法人日本語教育振興協会「日本語教育機関の概況」
<http://www.nisshinkyo.org/article/pdf/20150203s.gaikyo.pdf>
- ¹⁷ 日本語教育機関の質の向上を目指して1989年に設立された団体。1990年に文部科学省、法務省および外務省から許可を受けている。かつての文部省が策定した基準をもとに改正された「日本語教育機関の運営に関する基準」を用いて日本語教育機関の審査・認定を行っており、日振協の認定を受けていることが留学生募集の条件とみなされているが、留学生別科は加盟しておらず、日本語教育機関のすべてが加盟しているわけではない。業界団体としては他に、法務省から告示を受けた日本語教育機関を会員とする一般社団法人全国日本語学校連合会(Japanese Language School Association: JaLSA)があるが、2015年8月現在加盟校が117校のみであり、留学生の出身国等に関するデータは公開していない。
- ¹⁸ 2014年12月5日聞き取り。
- ¹⁹ 2015年4月17日聞き取り。
- ²⁰ 2015年2月24日聞き取り。
- ²¹ ネパール政府は、インド、カタール、アラブ首長国連邦、韓国、バーレーンとも移住労働者に関する二国間協定を結んでいる(Sijapati and Limbu 2012:71)。
- ²² 2015年2月22日海外雇用局担当官よりデータを直接入手。
- ²³ 2014年9月10日聞き取り
- ²⁴ <http://www.napinternational.com.np/index.htm>
- ²⁵ 2014年9月11日、15年2月12日と15日の3回にわたって聞き取りを行った。
- ²⁶ 2015年3月24日駐日ネパール大使より聞き取り。
- ²⁷ 2015年4月24日東京新聞「ネパール難民初認定」

- 28 2013年4月22日朝日新聞「日本発のネパール人学校が開校 元留学生ら奔走、都内に」。以下、2015年3月25日の校長への聞き取りと、同校のWEBサイト <http://eisj-edu.com/> より。
- 29 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」（東京都教育委員会「東京都の国際理解教育」平成27年1月）
- 30 2015年6月4日聞き取り。
- 31 ネパールの新聞 Republica 2015年1月20日
<http://ceslam.org/index.php?pageName=newsDetail&nid=5858>
- 32 Gyawali, B. 'Why are so many Nepalese in Japan taking their own lives?', *The Japan Times*, 2013年9月23日
<http://www.japantimes.co.jp/community/2013/09/23/voices/why-are-so-many-nepalese-in-japan-taking-their-own-lives/#.VcdTHfntmko> (2015年8月9日閲覧)
- 33 2015年7月17日 Nepalijapan.com (2015年8月9日閲覧)
- 34 2015年5月22日シェア事務所で聞き取り。
- 35 2015年2月23日聞き取り。
- 36 2015年8月12日聞き取り。
- 37 2015年3月2日聞き取り。
- 38 2015年2月17日聞き取り。
- 39 日本語の会話、読解力について「できる」を3点、「ややできる」を2点、「できない」1点と換算し計算した。
- 40 2015年9月29日の聞き取り。
- 41 いずれも非ヒンドゥのジャナジャティ。

参考文献

- 安達一雄、2002、「外国人留学生の日本語能力と異文化適応について」『留学生教育』第7号、103-119。
- イシ、アンジェロ、2012、「移住者の現実と願いを伝えるエスニック・メディア」、移住労働者と連帯する全国ネットワーク、『移住者が暮らしやすい社会に変えていく30の方法』、合同出版、118-121。
- 外務省グローバル外交ネット在日外国人の社会統合
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/symbiosis/index.html#workshop>。
- 佐藤由利子、2012、「ネパール人留学生の特徴と増加要因の分析—送り出し圧力が高い国に対する留学生政策についての示唆—」、『留学生教育』第17号、19-28。
- 佐藤由利子・日本学生支援機構政策調査研究課、2008、「魅力的な専修学校留学実現に向けての提案～海外の事例と日本の現状分析から～」、『留学交流』Vol.20、No.11、24-29。
- セン、アマルティア、1999、池本幸生・野上裕生・佐藤仁訳、『不平等の再検討—潜在能力と自由』、岩波書店。
- 東京都の統計 外国人人口 <http://www.toukei.metro.tokyo.jp/gaikoku/ga-index.htm> (2015年8月19日閲覧)。
- 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO) 学生支援に関する各種調査より2004年より2014年度まで各年度の「外国人留学生在籍状況調査結果」(2001年、2002年分は文部省発行) <http://www.jasso.go.jp/statistics/index.html> (2015年8月12日)。
- 仲尾唯治編著、2014、『外国人におけるエイズ予防指針の実効性を高めるための方策に関する研究 平成25年度総括・分担件空報告書』、厚生労働科学研究費補助金。
- ヌスバウム、マーサ、2005、池本幸生・田口さつき・坪井ひろみ訳、『女性と人間開発—潜在能力アプローチ』、岩波書店。
- 浜田清彦、2014、「ネパールの教育・留学事情～海外留学ブームの中で～」、ウェブマガジン『留学交流』Vol.39、32-38。
- 樋口直人、2015、「トランスナショナルな移民ネットワーク」、宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編、『国際社会学』、有斐閣、31-44。
- 福岡県国際交流センター 国籍別 福岡県内外国人登録者数の推移
<https://www.kokusaihiroba.or.jp/city/data.html> (2015年8月19日閲覧)
- 法務省、2006、「平成17年における留学生の日本企業等への就職状況について「表2：国籍・出身地別及び在留資格別許可人員」
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_060725-1_b02.html
同平成16年 http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_050801-1_b02.html

同平成 15 年 http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_040827-1_b02.html
同平成 14 年 http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_030708-1_b02.html
法務省、2014a、在留外国人統計、表番号 14-12-02-1 国籍・地域別 年齢・男女別 在留
外国人。
法務省、2014b、在留外国人統計、表番号 14-12-04 都道府県別国籍・地域別在留外国人。
法務省、2015a、在留外国人統計
http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html (2015 年 8 月 19 日
閲覧)。
法務省、2015b、国籍別難民認定申請者数の推移
<http://www.moj.go.jp/content/001138214.pdf> (2015 年 8 月 19 日閲覧)
法務省、2015c、「平成 26 年における留学生の日本企業等への就職状況について」
<http://www.moj.go.jp/content/001153834.pdf> (2015 年 8 月 12 日閲覧)。
南真木人、2015、「移民大国ネパール」、三尾稔・杉本良男編、『現代インド 6 還流する文
化と宗教』、東——京大学出版会、122-126。
——2013、「日本のネパール人社会」、『人の移動事典』、丸善出版、266-267。
——2008、「忘れられた外国人—ネパール人移住労働者の現在」、『アジア遊学—日本で暮ら
す外国人』Vol.117、130-137。
文部科学省、2003、「留学生受け入れの概況 (平成 15 年度版)
http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data_15.pdf。
Amnesty International, Kav La'Oved and Pourakhi. (2011). Nepal Briefing to the UN
Committee on the Elimination of Discrimination against Women
<https://www.amnesty.org/en/documents/ASA31/006/2011/en/> (28 February 2015).
Central Bureau of Statistics / National Planning Commission Secretariat, Government
of Nepal, Report on the Nepal Labour Force Survey 2008,
<http://cbs.gov.np/wp-content/uploads/2012/02/NLFS-2008%20Report.pdf> (1 March
2015).
Government of Nepal. (2007). Foreign Employment Act, 2064 (2007)
[http://fepb.gov.np/noticefile/foreign-employment-act%20englishj_1300361250_1301
035334_1305446232.pdf](http://fepb.gov.np/noticefile/foreign-employment-act%20englishj_1300361250_1301035334_1305446232.pdf) (28 February 2015).
Government of Nepal. (2008) . The Foreign Employment Rules, 2064 (2008)
[http://fepb.gov.np/noticefile/foreign-e-r-english_1300361325_1301035457_13054459
12.pdf](http://fepb.gov.np/noticefile/foreign-e-r-english_1300361325_1301035457_1305445912.pdf) (28 February 2015).
Gurung, Ganesh. (2004). *An Overview Paper Overseas Employment in
Nepal*. International Labour Office in Nepal.

- Hagan, Jacqueline Maria.(1998) .‘Social Networks, Gender, and Immigrant Incorporation: Resources and Constraints’. *American Sociological Review*, vol. 63, no. 1:55-67.
- Kabeer, Naila. (1999). ‘Resources, Agency, and Achievements: Reflections on the Measurement of Women’s Empowerment’. *Development and Change*, vol.30, 435-464.
- Keiko Yamanaka. (2000). ‘Nepalese Labour Migration to Japan: from Global Warriors to Global Workers’. *Ethnic and Racial Studies*, 23:1,62-93.
- Kharel, D. (2015) Chain Migration and transnational Ties: A Case Study of the Nepali Migration to Japan, Paper presented at the 28th Annual Session of the Japan Association of South Asian Studies, Tokyo, September.
- Nepal Institute of Development Studies (NIDS) · Swiss National Centre of Competence in Research (NCCR) North-South. (2010). *Nepal Migration Year Book (2009)* . <http://ceslam.org/mediastorage/files/Nepal%20Migration%20Year%20Book%202009.pdf> (28 February 2015).
- Nepal Institute of Development Studies (NIDS).(2011).*Nepal Migration Year Book 2010* <http://migrationremittance.org/publication/nepal-migration-year-book-2010> (07 Augst 2015).
- Parreñas, Rhacel Salazar, (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration, and Domestic Work*. Stanford, CA: Stanford University Press.
- UNESCO Institute of Statistics. (2012). *UNESCO Global Education Digest 2012* <http://www.uis.unesco.org/Education/GED%20Documents%20C/GED-2012-Complete-Web3.pdf>.
- World Bank.(2011). *Large-Scale Migration and Remittance in Nepal: Issues, Challenges, and Opportunities*. <http://ceslam.org/mediastorage/files/Large%20scale%20migration%20and%20remittance%20in%20nepal%20issues%20and%20challenges%20-%20hissan.pdf> (4 March 2015).

A. About your basic information

A-1. Please choose your gender identity. Male Female Other

A-2. Please write down the year of your birth in Gregorian calendar. (NOT in Nepali BS) _____

A-3. Please write down your caste/ethnic identity (Jaat/Thar) _____

A-4. Where is your birth place ?

A-4-1. District	A-4-2. Municipality/VDC
-----------------	-------------------------

A-5 Where do you live now in Japan ?

A-5-1. Prefecture(県)	A-5-2. City/Town/Village
----------------------	--------------------------

A-6. What are you doing in Japan now (Multiple choices)

a Engaed in own business (Self-employed):	f Studying at a university
b Working as a full time employee	g Studying at a graduate school and above
c Working as a part time employee アルバイト/パート	h Teaching at a university/school
d Studying at a Japanese language school	i Living with a Nepali spouse
e Studying at a vocational school 専門学校	j Living with a Japanese spouse
	k Other

B. About yourself in Nepal

B-1 Please choose the level of education you have completed in Nepal (Choose only one).

1 Non literate	7 SLC Pass
2 Literate (Never attended/Self-learning)	8 Higher Secondary (10+2)
3 Non-Formal Educaiton (NFE)	9 Bachelor/Undergraduate Level (BA, BEd, BSc, BBS, etc.)
4 Primary Level (Class 1-5)	10 Master/Graduate Level (MA, MSc. MBA, MBS, etc.)
5 Lower Secondary (Class 6- 8)	11 Post Graduate Level (Mphil)
6 Secondary (Class 9-10)	12 Doctoral Level (PhD)

B-2. Please choose the type of your school where you have attended at the final stage, before your departure to Japan.

1 Government Nepali medium	3 Private Nepali medium
2 Government English medium	4 Private English medium
	5 Gurukul/Madrasha/Gumba/Missionary

B-3. What were you doing in Nepal before your departure to Japan?

1 Own business/shops	6 Studying (Student)
2 Full-time employee	7 Looking for a job
3 Part-time employee	8 Nothing in particular (No need to work)
4 Agriculture	9 Other
5 Household work (Un-paid/helping own family without wage)	

B-4. Which sector of work were you engaged in Nepal ? (Multiple choices)

a Agriculture/Forestrry/Fishery	h Public service (Civil servant)
b Manufacture/Craft	i Education /Teaching
c Construction/Engineering	j Security (Army / Police / Armed Police / Gurkhas/Other)
d Trading	k Medical (Doctor / Nurse / Pharmasist/Other)
e Retail (Shops)	l Social work (NGOs, other non-profit)
f Tourism / Food business (Hotel, Restaurant)	m None
g Journalism	n Other ()

B-5. What kinds of job position /status were you in Nepal ? (Multiple choice)

a Professional (専門職)	e Service/Sales worker (店員)
b Skilled worker / Technician (such as a cook) (技術職)	f Assistant level/supporting role (補助職)
c Manager (管理職)	g Family worker (家族従事者)
d Operator (作業員)	h Intern /Trainee (見習い)
	i None

B-6. How much was your individual cash income per month in NRs. before your departure to Japan ?

1.0-10,000	2.10,001-30,000	3.30,001-50,000	4.50,001 above	5 No regular income
------------	-----------------	-----------------	----------------	---------------------

B-7. Who was the most reliable for different occasions when you were in Nepal? (Choose only one in each occasion)

Occasions	Family/relatives	Nepali Friends	Foreign friends	Neighbours	Colleagues	Fellows from same area	Public services	NGOs	None
A To find a job	1	2	3	4	5	6	7	8	9
B To get a loan/financial support	1	2	3	4	5	6	7	8	9
C To get care when sick or injured	1	2	3	4	5	6	7	8	9
D To get support for household work	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E To get support for child/family care	1	2	3	4	5	6	7	8	9
F To get advice on health problem	1	2	3	4	5	6	7	8	9
G To get advice on welfare system	1	2	3	4	5	6	7	8	9
H To get advice for family problems	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I To get advice on domestic violence	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J To get psychological support	1	2	3	4	5	6	7	8	9
K To enjoy together (eating, chatting)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
L To go for shopping together	1	2	3	4	5	6	7	8	9

C. About your family

C-1. What is your marital status now?

1 Never married	5 Divorced
2 Once married	6 Separated
3 Multiple spouses	7 Remarried
4 Widow/widower	8 Living with a partner without legal arrangement

C-2. What is the nationality of your present spouse/partner

1. Nepali	2. Japanese	3. Other ()
-----------	-------------	--------------

C-3. Please choose the family members you stayed together before your departure to Japan (Multiple choice)

a Spouse (Husband/Wife)	g Sister-in-law	l Son-in-law
b Child	h Brother-in-law	m Grand child
c Parent	i Daughter	n Relative
d Parent-in-law	j Son	o Friend
e Sister	k Daughter-in-law	p Colleague
f Brother		q Other

C-4 Please write down the ages of your children living in Nepal now in brackets.

No children in Nepal / Girl () () () / Boy () () ().

D. About your migration history

D-1. Please write down the year when you left your birth place in Gregorian calendar. _____

D-2. Have you stayed in other countries other than Japan?

Country	Year (From – To)	Objective

D-3. Where did you live before your departure to Japan?

Country/District		Municipality/VDC
------------------	--	------------------

D-4. Which year did you come to Japan for the first time? Year _____

D-5. How many years have you been in Japan in total? (Year/s)

D-6. Why did you leave Nepal? (Multiple choice)

a Lack of employment opportunity	e Lack of security due to conflict
b Lack of educational institutions for particular subjects/skills	f Necessary to migrate with family members
c Lack of medical facilities to get treatment	g Followed advices of families
d Lack of opportunities for life in general	h Followed advices of friends/colleagues
	i Others ()

D-7. Why did you particularly choose Japan as a destination? (Multiple choices)

a Invitation by family/relatives	h To earn money
b Invitation by Nepali friends/colleagues	i To get refugee status
c Invitation by Japanese friends/colleagues	j Easy to find a scholarship
d To marry a Japanese	k Easy to get admission from a school
e To learn Japanese language	l Easy to get a visa
f To learn Japanese culture	m Easy to find a job
g To learn particular subjects/skills	n Expect security and safety
	o Others ()

D-8 From where did you get information about Japan before your departure? (Multiple choices)

a Japanese Language School	f Family/relative living in Nepal
b Consultant agency	g Friends/colleagues living in Nepal
c Recruitment company	h TV/Radio
d Family/relatives living in Japan	i Newspaper/Magazine
e Friends/colleagues living in Japan	j Websites
	k Others ()

E. About your legal status

E-1. Please indicate the order of your legal status that you have obtained since your arrival in Japan.

If you entered Japan with a temporary visitor visa first, then joined college and married to Japanese, indicate as follows. Example: Temporary visitor visa (1), Student (2), Spouse or Child of Japanese Nationalities (3)

1 Diplomat	16 Skilled labor
2 Official	17 College student
3 Professor/Academician	18 Technical Intern Training
4 Artist	19 Cultural activities
5 Religious Activities	20 Temporary visitor
6 Journalist	21 Student
7 Investor/Business Manager	22 Trainee
8 Legal/Accounting Services	23 Dependent
9 Medical Services	24 Designated Activities
10 Researcher	25 Permanent Resident
11 Instructor	26 Spouse or Child of Japanese nationalities

12 Engineer	27 Spouse or Child of permanent resident
13 Specialist in humanities/ International Services	28 Long-Term Resident
14 Intra-company Transferee	29 Refugee
15 Entertainer	30 Others()

E-2. Which legal status you are planning to get in future? Choose one from the list in E-1 listed above if you would like to change your present legal status.()

F. About your language skill

F-1. Please indicate with ✓ about your language skill before your departure to Japan.

Skills	Capable with confidence	Capable	Not capable
Japanese			
A Conversation	1	2	3
B Reading Hiragana & Katakana	1	2	3
C Writing Hiragana & Katakana	1	2	3
D Reading Kanji	1	2	3
E Writing Kanji	1	2	3
F Reading books/newspaper	1	2	3
G Writing e-mail/letters	1	2	3
English			
H Conversation	1	2	3
I Reading books/newspaper	1	2	3
J Writing e-mail/letters	1	2	3

F-2. Which Japanese language classes have you attended? (Multiple choices)

a Japanese language school in Nepal before coming to Japan	e Japanese language class in Japan at free of cost (run by local government or NGO)
b Japanese language class in Nepal provided by a recruitment company	f Japanese language lesson in Japan provided by a friend/colleague
c Japanese language school in Japan after arrival from Nepal	g None
d Japanese language class in Japan provided by a university/ college or a company	

F-3. Please indicate with ✓ about your language skill now.

Skills	Capable with confidence	Capable	Not capable
Japanese			
A Conversation	1	2	3
B Reading Hiragana & Katakana	1	2	3
C Writing Hiragana & Katakana	1	2	3
D Reading Kanji	1	2	3
E Writing Kanji	1	2	3
F Reading books/newspaper	1	2	3
G Writing e-mail/letters	1	2	3

English			
H Conversation	1	2	3
I Reading books/newspaper	1	2	3
J Writing e-mail/letters	1	2	3

F-4. Please indicate your highest level of certificate in each Japanese language test.

- A Japanese-Language Proficiency Test: N1 N2 N3 N4 N5
 B J-TEST: 特 A A 準 A B 準 B C D 準 D E F G
 C NAT-TEST: 1 級 2 級 3 級 4 級 5 級
 D. Others ()

F-5. Which language do you use most at home? (Choose only one)

Japanese English Nepali Ethnic language of Nepal (), Other()

G. About your life in Japan

G-1. Please write down all the names of cities/towns/villages where you spent more than 3 months in Japan since you came to Japan.

City/Town/Villages	Year (From – To)	What did you there?

G-2. Why did you particularly choose the present place? (Multiple choices)

- | | |
|---|--|
| a Invitation by family/relatives | g Easy to find a job |
| b Invitation by Nepali friends/colleagues | h Easy to find an accommodation |
| c Invitation by Japanese friends/colleagues | i Living expenses cheaper than other areas |
| d Easy to find a scholarship | j Expect security and safety |
| e Easy to get an admission from a school | k Liked environment of the area |
| f Easy to get a visa | l No particular reasons |
| | m Others () |

G-3. From where did you get information about the present place ? (Multiple choices)

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| a Japanese Language School | e Friends/colleagues living in Japan |
| b Consultant agency | f TV/Radio |
| c Recruitment company | g Newspaper/Magazine |
| d Family/relatives living in Japan | h Websites |

G-4. With how many persons do you live together in Japan now? (including yourself _____ persons)

G-5. Please choose the members you stay together now in Japan (Multiple choice)

- | | | |
|-------------------------|-------------------|---------------|
| a Spouse (Husband/Wife) | g Sister-in-law | m Grand child |
| b Child | h Brother-in-law | n Relative |
| c Parent | i Daughter | o Friend |
| d Parent-in-law | j Son | p Colleague |
| e Sister | k Daughter-in-law | q None |
| f Brother | l Son-in-law | r Other () |

G-6. Do you have any family members or relatives living in Japan but not staying together? 1Yes 2No

G-7. What kind of accommodation do you live now?

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 Own house | 6 Sharing apartment |
| 2 Own apartment | 7 Dormitory of company/school |
| 3 Rental house | 8 Public housing 賃貸公営住宅 |
| 4 Rental apartment | 9 Other () |
| 5 Sharing a house | |

G-8-1 (Only for those who rents a house/apartment) Who is the renter of your accommodation now?

a Self	e Japanese Language School
b Own family member	f University/college/vocational school
c Nepali friend/colleague	g Employer/Company
d Japanese friend/colleague	h None
	i Others ()

G-8-2 (Only for those who rents a house/apartment) Who is the guarantor of your accommodation now?

a Own family member	e University/college/vocational school
b Nepali friend/colleague	f Employer/Company
c Japanese friend/colleague	g None
d Japanese Language School	h Others ()

G-9. What is your sources of income in Japan? (Multiple choices)

a Scholarship	g Remittance from separated/divorced spouse in Japan
b Own salary	h Life Protection Allowance 生活保護費
c Business profits	i Child Allowance 児童扶養手当
d Earning of Nepali family/relatives staying together in Japan	j Security Allowance for Refugee Applicants 難民申請者用保護費
e Earning of Japanese family/relatives staying together in Japan	k Others ()
f Remittance from family in Nepal	

G-10. Do you regularly send money to your family in Nepal? Yes/No

G-11. Which sector of work are you engaged in Japan now ? (Multiple choices)

a Agriculture/Forestry/Fishery	h Public service (Civil servant)
b Manufacture/Craft	i Education /Teaching
c Construction/Engineering	j Security (Army/Police/Armed Police/Gurkhas/Other)
d Trading	k Medical (Doctor / Nurse / Pharmacist/Other)
e Retail (Shops)	l Social work (NGOs, other non-profit)
f Tourism / Food business (Hotel, Restaurant)	m Other ()
g Journalism	n None

G-12. What kinds of job types/status are you in Japan now? (Multiple-choice)

a Professional (専門職)	e Service/Sales worker (店員)
b Skilled worker / Technician (such as a cook) (技術職)	f Assistant level/supporting role (補助職)
c Manager (管理職)	g Family worker (家族従事者)
d Operator (作業員)	h Intern /Trainee (見習い)
	i None

G-13. Which type of contract do you get for your primal job?

1 Life-time full-time employee	5 Irregular
2 Time-bound full-time employee	6 Trainee below minimum wage
3 Part-time employee	7 Un-paid
4 Daily wage	8 Others ()

G-14. How many hours are you engaged in paid work per week? _____ hour per week

G-15. How much do you earn per month regularly in Japan? (Japanese Yen)

1. below 50,000	2. 50,001 -100,000	3. 100,001 - 200,000	4. 200,001 above	5 No regular income
-----------------	--------------------	----------------------	------------------	---------------------

G-16. Do you earn as you expected before your arrival in Japan? 1 Yes 2 No

G-17. Which social security schemes do you pay premium?

a National Health Insurance in Japan 国民健康保険	f Private Insurance of Nepal
b Employment Insurance in Japan 雇用保険	ネパールで加入した保険

c	National Pension in Japan	国民年金	g	Travel Insurance	旅行者保険
d	Private Life Insurance in Japan	生命保険	h	Do not know	
e	Private Insurance for foreign students 外国人留学生用保険		i	Others ()	

H. About your social life in Japan

H-1. How do you spend your spare time in Japan? (Multiple choices)

a	Take a rest	d	Meet Japanese friends
b	Engaged in household work	e	Others ()
c	Meet Nepali friends		

H-2. Please indicate any Japanese groups that you have memberships now (Multiple choices)

a	Neighbourhood Association 町内会/自治会	g	Sports Club
b	Housing Management Committee of Mansion マンションの管理組合	h	Social Groups for hobbies
c	Parent Teachers Association (PTA) of your children's schools	i	Religious Groups (Church-based, others)
d	Mothers' group	j	Night School
e	Student Union of your school	k	Japan-Nepal Association
f	Labour Union	l	Non-Government Organizations/Non-Profit Organizations
		m	Others ()

H-3. Please indicate any Nepalese groups that you have memberships now in Japan (Multiple choices)

a	Non-Resident Nepali Association (NRNA) Japan	c	District-Based Association (hometown fellowship) 同郷人会
b	Ethnicity/Cased-Based Association in Japan	d	Nepalese Student Association in Japan(NESAJ)

H-4. Please write down the names of associations that you have memberships other than listed in H-3.

H-5. How do you feel your present life in Japan ? (Choose only one in each element)

Element	Fully agree	Agree	So so	Disagree	Strongly disagree
A Satisfied with everyday life	1	2	3	4	5
B Worried about everyday life	1	2	3	4	5
C Happier than the life in Nepal	1	2	3	4	5
D Worse than the life in Nepal	1	2	3	4	5

H-6. How do you feel about each aspect of your life in Japan now? (Choose only one in each aspect)

Aspect	Highly satisfied	Satisfied	So so	Worried	Seriously worried	Not applicable
A Relationship with Japanese spouse/family	1	2	3	4	5	6
B Relationship with Nepali spouse/family in Japan	1	2	3	4	5	6
C Relationship with Nepali spouse/family in Nepal	1	2	3	4	5	6
D Relationship with Japanese friends	1	2	3	4	5	6
E Relationship with Japanese colleagues	1	2	3	4	5	6
F Relationship with Japanese neighbours	1	2	3	4	5	6
G Relationship with Nepali friends/colleagues	1	2	3	4	5	6
H Relationship with other foreign friends/colleagues	1	2	3	4	5	6
I Types of works engaged in	1	2	3	4	5	6
J Income/Earning	1	2	3	4	5	6
K Working conditions	1	2	3	4	5	6
L Legal status in Japan	1	2	3	4	5	6
M Accommodation	1	2	3	4	5	6
N Own schooling/education/carrier	1	2	3	4	5	6
O Natural disaster	1	2	3	4	5	6
P Japanese language skill	1	2	3	4	5	6
Q Getting professional counselling for future carrier	1	2	3	4	5	6
R Access to public services	1	2	3	4	5	6
S Access to medical facilities	1	2	3	4	5	6
T Caring and schooling of own children	1	2	3	4	5	6
U Enjoying life	1	2	3	4	5	6
V Sexual relation with spouse/partner/Abuse by them	1	2	3	4	5	6
W Mental and psychological conditions	1	2	3	4	5	6

H-7. Have you ever get counselling services in the following institutes? And in which language did you get the service? (Multiple choices)

Element	Nepali	English/	Japanese	Other
A Municipal/City/Town Office	1	2	3	4
B Women's Centre run by local government	1	2	3	4
C Shelter run by NGO	1	2	3	4
D NGO	1	2	3	4
E Counsellor of University/College/School	1	2	3	4
F Counselling room at private company	1	2	3	4
G Labour Union	1	2	3	4
H Private counselling service by lawyer	1	2	3	4
I Free dial service (by telephone)	1	2	3	4
J Online/web-based service	1	2	3	4
K None	1	2	3	4

H-8. Who is the most reliable advisor/source of information for different occasions in Japan now? (Choose only one in each occasion)

Occasions	Japanese family/relatives	Nepali family/relatives	Japanese friends	Nepali friends	Other foreign friends	Japanese Neighbours	Japanese Colleagues	Nepali colleagues	Nepali fellows from same area	NGOs	Telephone Hotline services	Counselling service by government	International centre run by local government	Websites	None
A To find a job	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
B To get a loan/financial support	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
C To get care during sick or injured	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
D To get support for household work	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
E To get support for child/family care	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
F To get advice on health problem	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
G To get advice on welfare system	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
H To get advice for family problems	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
I To get advice on domestic violence	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
J To get psychological support	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
K To enjoy together (eating, chatting)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
L To go for shopping together	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

I. About your future

I-1. What is the most important thing that you have gained during your stay in Japan? (Multiple choices)

a Japanese Language Skill	f Nepali Spouse
b English Language Skill	g Money
c Japanese Friends/Colleague	h Particular skills for job ()
d Japanese Spouse	i Others ()
e Nepali Friends/Colleague	

I-2. What is your plan in Japan?

a Study at higher institutes	e Be a Japanese national
b Do own business	f Migrate to other country from here
c Be a full-time employee	g Others ()
d Get married with a Japanese	

I-3. How many years more will you be in Japan?

- 1 less than 1 year 2 1-5 3 5-10 4 Forever 5 Do not know

I-4. For what did you invest your earnings from Japan in Nepal?

a Renovated own house	e Send other family members Japan
b Bought a house for family	f Send other family members to other countries
c Bought land	g Used for medical expenses for family members
d Invested for business	h Saving
	i Other ()

I-5. What are you going to do in Nepal? (Multiple choices)

a Study at higher institute	d Get married with Nepali
b Start own business	e Teach Japanese language
c Be a full-time employee	f Others ()

I-6. Please write down your name, e-mail address and phone numbers if you do not mind for further interview.

Thank you for your kind cooperation!

A. व्यक्तिगत जानकारी

A-1. लिंग _____ महिला _____ पुरुष _____ अन्य _____

A-2. जन्ममिति (अंग्रेजी वर्ष) _____

A-3. जातियता (जात/थर) _____

A-4. जन्मस्थान ?

A-4-1. जिल्ला	A-4-2. नगरपालिका / गा.वि.स
---------------	----------------------------

A-5 हाल जापानको ठेगाना

A-5-1. प्रान्त (県)	A-5-2. शहर / गाँउ / वडा (市町村)
--------------------	-------------------------------

A-6. हाल जापानमा के के गर्दै हुनुहुन्छ ? (एकभन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a. स्व-रोजगार	g. उच्चशिक्षामा अध्ययनरत
b. पूर्ण कालिन रोजगारी	h. शिक्षण पेशामा संलग्न
c. अर्ध कालिन रोजगारी (आरुवाइतो / पार्टटाइम)	i. नेपाली परिवारसँग बसाइ
d. भाषा शिक्षणमा अध्ययनरत	j. जापानी परिवारसँग बसाइ
e. व्यवसायिक शिक्षा (सेममोन गाक्को)	k. अन्य
f. विश्वविद्यालयमा अध्ययनरत	

B. नेपालमा रहनु हुँदाका सम्बन्धमा जानकारी

B-1 तपाईंले नेपालमा पूरा गर्नुभएको अध्ययन (कुनै एक मात्र)

1 अशिक्षित	7 एस.एल.सी. उर्तिण (प्रवेशिका परिक्षा उर्तीण)
2 शिक्षित (तर विद्यालय नगएको)	8 उच्च माध्यमिक (१२)
3 अनौपचारिक शिक्षा	9 स्नातक तह (बिए.वि.एड, वि. एस्सी, वि. बिएस अन्य)
4 प्राथमिक शिक्षा (कक्षा १-५)	10 स्नोकत्तर (एमए, एमएड, एम. एस्सी, , एम.बिएस अन्य)
5 निम्न माध्यमिक शिक्षा (कक्षा ६-८)	11 पोष्ट ग्राजुएट -एम.फिल)
6 माध्यमिक शिक्षा (कक्षा ९-१०)	12 विधावारिधी (पि. एच. डी)

B-2. तपाईंले नेपालमा कस्तो किसिमको विद्यालयमा आफ्नो अध्ययन पूरा गर्नुभएको थियो ।

1 नेपाली माध्यमको सरकारी विद्यालय	3 नेपाली माध्यमको निजी विद्यालय
2 अंग्रेजी माध्यमको सरकारी विद्यालय	4 अंग्रेजी माध्यमको निजी विद्यालय
	5 गुरुकुल / मदरसा / गुम्बा / मिसनरी

B-3. जापान आउनुअघि कस्तो पेशामा संलग्न हुनुहुन्थ्यो ? के गर्नुहुन्थ्यो ?

1 स्व-रोजगार	6 विधार्थी
2 पूर्ण-कालिन रोजगारी	7 रोजगारको खोजीमा
3 अर्ध कालिन रोजगारी	8 काम गर्ने जरुरत थिएन
4 कृषि	9 अन्य भएमा स्पष्ट खुलाइदिनुहोस ।
5 घरायसी काम (बेतलबी)	

B-4. नेपालमा कुन क्षेत्रसँग सम्बन्धित काममा संलग्न हुनुहुन्थ्यो ? (एक भन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a कृषि / वन / माछापालन	h सरकारी कर्मचारी
b उत्पादन / हस्त निर्मित सामान	i शिक्षासँग सम्बन्धित
c निर्माण / प्रविधी	j सुरक्षासँग सम्बन्धित
d व्यापार	k स्वास्थ्यसँग सम्बन्धित
e खुद्रा व्यापार	l सामाजिक सेवा
f पर्यटन/खाद्य व्यापार (होटल स्टुरेन्ट सँग सम्बन्धित)	m कुनै पनि होइन
g पत्रकारिता	n अन्य ()

B-5. नेपालमा रहदा तपाइलें कस्तो किसिमको कार्यभार/पदभार सम्हाल्नुभएको थियो (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a व्यवसायिक (professional)	e सेवा/सामग्री विक्रेता (Sales worker)
b दक्ष जनशक्ति / प्राविधिक (Skilled worker)	f सहायक तह (Assistant Level)
c प्रबन्धक (Manager)	g घरायसी कामदार (Family worker)
d संचालक (Operator)	h प्राशिक्षार्थी (Intern/trainee)
	i कुनै पनि होइन

B-6. जापानमा आउनु अघि प्रति महिना सरदार आन्दानी ?

1. रु.१०,००० भन्दा कम 2. रु.१०,००१ - ३०,००० 3. रु.३०,००१ - ५०,००० 4. रु.५०,००१ भन्दा माथि

5. निश्चित आम्दानी छैन

B-7. नेपालमा रहनुहुँदा आफूलाई आइपरेका समस्या समाधानका लागि सबैभन्दा विश्वसनिय संस्था/व्यक्ति तलका मध्ये कुन थियो ? प्रत्येक प्रश्नको कुनै एकमा मात्र चिनो लगाउनु होला ?

परिवेश	परिवार/नातेदार	नयाली साथीभाई	विदेशी साथीभाई	छिमेकी	सँगै पढ्ने साथी	एउटै क्षेत्रमा काम गर्ने	सरकारी संस्था	गैर सरकारी संस्था	कुनै पनि होइन
A कामको खोजी	1	2	3	4	5	6	7	8	9
B आर्थिक सहयोग/सरसापटी	1	2	3	4	5	6	7	8	9
C विरामी पर्दा/चोटपटक लाग्दा सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
D घरायसी सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E केटाकेटी रेखदेख/ पारिवारीक सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
F स्वास्थ्य सम्बन्धी सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
G आर्थिक सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
H धरायसी सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I घरेली हिंसा सम्बन्धी सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J मनोविज्ञान सम्बन्धी सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
K रमाइलो गर्न (खाने, गफ गर्ने)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
L किनमेलमा साथ	1	2	3	4	5	6	7	8	9

C. परिवार सम्बन्धि जानकारी**C-1.** हाल तपाईंको वैवाहिक स्थिति कस्तो छ ?

1 अविवाहित	5 सम्बन्ध विच्छेद
2 विवाहित	6 छुट्टिएर रहेको
3 बहुविवाहित	7 पूर्ण विवाहित
4 विदुर/विधवा	8 कानुनी मान्यता विना सँगै रहदै बस्दै आएको

C-2. तपाईंको हालको जीवनसाथी (पार्टनर) कहाँको नागरिक हो ?

1. नेपाली 2. जापानी 3. अन्य भएमा स्पष्ट खुलाइदिनुहोस ()

C-3. जापान आउनु अघि तपाईंको परिवारमा को को सँगै बस्नुभएको थियो ? (एक भन्दा बढी चिनो लगाउन सकिने)

a जोडीदार (श्रीमान/श्रीमती)	g नन्द/आमाजु	l ज्वाई
b केटाकेटी	h जेठाजु/देवर	m नाती / नातिनी
c अविभावक (बुवा/आमा)	i छोरी	n नातेदार
d सासु/ससुरा	j छोरा	o साथी
e दिदीबहिनी	k बहारी	p सहपाठी
f दाजुभाई		q अन्य

C-4 हाल नेपालमा रहेका छोराछोरीको उमेर उल्लेख गर्नुहोस (नेपालमा रहेका मात्र)

नेपालमा सन्तान छैन / छोरीको उमेर ()()() / छोराको उमेर ()()()

D. स्थानान्तरण सम्बन्धि जानकारी**D-1.** तपाईंले आफ्नो जन्मस्थान छोडनुभएको तिथि /मिति ? (अंग्रेजी वर्ष) _____**D-2.** जापान बाहेक अन्य देशमा पनि जीवन बिताउनुभएको थियो ?

देश	वर्ष (देखि-सम्म) (अंग्रेजी वर्ष)	उद्देश्य

D-3. जापान आउनु अघि कहाँ बसोबास गर्नुहुन्थ्यो ?

देश/जिल्ला	नगरपालिका/गाँउ विकास समिति
------------	----------------------------

D-4. जापानमा सबैभन्दा पहिला कहिले आउनुभएको थियो ? (अंग्रेजी वर्ष) सन _____**D-5.** जापानमा रहनु भएको जम्मा कति अवधि भयो ? (वर्ष)

D-6. नेपाल छोडनुको कारणहरु (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a रोजगारीको कमी	f परिवारको बसाई सराई
b विषय विशेष शैक्षिक संस्थाको कमी	g परिवारको सल्लाह
c आवश्यक औषधी चिकित्साको कमी	h साथीभाइको सल्लाह
d जीउने आधारको कमी	i अन्य ()
e द्वन्दका कारण सुरक्षाको कमी	

D-7. जापाननै छान्नुको मुख्य कारण (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a परिवार/नातेदारको आमन्त्रण	h पैसा कमाउन
b नेपाली साथी/सहपाठीद्वारा आमन्त्रण	i शरणार्थी बन्न
c जापानी साथी/सहपाठी द्वारा आमन्त्रण	j छात्रवृत्ति पाउन सजिलो
d जापानीसँगको वैवाहिक सम्बन्ध	k भर्ना हुन सजिलो
e जापानी भाषा सिकाइ	l भिसा प्रक्रिया सजिलो
f जापानी संस्कृति सिकाइ	m काम पाउन सजिलो
g विषय विशेष क्षमता अभिवृद्धि	n सुरक्षा अनुभूतिका लागि
	o अन्य भएमा स्पष्ट खुलाउने ()

D-8 जापानको बारेमा जानकारी कहाँबाट पाउनुभयो ? (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a जापानी भाषा-विद्यालय	f नेपालमा रहेको परिवार/नातेदार
b कन्सल्टयान्ट एजेन्सी	g नेपालमा रहेका साथी/सहपाठी, सहकर्मी
c रोजगार कम्पनी	h टिभी / रेडियो
d जापानमा रहेका परिवार/नातेदार	i पत्र-पत्रिका
e जापानमा रहेका साथी/सहपाठी	j वेबसाइट
	k अन्य भएमा स्पष्ट खुलाइदिनुहोस ।()

E. नियम - कानूनसँग सम्बन्धित जानकारीका लागि

E-1. जापान प्रवेश गर्नु भएको समयदेखि तपाईंको भिसाको कानुनी अवस्था के कस्तो रहयो, क्रमिक रुपमा जानकारी दिनुहोस । जस्तै यदि तपाईं अस्थाई भिसा मा प्रवेश गर्नु भई क्रमिक रुपमा विद्यालय प्रवेश गर्नु भई जापानीसँगको विवाह भएको खण्डमा सँगै रहेको कोष्ठमा अस्थाई भिसा (१) विधार्थी (२) जापानी सँगको वैवाहिक सम्बन्ध (३) भनि बुझिनेछ ।

1 कृटनितिज्ञ	16 सिपयुक्त कामदार
2 प्रशासक	17 कलेज विधार्थी
3 शिक्षण पेशामा संलग्न	18 व्यवसायिक सिकारु
4 कलाकार	19 कला-संस्कृतिसँग सम्बन्धित
5 धार्मिक क्रियाकलापहरु	20 अल्पकालिन आगन्तुक
6 पत्रकार	21 विधार्थी (भाषा)
7 लगानीकर्ता /Business Manager	22 प्रशिक्षार्थी
8 कानूनी / लेखा सेवा	23 आश्रीत
9 स्वास्थ्य सेवा	24 पूर्व निर्धारित कार्यक्रम गर्नेहरु
10 सोधकर्ता	25 स्थायी बासिन्दा / बसोवास
11 प्रशिक्षक	26 जापानी अभिभावक वा सन्तानहरु
12 इन्जिनियर	27 स्थानीय बसोवासका अविभावक वा सन्तानहरु
13 विषय विशेषज्ञ	28 लामो समयको बसोवास
14 अन्तरसंस्था प्रशिक्षार्थी	29 शरणार्थी
15 मनोरञ्जन गराउने	30 अन्य ()

E-2. भविष्यमा कस्तो कानुनी अवस्थाको (भिसा) चाहना राख्नुभएको छ ? माथि E-1 मा उल्लेखित मध्ये कुनै एक छनोट गर्नुहोस ।()

F. भाषा क्षमता सम्बन्धि जानकारी

F-1. जापान आउनु अघि आफूमा रहेको भाषा क्षमतामा ठीक ✓ चिन्ह लगाउनुहोस ।

	क्षमता	एकदमै राम्रो	ठीक	पटकै थिएन
जापानी	A वार्तालाप	1	2	3
	B हिरागाना र कातागाना पढन	1	2	3
	C हिरागाना र कातागाना लेख्न	1	2	3
	D खान्जी पढन	1	2	3
	E खान्जी लेख्न	1	2	3
	F किताब / पत्र-पत्रिका पढन	1	2	3
	G इमेल र चिठीहरू लेख्न	1	2	3
अंग्रेजी	H वार्तालाप	1	2	3
	I किताब / पत्र-पत्रिका पढन	1	2	3
	J इमेल र चिठी लेख्न	1	2	3

F-2. हालसम्म कुन कुन जापानी कक्षाहरूमा भाग लिनुभयो ? (एक भन्दा बढीमा चिन्ह लगाउन सकिने)

- | | |
|----------|---|
| a | जापान आउनु अगावै नेपालमा जापानी भाषा विधालयमा |
| b | जापान आउनु अगावै नेपालमा रोजगार कम्पनीले दिएका भाषा कक्षाहरू |
| c | जापान आएपछि जापानी भाषा विधालयमा |
| d | जापान आएपछि विधालय / विश्वविधालय / कम्पनीहरूले प्रदान गरेका भाषा कक्षाहरू |
| e | जापान सरकारी वा गैर सरकारी संस्थाले प्रदान गरेका निःशुल्क भाषा कक्षाहरू |
| f | जापान आएपछि साथी एवं सहपाठीले प्रदान गरेका जापानी कक्षा / पाठहरू |
| g | कुनै पनि होइन |

F-3. हाल तपाईंको जापानी भाषा क्षमतामा ठीक ✓ चिन्ह लगाउनुहोस ।

	क्षमता	एकदमै राम्रो	ठीक	पटकै थिएन
जापानी	A वार्तालाप	1	2	3
	B हिरागाना र कातागाना पढन	1	2	3
	C हिरागाना र कातागाना लेख्न	1	2	3
	D खान्जी पढन	1	2	3
	E खान्जी लेख्न	1	2	3
	F किताब / पत्र-पत्रिका पढन	1	2	3
	G इमेल र चिठीहरू लेख्न	1	2	3
अंग्रेजी	H वार्तालाप	1	2	3
	I किताब / पत्र-पत्रिका पढन	1	2	3
	J इमेल र चिठी लेख्न	1	2	3

F-4. जापानी भाषा परिक्षामा आफ्नो उच्चतम क्षमता कस्तो रहयो ? (चिनो लगाउनुहोस ।)

- A जापानी भाषा परिक्षा: N1 N2 N3 N4 N5
 B जे-टेष्ट: 特 A A 準 A B 準 B C D 準 D E F G
 C नाट-टेष्ट(NAT-TEST): 1 級 2 級 3 級 4 級 5 級
 D. अन्य ()

F-5. घरमा सबैभन्दा बढी कुन भाषा प्रयोग गर्नुहुन्छ ? (कुनै एक मात्र)

1. जापानी	2. अंग्रेजी	3. नेपाली	4. जातिय भाषा ()
5. अन्य ()			

G. जापानी जीवन शैली सम्बन्धमा जानकारी

G-1. तपाईं जापानमा आउनुभएदेखि ३ महिना भन्दा बढी समय बिताउनुभएका शहर/ गाँउको नाम उल्लेख गर्नुहोस ।

शहर / गाँउको नाम	रहनुभएको अवधि (देखि बाट)	त्यहाँ रहदा गर्नुभएको कार्य

G-2. हालको स्थान चयन गर्नुको मुख्य कारण ? (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a परिवार / नातेदारको आमन्त्रण	g काम पाउन सजिलो
b नेपाली साथी / सहपाठीको आमन्त्रण	h बसोबासका लागि सजिलो
c जापानी साथी / सहपाठीको आमन्त्रण	i अन्य स्थान भन्दा दैनिक खर्च कम लाग्ने
d छात्रवृत्ति पाउन सजिलो	j सुरक्षाको अनुभूति
e विद्यालय भर्ना हुन सजिलो	k उपयुक्त वातावरण
f भिसा पाउन सजिलो	l कुनै कारण हैन
	m अन्य ()

G-3. हालको स्थानको बारेमा कहाँबाट जानकारी पाउनुभयो ? (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a जापानी भाषा विद्यालय मार्फत	e जापानमा रहेका साथीभाई मार्फत
b परामर्श एजेन्सी मार्फत	f टेलिभिजन / रेडियो मार्फत
c रोजगार दाता मार्फत	g पत्र-पत्रिका मार्फत
d जापानमा रहेका परिवार/नातेदार मार्फत	h वेबसाइटहरु मार्फत

G-4. हाल तपाईं लगायत कति जना सँगै बस्नुहुन्छ ? ()

G-5. तपाईंसँग हाल परिवारका अन्य सदस्यहरु को को सँगै हुनुहुन्छ चिनो लगाउनुहोस (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a श्रीमान / श्रीमति	g नन्द / आमाजु	m नाती / नातिना
b केटाकेटी	h देवर / जेठाजु	n नातेदार
c अभिभावक	i छोरी	o साथी
d सासु / ससुरा	j छोरा	p सहपाठी
e दिदी / बहिनी	k बुहारी	q अन्य
f दाजु / भाई	l ज्वाइँ	r कोही पनि छैन

G-6. तपाईंको कुनै परिवारका सदस्य वा नातेदार तपाईंसँगै नबसी जापानको अन्य ठाँउमा बस्नु भएको छ ?
1 छ 2 छैन

G-7. हाल तपाईंको कस्तो किसिमको बासस्थान छ ?

1 आफ्नै घर	6 सामूहिक अपार्टमेन्ट
2 आफ्नै अपार्टमेन्ट	7 आवास / आवासिय क्षेत्र
3 भाडाको घर	8 सामुदायिक आवास(賃貸公営住宅)
4 भाडाको अपार्टमेन्ट	9 अन्य ()
5 सामूहिक घर	

G-8-1 तपाईंलाई भाडामा बस्न कसले दिएको छ (भाडामा बस्नेहरुका लागि मात्र)?

a आफ्नै	e जापानी भाषा स्कूल
b आफ्नै परिवारको सदस्य	f विधालय / विश्वविधालय
c नेपाली साथी / सहपाठी	g रोजगारदाता/ कम्पनी
d जापानी साथी / सहपाठी	h कोही पनि होइन
	i अन्य ()

G-8-2 तपाईंको बसाईको जिम्मेवारी कसले दिएको छ ?(भाडामा बस्नेहरुका लागि मात्र)

a आफ्नै परिवारको सदस्य	e विधालय / विश्व विधालय
b नेपाली साथी / सहपाठी	f रोजगारदाता/ कम्पनी
c जापानी साथी / सहपाठी	g कोही पनि छैन
d जापानी भाषा स्कूल	h अन्य ()

G-9. तपाईंको जापानमा आन्दानीको श्रोतहरु के के हुन ?(एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a. छात्रवृत्ति	g. जापानमा छुट्टिएको श्रीमान/ श्रीमतिको रेमिटयान्स
b. मासिक पारिश्रमिक	h. सरकारी जीवन सुरक्षा भत्ता
c. व्यवसायीक मुनाफा	i. बाल सुरक्षा भत्ता
d. सँगै रहेको परिवार नातेदारको कमाई	j. शरणार्थी सुरक्षा भत्ता
e. सँगै रहेको जापानी परिवार / नातेदारको कमाई	k. अन्य()
f. नेपालबाट रेमिटयान्स	

G-10. नेपालमा आफ्नो परिवारलाई नियमित रुपमा खर्च पठाउनु हुन्छ ? पठाउँछु / पठाउँदिन

G-11. जापानमा हाल कुन क्षेत्रसँग सम्बन्धित काम गर्नुहुन्छ ? (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a. कृषि/वन / माछापालन	h. प्रशासनिक कार्य
b. उत्पादन / हस्तकला सम्बन्धी काम	i. शिक्षण
c. निर्माण / इन्जिनियर	j. सुरक्षा (Army/Police/Armed Police/Gurkhas/Other)
d. व्यापार	k. स्वास्थ्य (Doctor / Nurse / Pharmacist/Other)
e. खुद्रा विक्री	l. सामाजिक सेवा (NGOs, other non-profit)
f. पर्यटन / खाद्य व्यवसाय (होटल, रेष्टुरेन्ट)	m. अन्य ()
g. पत्रकारिता	n. कुनै पनि होइन

G-12. हाल जापानमा कस्तो किसिमको पदभार संहारद्वै आउनु भएको छ ? (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|--|---|
| a व्यवसायिक (Professional) | e सेवा तथा सामग्री विक्रेता (Sales worker) |
| b दक्ष जनशक्ति / प्राविधिक (skilled worker, such as a cook) | f सहायक तह (Assistant) |
| c प्रबन्धक (Manager) | g घरायसी कामदार (Family worker) |
| d संचालक (Operator) | h प्रशिक्षार्थी (Intern/Trainee) |
| | i कुन पनि होइन |

G-13. काममा कस्तो किसिमको सम्झौता भएको छ ?

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1 जीवनभर पूर्णकालिन कामदार | 5 निश्चित छैन |
| 2 निश्चित समयका लागि पूर्णकालिन कामदार | 6 कम पारिश्रमिक प्रशिक्षार्थी |
| 3 अर्ध कालिन रोजगार | 7 विना - पारिश्रमिक |
| 4 दैनिक ज्याला | 8 अन्य भएमा स्पष्ट खुलाइदिनुहोला |

G-14. पारिश्रमिक पाउने कामका लागि हप्तामा कति घण्टा काम गर्नुहुन्छ ? _____ घण्टा प्रति हप्ता

G-15. महिनामा कति आम्दानी गर्नुहुन्छ ? जापानी येन

- | | | |
|-----------------------|------------------------|----------------------|
| 1. ५०,००० भन्दा कम | 2. ५०,००० - १००,००० | 3. १००,००१ - २००,००० |
| 4. २००,००१ भन्दा माथि | 5. निश्चित आम्दानी छैन | |

G-16. के तपाईंले जापान आउनु अगाडी सोच्नुभएको जति कमाई हुन्छ ? 1 हुन्छ 2 हुँदैन

G-17. कुनै सामाजिक सुरक्षा स्किमको शुल्क तिर्नु भएको छ ?

- | |
|--|
| a स्वास्थ्य विमा (National Health Insurance in Japan) 国民健康保険 |
| b कर्मचारी विमा (Employment Insurance in Japan) 雇用保険 |
| c निवृत्तिभरण विमा (National Pension in Japan) 国民年金 |
| d व्यक्तिगत जीवन विमा (Private Life Insurance in Japan) 生命保険 |
| e विदेशी विद्यार्थीको व्यक्तिगत विमा (Private Insurance for foreign students) 外国人留学生用保険 |
| f नेपालमा व्यक्तिगत जीवन विमा (Private Insurance of Nepal) |
| g यात्रा विमा (Travel Insurance) 旅行者保険 |
| h थाहा छैन |
| i अन्य () |

H. जापानको सामाजिक जीवन सम्बन्धमा जानकारी

H-1. जापानमा खाली समय कसरी बिताउनुहुन्छ ? (एकभन्दा बढी जवाफ लेख्न सकिने)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| a आराम गर्छु | d जापानी साथीसँग भेटभाट |
| b घरायसी काम | e अन्य () |
| c नेपाली साथीसँगको भेटभाट | |

H-2. जापानीमा रहेका कुनै समूहसँग तपाईंको संलग्नता छ भने चिनो लगाइदिनुहोस (एकभन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a सामुदायिक संगठन	g खेलकुद संघ
b आवास व्यवस्थापन समिति	h शोखका लागी अतिरिक्त सामाजिक क्रियाकलाप समूह
c आफना बाल बालिकाका लागि शिक्षक/अभिभावक संगठन	i धार्मिक क्रियाकलाप समूह
d आमा समूह	j रात्रि विद्यालय (Night School)
e शैक्षिक संस्थाको विद्यार्थी संगठन	k जापान-नेपाल संघ
f मजदुर संगठन	l गैह्र सरकारी /गैह्र नाफा मूलक संगठन
	m अन्य ()

H-3. नेपालीसँग सम्बन्धित कुनै समूहको तपाईं सदस्य हुनुहुन्छ भने चिनो लगाइदिनुहोस (एकभन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a गैह्र आवासिय नेपाली संगठन जापान (NRNA) Japan
b जापानमा रहेको जातिय संगठन (Ethnicity/Cast-Based Association in Japan)
c जिल्ला स्तरीय संगठन District-Based Association (hometown fellowship)
d जापानमा रहेका नेपाली विद्यार्थी संगठन (Nepalese Student Association in Japan(NESAJ)

H-4. माथि उल्लेख भएका बाहेक अन्य कुनै समूह / संस्था सँग तपाईंको संलग्नता / सदस्यता छ भने उल्लेख गरिदिनुहोस ।

H-5. हाल जापानको बसाई / जीवन कस्तो महशुस गर्नु भएको ? (प्रत्येकका लागि एउटा मात्र छान्नुहोस)

तत्वहरु	पूर्ण समर्थन	समर्थन	निक	असमर्थन	पटकै तारतम
A दैनिक जीवनसँग खुसी हुनुहुन्छ	1	2	3	4	5
B दैनिक जीवनसँगको बारेमा चिन्तित हुनुहुन्छ	1	2	3	4	5
C नेपालको जीवन भन्दा खुसी छु	1	2	3	4	5
D नेपालमा भन्दा पनि नाजुक छ ।	1	2	3	4	5

H-6. तपाईंले कहिले तल उल्लेखित संस्थाबाट सरसल्लाह एवं सहयोग पाउनु भएको छ ? यदि पाउनु भएको छ भने कुन भाषामा पाउनुभएको छ ? (एक भन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

तत्वहरु	नेपाली	अंग्रेजी	जापानी	अन्य
A नगरपालिका / शहर / गाँउ अफिस	1	2	3	4
B सरकारी रुपमा संचालित महिला केन्द्रहरु	1	2	3	4
C गैर सरकारी संस्थाले चलाएका बस्ने ठाँउहरु	1	2	3	4
D गैर सरकारी संस्था	1	2	3	4
E विद्यालय / महाविद्यालय / विश्वविद्यालयमा रहेको परामर्श दिइने स्थान	1	2	3	4
F निजी कम्पनी द्वारा संचालित परामर्श दिइने स्थान	1	2	3	4
G मजदुर संगठन	1	2	3	4
H कानूनका वकिलहरुद्वारा संचालित निजी केन्द्र	1	2	3	4
I निशुल्क फोन सेवा	1	2	3	4
J अन लाइन / वेब आधारित सेवाहरु	1	2	3	4
K कुनै पनि छैन	1	2	3	4

H-7. जापानमा विभिन्न अवस्थामा आवश्यक पर्दा सबैभन्दा नजिकको जानकारी एवं सल्लाह दिने व्यक्ति / श्रोत कुन हो ? (प्रत्येक पक्षमा एउटा रोज्नुहोस)

अवस्थाहरु	जापानी परिवार, नातेदार	नेपाली परिवार नातेदार	जापानी साथीहरु	नेपाली साथीहरु	अन्य देशका साथीहरु	जापानी छिमेकीहरु	जापानी सहकर्मी सहपाठीहरु	नेपाली सहकर्मी सहपाठीहरु	त्यही ठाँउमा रहेका नेपालीहरु	नैर सरकारी संस्था	हटलाइन फोन सेवा	सरकारी परामर्श सेवा	सरकारी इन्टर न्याशनल सेन्टर	वेबसाइटहरु	कनै पनि होइन
A काम खोज्नका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
B ऋण लिन / आर्थिक सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
C बिरामी पर्दा सहयोगको लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
D घरायसी सहयोगको लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
E केटीकेटी / परिवार रेखदेखका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
F स्वास्थ्य सम्बन्धी सल्लाह सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
G सामाजिक सुरक्षा सम्बन्धि सल्लाह सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
H पारिवारिक समस्या परेमा सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
I घरेलु हिसां सम्बन्धी सल्लाह सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
J मनोवैज्ञानिक सहयोगको लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
K मनोरञ्जनका लागि (सँगै खाने, कुराकानी गर्ने)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
L सँगै किनमेल जानका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

H-8. हाल जापानमा रहँदा आफ्ना जीवनका विभिन्न पक्षलाई कसरी हेर्नुभएको छ । (प्रत्येक पक्षमा एउटा रोज्तुहोस)

पक्षहरु	धेरै सन्तुष्ट	सन्तुष्ट	ठीक	पीर लाग्न	एकदमै पीर लाग्न	लागु हुँदैन
A जापानी परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
B जापानमा नेपाली परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
C नेपालमा नेपाली परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
D जापानी साथीहरूसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
E जापानी सहपाठी / सहकर्मीहरूसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
F जापानी छिमेकीसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
G नेपाली साथी / सहपाठीसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
H अन्य देशका साथी / सहपाठीसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
I हाल संलग्न रहेको काममा	1	2	3	4	5	6
J आम्दानी / पारिश्रमिक	1	2	3	4	5	6
K काम गर्ने वातावरण / अवस्था	1	2	3	4	5	6
L बसाइका लागि कानूनी मान्यता	1	2	3	4	5	6
M बसोबास	1	2	3	4	5	6
N आफ्नो शिक्षा / लक्ष्य	1	2	3	4	5	6
O प्राकृतिक प्रकोप	1	2	3	4	5	6
P जापानी भाषा क्षमता	1	2	3	4	5	6
Q भविष्यका लागि आवश्यक सरसल्लाह	1	2	3	4	5	6
R सरकारी सेवाहरुमा पहुँच	1	2	3	4	5	6
S औषधीउपचार सेवाहरुमा पहुँच	1	2	3	4	5	6
T बच्चाको स्याहार एवं पढाई	1	2	3	4	5	6
U मनोरञ्जनात्मक जीवन	1	2	3	4	5	6
V शारीरिक संसर्ग (जीवनसाथी / पार्टनर / तिनीहरुबाटको दुरव्यवहार)	1	2	3	4	5	6
W मानसिक एवं भावनात्मक संवेग	1	2	3	4	5	6

I. भविष्य सम्बन्धी जानकारीका लागि

I-1. तपाईंले जापानमा रहनुहुँदा सबैभन्दा महत्वपूर्ण के पाउनु भयो ? (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a जापानी भाषा ज्ञान र सिप	f नेपाली जीवनसाथी
b अंग्रेजी भाषा ज्ञान र सिप	g अर्थोपार्जन पैसा
c जापानी साथी / सहपाठीहरु	h सीप विशेषता ()
d जापानी जीवनसाथी	i अन्य ()
e नेपाली साथीहरु / सहपाठी	

I-2 जापानमा तपाईंको अन्य योजना के छ ?

a अध्ययनलाई क्रमिकता दिने	e जापानी नागरिक बन्ने
b आफ्नै व्यवसाय गर्ने	f अन्य देशमा स्थानान्तरण
c पूर्ण कालिन काम गर्ने	g अन्य ()
d जापानीसँग विवाह गर्ने	

I-3. अरु कति वर्ष जापानमा बस्ने योजना छ ?

- 1 एक वर्ष भन्दा कम 2 १-५ वर्ष 3 ५-१० वर्ष 4 जीवनभर 5 थाहा छैन

I-4. जापानमा गरेको कमाईलाई नेपालमा कस्तो ठाँउमा लगानी गर्नु भएको छ ?

a	घरको पूर्णनिर्माण	e	अन्य परिवारका सदस्यलाई जापान पठाउने काम
b	परिवारको लागि घर खरिद	f	अन्य परिवारका सदस्यलाई अन्य देश पठाउनमा
c	जग्गा खरिद	g	परिवारको लागि औषधी उपचारमा खर्च
d	व्यापारमा लगानी	h	बचत
		i	अन्य ()

I-5. नेपालमा तपाईं के गर्न चाहनुहुन्छ ?

a	उच्च अध्ययन	d	नेपाली सँग विवाह
b	आफ्नो व्यवसाय संचालन	e	जापानी भाषा प्रशिक्षण
c	पूर्ण कालिन काममा संलग्न	n	अन्य ()

I-6. यदि तपाईंसँग अन्तरवार्ता लिनु परेको खण्डमा के तपाईं आफ्नो नाम, इमेल, ठेगाना र फोन नम्बर दिन सक्नुहुन्छ ?

नाम

इमेल ठेगाना

फोन नं

सहयोगको लागि धन्यवाद ।

A. व्यक्तिगत जानकारी

A-1. लिंग _____ महिला _____ पुरुष _____ अन्य _____

A-2. जन्ममिति (अंग्रेजी वर्ष) _____

A-3. जातियता (जात/थर) _____

A-4. जन्मस्थान ?

A-4-1. जिल्ला	A-4-2. नगरपालिका/गा.वि.स
---------------	--------------------------

A-5. हालनेपालको ठेगाना

A-5-1. जिल्ला	A-5-2. नगरपालिका/गा.वि.स
---------------	--------------------------

A-6. जापानबाट कहिले फर्कनु भयो? ईस्व संवत्/ अंग्रेजी वर्ष _____

B. जापान जानु अघि नेपालमा रहनु हुँदाका सम्बन्धमा जानकारी

B-1 तपाईंले नेपालमा पूरा गर्नुभएको अध्ययन (कुनै एक मात्र)

1 अशिक्षित	7 एस.एल.सी. उर्तिर्ण (प्रवेशिका परिक्षा उर्तिर्ण)
2 शिक्षित (तर विधालय नगएको)	8 उच्च माध्यमिक (१२)
3 अनौपचारिक शिक्षा	9 स्नातक तह (बिए.बि.एड, वि. एस्सी, वि. बि.एस अन्य)
4 प्राथमिक शिक्षा (कक्षा १-५)	10 स्नोक्तर (एमए, एमएड, एम. एस्सी, एम.बि.एस अन्य)
5 निम्न माध्यमिक शिक्षा (कक्षा ६-८)	11 पोष्ट ग्राजुएट - (एम.फिल)
6 माध्यमिक शिक्षा (कक्षा ९-१०)	12 विधावारिधी (पि. एच. डी)

B-2. जापान जानुअघितपाईंले नेपालमा कस्तो किसिमको महा / विधालयमा आफ्नो अध्ययन पूरा गर्नुभएको थियो ।

1 नेपाली माध्यमको सरकारी विधालय	3 नेपाली माध्यमको निजी विधालय
2 अंग्रेजी माध्यमको सरकारी विधालय	4 अंग्रेजी माध्यमको निजी विधालय
	5 गुरुकुल / मदरसा / गुम्बा / मिसनरी

B-3. जापान जानुअघि कस्तो पेशामा संलग्न हुनुहुन्थ्यो ? के गर्नुहुन्थ्यो ?

1 स्व-रोजगार	6 विधार्थी
2 पूर्ण-कालिन रोजगारी	7 रोजगारको खोजीमा
3 अर्ध कालिन रोजगारी	8 काम गर्ने जरुरत थिएन
4 कृषि	9 अन्य भएमा स्पष्ट खुलाइदिनुहोस ।
5 घरायसी काम (बेतलबी)	

B-4. जापान जानुअघि नेपालमा कुन क्षेत्रसँग सम्बन्धित काममा संलग्न हुनुहुन्थ्यो ? (एक भन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a कृषि / वन / माछापालन	h सरकारी कर्मचारी
b उत्पादन / हस्त निर्मित सामान	i शिक्षासँग सम्बन्धित
c निर्माण / प्रविधी	j सुरक्षासँग सम्बन्धित
d व्यापार	k स्वास्थ्यसँग सम्बन्धित
e खुद्रा व्यापार	l सामाजिक सेवा
f पर्यटन/खाद्य व्यापार(होटल रेस्टुरेन्ट सँग सम्बन्धित)	m अन्य
g पत्रकारिता	n कुनै पनि होइन

B-5. नेपालमा रहदा तपाइलें कस्तो किसिमको कार्यभार/पदभार सम्हाल्नुभएको थियो (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a व्यवसायिक(professional)	e सेवा/सामग्री विक्रेता (Sales worker)
b दक्ष जनशक्ति / प्राविधिक (Skilled worker)	f सहायक तह (Assistant Level)
c प्रबन्धक (Manager)	g घरायसी कामदार (Family worker)
d संचालक (Operator)	h प्राशिक्षार्थी(Intern/trainee)
	i कुनै पनि होइन

B-6. जापानमाजानुअघि प्रति महिना सरदर आम्दानी ?

1. रु.१०,००० भन्दा कम 2. रु.१०,००१ – ३०,००० 3. रु.३०,००१ – ५०,०००

4. रु.५०,००१ भन्दा माथि

5. निश्चित आम्दानी थिएन

B-7. जापान जानुअघि नेपालमा रहनुहुँदा आफूलाई आइपरेका समस्या समाधानका लागि सबैभन्दा विश्वसनिय संस्था/व्यक्ति तलका मध्ये कुन थियो ? प्रत्येक प्रश्नको कुनै एकमा मात्र चिनो लगाउनु होला ?

परिवेश	परिवार / नातेदार	नपातीसाथीभाई	विदेशीसाथीभाई	छिमेकी	सँगै पढ्ने साथी	एउटै क्षेत्रमा काम गर्ने साथी	सरकारी संस्था	गैर सरकारीसंस्था	कुनै पनि होइन
A कामको खोजी	1	2	3	4	5	6	7	8	9
B आर्थिक सहयोग/सरसापटी	1	2	3	4	5	6	7	8	9
C विरामी पर्दा/चोटपटक लागदा सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
D घरायसी सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E केटाकेटी रेखदेख/ पारिवारीक सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
F स्वास्थ्य सम्बन्धी सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
G आर्थिक सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
H घरायसी सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I घरेली हिंसा सम्बन्धी सल्लाह	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J मनोविज्ञान सम्बन्धी सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9
K रमाइलो गर्न (खाने, गफ गर्ने)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
L किनमेलमा साथ	1	2	3	4	5	6	7	8	9

C. हाल नेपालमा रहेका परिवार सम्बन्धि जानकारी

C-1. हाल तपाईंको वैवाहिक स्थिति कस्तो छ ?

1 अविवाहित	5 सम्बन्ध विच्छेद
2 विवाहित	6 छुट्टिएर रहेको
3 बहुविवाहित	7 पूर्ण विवाहित
4 विदुर/विधवा	8 कानुनी मान्यता विना सँगै रहदै बस्दै आएको

C-2. तपाईंको हालको जीवनसाथी (पार्टनर) कहाँको नागरिक हो?

1 नेपाली 2.जापानी 3.अन्य भएमा स्पष्ट खुलाइदिनुहोस _____

C-3. जापानजानुअघि तपाईं कति जनाको परिवार संख्यामा बस्नुभएको थियो ? परिवार संख्या (एक भन्दा बढी चिनो लगाउन सकिने)

a श्रीमान/ श्रीमती	g नन्द/आमाजु	l ज्वाई
b केटाकेटी	h जेठाजु/देवर	m नाती / नातिनी
c अविभावक (बुवा/आमा)	i छोरी	n नातेदार
d सासु/ससुरा	j छोरा	o साथी
e दिदीबहिनी	k बुहारी	p सहपाठी
f दाजुभाई		q अन्य

C-4 हालकतिजनाको परिवार संख्यामा बस्नुभएको छ ?परिवार संख्या _____

D. स्थानान्तरण सम्बन्धि जानकारी

D-1. तपाईंले आफ्नो जन्मस्थान छोडनुभएको तिथि /मिति ?अंग्रेजी वर्षमा _____

D-2.जापान बाहेक अन्य देशमा बस्नुभएको थियो?

देश	अंग्रेजी वर्षमा (देखि-सम्म)	उद्देश्य

D-3. जापानजानुअघि कहाँ बसोबास गर्नुहुन्थ्यो ?

देश/जिल्ला	नगरपालिका/गा.वि.स

D-4. जापानमा सबैभन्दा पहिला कहिले जानु भएको थियो ?अंग्रेजी वर्षमा _____

D-5. जापानमा जम्मा कति अवधिरहनु भयो ? (_____ वर्ष)

D-6. नेपाल छोडनुको कारणहरु (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| a रोजगारीको कमी | e द्वन्दका कारण सुरक्षाको कमी |
| b विषय विशेष शैक्षिक संस्थाको कमी | f परिवारको बसाई सराई |
| c आवश्यक औषधी चिकित्साको कमी | g परिवारको सल्लाह |
| d जीउने आधारको कमी | h साथीभाइको सल्लाह |
| | i अन्य () |

D-7. जापाननै छान्नुको मुख्य कारण (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| a परिवार/नातेदारको आमन्त्रण | h पैसा कमाउन |
| b नेपाली साथी/सहपाठीद्वारा आमन्त्रण | i शरणार्थी बन्न |
| c जापानी साथी/सहपाठी द्वारा आमन्त्रण | j छात्रवृत्ति पाउन सजिलो |
| d जापानीसँगको वैवाहिक सम्बन्ध | k भर्ना हुन सजिलो |
| e जापानी भाषा सिकाइ | l भिसा प्रक्रिया सजिलो |
| f जापानी संस्कृति सिकाइ | m काम पाउन सजिलो |
| g विषय विशेष क्षमता अभिवृद्धि | n सुरक्षा अनुभूतिका लागि |
| | o अन्य() |

D-8 जापानको बारेमाकहाँबाटजानकारी पाउनुभयो ? (एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| a जापानी भाषा-विद्यालय | f नेपालमा रहेको परिवार/नातेदार |
| b कन्सल्टयान्ट एजेन्सी | g नेपालमा रहेका साथी/सहपाठी, सहकर्मी |
| c रोजगार कम्पनी | h टिभी / रेडियो |
| d जापानमा रहेका परिवार/नातेदार | i पत्र-पत्रिका |
| e जापानमा रहेका साथी/सहपाठी | j वेबसाइट |
| | k अन्य() |

E. जापानमा रहनु हुंदा तपाईंको कानूनी अवस्था सँग सम्बन्धित जानकारी

E-1. जापान प्रवेश गर्नु भएको समयदेखि तपाईंको भिसाकोकानूनी अवस्था के कस्तो रहयो, क्रमिक रुपमा जानकारी दिनुहोस । जस्तै यदि तपाईं अस्थाई भिसामा प्रवेश गरी क्रमिक रुपमा विद्यालय प्रवेश गर्नु भई जापानीसँगको विवाह भएको खण्डमा सँगैरहेको कोष्ठमा अस्थाई भिसा (१) विधार्थी(२) जापानी सँगको वैवाहिक सम्बन्ध (३) भनि बुझिनेछ ।

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. कुटनितिज्ञ | 16. सिपयुक्त कामदार |
| 2. प्रशासक | 17. कलेज विधार्थी |
| 3. शिक्षण पेशामा संलग्न | 18. व्यवसायिक सिकारु |
| 4. कलाकार | 19. कला-संस्कृतिसँग सम्बन्धित |
| 5. धार्मिक क्रियाकलापहरु | 20. अल्पकालिन आगन्तुक |
| 6. पत्रकार | 21. विधार्थी (भाषा) |
| 7. लगानीकर्ता | 22. प्रशिक्षार्थी |
| 8. कानूनी / लेखा सेवा | 23. आश्रीत |
| 9. स्वास्थ्य सेवा | 24. पूर्व निर्धारित कार्यक्रम गर्नेहरु |
| 10. सोधकर्ता | 25. स्थायी बासिन्दा / बसोवास |
| 11. प्रशिक्षक | 26. जापानी अभिभावक वा सन्तानहरु |
| 12. इन्जिनियर | 27. स्थानीय अविभावक वा सन्तानहरु |
| 13. विषय विशेषज्ञ | 28. लामो समयको बसोवास |
| 14. अन्तरसंस्था प्रशिक्षार्थी | 29. शरणार्थी |
| 15. मनोरञ्जन गराउने | 30. अन्य() |

E-2. जापानमा रहनु हुंदा कस्तो कानुनी अवस्थाको (भिसा) चाहना राख्नुभएको थियो ? माथि E-1मा उल्लेखित मध्ये कुनै एक छनौटगर्नुहोस _____

F. भाषा क्षमता सम्बन्धि जानकारी

F-1. जापानजानुअधिआफूमा रहेको भाषा क्षमतामा ठीक ✓ चिन्ह लगाउनुहोस ।

	क्षमता	एकदमै राम्रो	ठीक	पटकै थिएन
जापानी	A. वार्तालाप	1	2	3
	B. हिरागाना र कतागाना पढन	1	2	3
	C. हिरागाना र कतागाना लेख्न	1	2	3
	D. खान्जी पढन	1	2	3
	E. खान्जी लेख्न	1	2	3
	F. किताब / पत्र-पत्रिका पढन	1	2	3
	G. इमेल र चिठीहरू लेख्न	1	2	3
अंग्रेजी	H. वार्तालाप	1	2	3
	I. किताब / पत्र-पत्रिका पढन	1	2	3
	J. इमेल र चिठी लेख्न	1	2	3

F-2. कुन कुन जापानी भाषा कक्षाहरूमा भाग लिनुभयो ? (एक भन्दा बढीमा चिन्ह लगाउन सकिने)

a	जापान आउनु अगावै नेपालमा जापानी भाषा पाठशालामा
b	जापान आउनु अगावै नेपालमा रोजगार कम्पनीले दिएका भाषा कक्षाहरू
c	जापान आएपछि जापानी भाषा पाठशालामा
d	जापान आएपछि विधालय / विश्वविधालय / कम्पनीहरूले प्रदान गरेका भाषा कक्षाहरू
e	जापान सरकारी वा गैर सरकारी संस्थाले प्रदान गरेका निःशुल्क भाषा कक्षाहरू
f	जापान आएपछि साथी एवं सहपाठीले प्रदान गरेका जापानी कक्षा / पाठहरू
g	कुनै पनि होइन

F-3. हाल तपाईंको जापानी भाषा क्षमतामा ठीक ✓ चिन्ह लगाउनुहोस ।

भाषा	क्षमता	एकदमै राम्रो	ठीक	पटकै छैन	पहिला सरह छैन
जापानी	वार्तालाप	1	2	3	4
	हिरागाना कातागाना पढन	1	2	3	4
	हिरागाना कातागाना लेख्न	1	2	3	4
	खान्जी पढन	1	2	3	4
	खान्जी लेख्न	1	2	3	4
	किताब र पत्र पत्रिका पढन	1	2	3	4
	इमेल र चिठीहरू पढन लेख्न	1	2	3	4
अंग्रेजी	वार्तालाप	1	2	3	4
	किताब र पत्र पत्रिका पढन	1	2	3	4
	इमेल र चिठीपत्र पढन लेख्न	1	2	3	4

F-4. जापानी भाषा परिक्षामा आफ्नो उच्चतम क्षमता कस्तो रहयो ? (चिनो लगाउनुहोस ।)

- A जापानी भाषा परिक्षा: N1 N2 N3 N4 N5
 B जे-टेष्ट:特 AA 準 AB 準 BCD 準 DEFG
 C नाट-टेष्ट(NAT-TEST): 1 級 2 級 3 級 4 級 5 級
 D. अन्य _____

F-5. हाल घरमा सबैभन्दा बढी कुन भाषा प्रयोग गर्नुहुन्छ ?(कुनै एक मात्र)

- 1.जापानी 2.अंग्रेजी 3.नेपाली 4.जातिय भाषा() 5.अन्य()

G. जापानी जीवन शैली सम्बन्धमा जानकारी

G-1. तपाईं जापान जानुभएदेखि ३ महिना भन्दा बढी समय बिताउनु भएको शहर/गाँउको नाम उल्लेख गर्नुहोस ।

शहर / गाँउको नाम	रहनुभएको अवधि (देखि बाट)	त्यहाँ रहदा गर्नुभएको कार्य

G-2. माथि उल्लेखित स्थान चयन गर्नुको मुख्य कारण ?(एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a परिवार / नातेदारको आमन्त्रण	g काम पाउन सजिलो
b नेपाली साथी / सहपाठीको आमन्त्रण	h बसोबासका लागि सजिलो
c जापानी साथी / सहपाठीको आमन्त्रण	i अन्य स्थान भन्दा दैनिक खर्च कम लाग्ने
d छात्रवृत्ति पाउन सजिलो	j सुरक्षाको अनुभूति
e विद्यालय भर्ना हुन सजिलो	k उपयुक्त वातावरण
f भिसा पाउन सजिलो	l कुनै कारण छैन
	m अन्य()

G-3. उक्तस्थानहरुको बारेमा जानकारी कसरी पाउनुभएको थियो?(एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a जापानी भाषा पाठशाला मार्फत	e जापानमा रहेका साथीभाई मार्फत
b परामर्श एजेन्सी मार्फत	f टेलिभिजन / रेडियो मार्फत
c रोजगार दाता	g पत्र-पत्रिका मार्फत
d जापानमा रहेका परिवार/नातेदार मार्फत	h वेबसाइटहरु मार्फत

G-4. तपाईंलगायत कति जना संगै बस्नुहुन्थ्यो? _____

G-5. तपाइसंगै परिवारका कोही सदस्यहरुबस्नुहुन्थ्यो?(एकभन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a श्रीमान / श्रीमति	f दाजु / भाई	k बुहारी	p सहपाठी
b केटाकेटी	g नन्द / आमाजु	l ज्वाइँ	q अन्य
c अभिभावक	h देवर / जेठाजु	m नाती / नातिना	r कोही पनि थिएन
d सासु / ससुरा	i छोरी	n नातेदार	
e दिदी / बहिनी	j छोरा	o साथी	

G-6. तपाईंको परिवारका कुनै सदस्य वा नातेदार तपाईंसँगै नबसी जापानको अन्य ठाँउमा बस्नुहुन्थ्यो ?

1.थियो 2.थिएन

G-7. तपाईं कस्तो किसिमको बासस्थानमा बस्नुहुन्थ्यो?

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 आफ्नै घर | 6 सामूहिक अपार्टमेन्ट |
| 2 आफ्नै अपार्टमेन्ट | 7 आवास / आवासिय क्षेत्र |
| 3 भाडाको घर | 8 सामुदायिक आवास(賃貸公営住宅) |
| 4 भाडाको अपार्टमेन्ट | 9 अन्य() |
| 5 सामूहिक घर | |

G-8-1 तपाईंलाई भाडामा बस्न कसले दिएको थियो(भाडामा बस्नेहरूका लागि मात्र)?

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| a आफ्नै | e जापानी भाषा स्कूल |
| b आफ्नै परिवारको सदस्य | f विद्यालय / विश्वविद्यालय |
| c नेपाली साथी / सहपाठी | g रोजगारदाता / कम्पनी |
| d जापानी साथी / सहपाठी | h कोही पनि होइन |
| | i अन्य() |

G-8-2 तपाईंको बसाईको जिम्मेवारी कसले दिएको थियो (भाडामा बस्नेहरूका लागि मात्र)?

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| a आफ्नै परिवारको सदस्य | e विद्यालय / विश्व विद्यालय |
| b नेपाली साथी / सहपाठी | f रोजगारदाता / कम्पनी |
| c जापानी साथी / सहपाठी | g कोही पनि छैन |
| d जापानी भाषा स्कूल | h अन्य() |

G-9. जापानमारहंदा तपाईंको आन्दानीको श्रोतहरू के के थिए ?(एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|---|--|
| a छात्रवृत्ति | g जापानमा छुट्टिएको श्रीमान / श्रीमतिको रेमिटयान्स |
| b मासिक पारिश्रमिक | h सरकारी जीवन सुरक्षा भत्ता |
| c व्यवसायीक मुनाफा | i बाल सुरक्षा भत्ता |
| d सँगै रहेको परिवार नातेदारको कमाई | j शरणार्थी सुरक्षा भत्ता |
| e सँगै रहेको जापानी परिवार / नातेदारको कमाई | k अन्य() |
| f नेपालबाट रेमिटयान्स | |

G-10. तपाईं जापानमा रहंदा नेपालमा आफ्नो परिवारलाई नियमित रूपमा खर्च पठाउनु हुन्थ्यो?

1.पठाउँथे 2.पठाउँदैनथिएँ

G-11. जापानमारहंदा कुन क्षेत्रसँग सम्बन्धित काम गर्नुहुन्थ्यो?(एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|--|-----------------------------------|
| a कृषि/वन / माछापालन | h प्रशासनिक कार्य |
| b उत्पादन / हस्तकला सम्बन्धी काम | i शिक्षण |
| c निर्माण / इन्जिनियर | j सुरक्षा (Army, Police etc.) |
| d व्यापार | k स्वास्थ्य (Doctor , Nurse ect.) |
| e खुद्रा विक्री | l सामाजिक सेवा (I/N/GOs) |
| f पर्यटन / खाद्य व्यवसाय (होटल, रेष्टुरेन्ट) | m कुनै पनि होइन |
| g पत्रकारिता | n अन्य() |

G-12. जापानमा रहंदा कस्तो किसिमको पदभार संहाल्नु भएको थियो? (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

a व्यवसायिक (Professional)	e सेवा तथा सामग्री विक्रेता (Sales worker)
b दक्ष जनशक्ति/प्राविधिक (Skilled Worker, eg. Cook)	f सहायक तह (Assistant)
c प्रबन्धक (Manager)	g घरायसी कामदार (Family worker)
d संचालक (Operator)	h प्रशिक्षार्थी(Intern/Trainee)
	i कुनै पनि होइन

G-13. उक्त कामगर्दाकस्तो किसिमको सम्झौता भएको थियो?

1 जीवनभर पूर्णकालिन कामदार	5 निश्चित छैन
2 निश्चित समयका लागि पूर्णकालिन कामदार	6 कम पारिश्रमिक प्रशिक्षार्थी
3 अर्ध कालिन रोजगार	7 विना - पारिश्रमिक
4 दैनिक ज्याला	8 अन्य ()

G-14. पारिश्रमिक पाउने कामका लागि हप्तामा कति घण्टा काम गर्नुहुन्थ्यो? _____ घण्टा प्रति हप्ता

G-15. महिनामा कति आम्दानी गर्नुहुन्थ्यो ?जापानी येनप्रति महिना

1. ५०,००० भन्दा कम 2. ५०,००१ – १००,००० 3. १००,००१ – २००,०००
4. २००,००१ भन्दामाथि 5. कुनै निश्चित आम्दानी थिएन

G-16. के तपाईंले जापान जानु अगाडी सोच्नुभएको जति कमाई हुन्थ्यो ? 1.थियो 2.थिएन

G-17. जापानमा रहदा कुनै सामाजिक सुरक्षा योजना (स्किमको) शुल्क तिर्नु भएको थियो?

a स्वास्थ्य विमा (National Health Insurance in Japan)
b कर्मचारी विमा (Employment Insurance in Japan)
c निवृत्तिभरण विमा (National Pension in Japan)
d व्यक्तिगत जीवन विमा (Private Life Insurance in Japan)
e विदेशी विद्यार्थीको व्यक्तिगत विमा (Private Insurance for foreign students)
f नेपालमा व्यक्तिगत जीवन विमा (Private Insurance of Nepal)
g यात्रा विमा (Travel Insurance)
h अन्य (Miscellaneous)
i थाहा छैन (No idea)

H. जापानमा रहंदाकोसामाजिक जीवन सम्बन्धमा जानकारी

H-1. जापानमा रहंदा तपाईंको खाली समय कसरी बिताउनुहुन्थ्यो? (एकभन्दा बढी जवाफ लेख्न सकिने)

a आराम	d जापानी साथीसँग भेटभाट
b घरायसी काम	e अन्य()
c नेपाली साथीसँगको भेटभाट	

H-2. जापानमा रहदा कुनै समूहसँग तपाईंको संलग्नता थियो भने चिनो लगाइदिनुहोस (एकभन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a सामुदायिक संगठन	g खेलकुद संघ
b आवास व्यवस्थापन समिति	h शोखका लागी अतिरिक्त सामाजिक क्रियाकलाप समूह
c शिक्षक/अभिभावक संगठन	i धार्मिक क्रियाकलाप समूह
d आमा समूह	j रात्रि विद्यालय
e शैक्षिक संस्थाको विद्यार्थी संगठन	k जापान-नेपाल संघ
f मजदुर संगठन	l गैह्र सरकारी /गैह्र नाफा मूलक संगठन
	m अन्य()

H-3. नेपालीसँग सम्बन्धित कुनै समूहको तपाईं सदस्य हुनुहुन्थ्यो? (एकभन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

a गैह्र आवासिय नेपाली संगठन जापान	c जिल्ला स्तरीय संगठन
b जापानमा रहेको जातिय संगठन	d जापानमा रहेका नेपाली विद्यार्थी संगठन

H-4. माथि उल्लेख भएकाबाहेक अन्य कुनै समूह/ संस्थासँग तपाईंको संलग्नता/ सदस्यता थियो? भएमा उल्लेख गरिदिनुहोस।

H-5. जापानको बसाई / जीवनलाई कसरी लिनु भएको छ?(प्रत्येकका लागि एउटा मात्र छान्नुहोस)

तत्वहरु	पूर्ण समर्थन	समर्थन	ठीक	असमर्थन	पटकै लाग्दैन
A दैनिक जीवनसँग खुसी	1	2	3	4	5
B दैनिक जीवनको बारेमा चिन्तित	1	2	3	4	5
C नेपालको जीवन भन्दा खुसी	1	2	3	4	5
D नेपालमा भन्दा पनि नाजुक	1	2	3	4	5

H-6. तपाईंले कहिले तल उल्लेखित संस्थाबाट सरसल्लाह एवं सहयोग पाउनु भएको थियो ? यदि पाउनु भएको थियो भने कुन भाषामा पाउनुभएको थियो ? (एक भन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

तत्वहरु	नेपाली	अंग्रेजी	जापानी	अन्य
A नगरपालिका / शहर / गाँउ अफिस	1	2	3	4
B सरकारी रुपमा संचालित महिला केन्द्रहरु	1	2	3	4
C गैर सरकारी संस्थाले चलाएका बस्ने ठाँउहरु	1	2	3	4
D गैर सरकारी संस्था	1	2	3	4
E विद्यालय/ महाविद्यालय/ विश्वविद्यालयमा रहेको परामर्श दिइने स्थान	1	2	3	4
F निजी कम्पनी द्वारा संचालित परामर्श दिइने स्थान	1	2	3	4
G मजदुर संगठन	1	2	3	4
H कानूनका वकिलहरुद्वारा संचालित निजी केन्द्र	1	2	3	4
I निशुल्क फोन सेवा	1	2	3	4
J अन लाइन / वेब आधारित सेवाहरु	1	2	3	4
K कुनै पनि छैन ।	1	2	3	4

H-7. जापानमा विभिन्न अवस्थामा आवश्यक पर्दा सबैभन्दा नजिकको जानकारी एवं सल्लाह दिने व्यक्ति/श्रोत कुन थियो ? (प्रत्येक पक्षमा एउटा रोज्नुहोस)

अवस्थाहरु	जापानी परिवार, नातेदार	नेपाली परिवार नातेदार	जापानी साथीहरु	नेपाली साथीहरु	अन्य देशका साथीहरु	जापानी छिमेकीहरु	जापानी सहकर्मी सहपाठीहरु	नेपाली सहकर्मी सहपाठीहरु	त्यही ठाँउमा रहेका नेपालीहरु	नैर सरकारी संस्था	हटलाइन फोन सेवा	सरकारी परामर्श सेवा	सरकारी इन्टर न्याशनेल सेन्टर	वेबसाइटहरु	कुनै पनि होइन
A काम खोज्नका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
B ऋण लिन / आर्थिक सहयोग	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
C विरामी पर्दा सहयोगको लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
D घरायसी सहयोगको लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
E केटीकेटी / परिवार रेखदेखका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
F स्वास्थ्य सम्बन्धी सल्लाह सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
G सामाजिक सुरक्षा सम्बन्धि सल्लाह सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
H पारिवारिक समस्या परेमा सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
I घरेलु हिसामा सल्लाह सुझावका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
J मनोवैज्ञानिक सहयोगको लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
K मनोरञ्जनका लागि (सँगै खाने, कुराकानी गर्ने)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
L सँगै किनमेल जानका लागि	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

H-8. जापानमा रहँदा आफ्नो जीवनका विभिन्न पक्षलाई कसरी हेर्नुभएको थियो । (प्रत्येक पक्षमा एउटा रोज्नुहोस)

पक्षहरू	धेरै सन्तुष्ट	सन्तुष्ट	ठीक	पौर लाग्ने	एकदमै पौर लाग्ने	लाग्नु हुँदैन
A जापानी परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
B जापानमा नेपाली परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
C नेपालमा नेपाली परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
D जापानी साथीहरूसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
E जापानी सहपाठी / सहकर्मीहरूसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
F जापानी छिमेकीसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
G नेपाली साथी / सहपाठीसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
H अन्य देशका साथी / सहपाठीसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
I हाल संलग्न रहेको काममा	1	2	3	4	5	6
J आम्दानी / पारिश्रमिक	1	2	3	4	5	6
K काम गर्ने वातावरण / अवस्था	1	2	3	4	5	6
L बसाइका लागि कानूनी मान्यता	1	2	3	4	5	6
M बसोबास	1	2	3	4	5	6
N आफ्नो शिक्षा / लक्ष्य	1	2	3	4	5	6
O प्राकृतिक प्रकोप	1	2	3	4	5	6
P जापानी भाषा क्षमता	1	2	3	4	5	6
Q भविष्यका लागि आवश्यक सरसल्लाह	1	2	3	4	5	6
R सरकारी सेवाहरूमा पहुँच	1	2	3	4	5	6
S औषधीउपचार सेवाहरूमा पहुँच	1	2	3	4	5	6
T बच्चाको स्याहार एवं पढाई	1	2	3	4	5	6
U मनोरञ्जनात्मक जीवन	1	2	3	4	5	6
V शारीरिक संसर्ग (जीवनसाथी / पार्टनर / तिनीहरूबाटको दुरव्यवहार)	1	2	3	4	5	6
W मानसिक एवं भावनात्मक संवेग	1	2	3	4	5	6

J. हालनेपालमा रहनुहुँदाका सम्बन्धमा जानकारी

J-1. तपाईंले हालनेपालमा के गरीरहनु भएको छ? (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| a. उच्चअध्ययनलाई क्रमिकता दिदै | d. नेपाली जीवनसाथी सँग विवाह |
| b. आफ्नै व्यवसाय गर्दै | e. जापानी भाषा प्रशिक्षण |
| c. पूर्ण कालिन काम गर्दै | f. अन्य() |

J-2. हाल कस्तो किसिमको पदभार सहाल्लै आउनु भएको छ? (एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| a व्यवसायिक (Professional) | e सेवा तथा सामग्री विक्रेता |
| b दक्ष जनशक्ति / प्राविधिक | f सहायक तह |
| c प्रबन्धक | g घरायसी कामदार |
| d संचालक | h प्रशिक्षार्थी |
| | i कुनै पनि होइन |

J-3. कुन क्षेत्रसँग सम्बन्धित काम गरिरहनु भएको छ ?(एक भन्दा बढीमा चिनो लगाउन सकिने)

- | | |
|--|---------------------------------|
| a. कृषि/वन विज्ञान/माछापालन | h. सरकारी कर्मचारी |
| b. उत्पादन/शिल्पकला | i. शैक्षिक क्षेत्र /शिक्षण पेशा |
| c. निर्माण व्यवसाय/ईन्जिनियरिङ्ग | j. सुरक्षा सेवा |
| d. व्यापार | k. चिकित्सा क्षेत्र |
| e. खुद्रा पसल संचालन | l. सामाजिक क्षेत्र |
| f. पर्यटन व्यवसाय/होटल रेष्टुरा संचालन | m. कुनै पनि होइन |
| g. पत्रकारिता | n. अन्य() |

J-4. हाल प्रति महिना सरदर आन्दानी ?

1. रु.१०,००० भन्दा कम 2. रु.१०,००१ – ३०,००० 3. रु.३०,००१ – ५०,०००
4. रु.५०,००१ भन्दा माथि 5. निश्चित आम्दानी छैन

J-5. जापानमा गरेको कमाईलाई हालनेपालमा कस्तो ठाँउमा लगानी गर्नु भएको छ ?

- | | |
|--------------------------|--|
| a. घरको पूर्णनिर्माण | f. अन्य परिवारका सदस्यलाई जापान पठाउने काम |
| b. नयाँघरको निर्माण | g. अन्य परिवारका सदस्यलाई अन्य देश पठाउनमा |
| c. परिवारको लागि घर खरिद | h. परिवारको लागि औषधी उपचारमा खर्च |
| d. जग्गा खरिद | i. बचत |
| e. व्यापारमा लगानी | j. अन्य() |

J-6. हालतपाईं यि मध्ये कुनै समूहसँग आवद्ध हुनुहुन्छ भने चिनो लगाइदिनुहोस (एकभन्दा बढी उत्तर दिन सकिने)

- | |
|---|
| a. वैदेशिक रोजगारीबाट फर्किएकाहरुको संगठन(returnend migrants) |
| b. जातिय संगठन (Ethnicity/Caste-Based Associations) |
| c. समुदायमा आधारित संगठन (Community-Based Organizations) |
| d. लघु वित्तिय समूह (Micro-finance groups) |
| e. स्वयंले गठन गरेको गैह्र सरकारी संगठन (NGOs formed by self) |

J-7. माथि उल्लिखित संगठन बाहेक अन्य कुनै संग आवद्ध हुनुहुन्छ ?नाम उल्लेख गर्नुहोस

J-8. हाल नेपालको बसाई / जीवनलाई कसरी लिनु भएको छ? (प्रत्येकका लागि एउटा मात्र छान्नुहोस)

तत्वहरू	पूर्ण समर्थन	समर्थन	ठीक	असमर्थन	पटकै लाइन
A. दैनिक जीवनसंग खुसी	1	2	3	4	5
B. दैनिक जीवनको बारेमा चिन्तित	1	2	3	4	5
C. जापानको जीवन भन्दा खुसी	1	2	3	4	5
D. जापानमा भन्दा पनि नाजुक	1	2	3	4	5

J-9. हालनेपालको आफ्नो जीवनका विभिन्न पक्षलाई कसरी हेर्नुभएको छ। (प्रत्येक पक्षमा एउटा रोज्नुहोस)

पक्षहरू	धेरै सन्तुष्ट	सन्तुष्ट	ठीक	पीर लाग्ने	एकदमै पीर लाग्ने	लागु हुँदैन
A. जापानी परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
B. नेपालमा नेपाली परिवारसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
C. नेपाली सहपाठी / सहकर्मीहरूसँगको सम्बन्ध	1	2	3	4	5	6
D. हाल संलग्न रहेको काममा	1	2	3	4	5	6
E. आम्दानी / पारिश्रमिक	1	2	3	4	5	6
F. काम गर्ने वातावरण	1	2	3	4	5	6
G. बसाई	1	2	3	4	5	6
H. आफ्नो शिक्षा / लक्ष्य	1	2	3	4	5	6
I. प्राकृतिक प्रकोप	1	2	3	4	5	6
J. जापानी भाषा क्षमता	1	2	3	4	5	6
K. भविष्यका लागि आवश्यक सरसल्लाह	1	2	3	4	5	6
L. सरकारी सेवाहरूमा पहुँच	1	2	3	4	5	6
M. स्वास्थ्य सेवामा पहुँच	1	2	3	4	5	6
N. बच्चाको स्याहार एवं पढाई	1	2	3	4	5	6
O. मनोरञ्जनात्मक जीवन	1	2	3	4	5	6
P. शारीरिक संसर्ग (जीवनसाथी / पार्टनरहरूबाट दुरव्यवहार)	1	2	3	4	5	6
Q. मानसिक एवं भावनात्मक संवेग	1	2	3	4	5	6

J-10. तपाईं के गर्न चाहनुहुन्छ ? (इच्छा)

著者紹介

佐野麻由子 (さの まゆこ)

福岡県立大学人間社会学部 准教授

国際社会学、ジェンダー論、ネパール地域研究

【主要業績】

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編『開発社会学を学ぶための60冊』明石書店、2015
「途上社会の貧困、開発、公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣 pp.148-165、2015

「身体経験にみるジェンダー秩序とその変容」鈴木紀・滝村卓司編『みんぱく実践人類学8 国際開発と協働—NGOの役割とジェンダーの視点』明石書店、pp.157-192、2013

「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院、pp.240-258、2012

田中雅子 (たなか まさこ)

上智大学 総合グローバル学部 准教授

開発学、国際協力論、市民社会論、ジェンダー論、ネパール地域研究

【主要業績】

Changing Relationships between Rights-Holders and Others in Inclusive Aid: A Case Study of Partnerships between NGOs and Identity-Based Associations in Nepal, 『広島大学現代インド研究—空間と社会』、Vol.5、広島：広島大学現代インド研究センター、2015

Balancing between Politics and Development: The Multiple Roles Played by Indigenous People's Organisations in Nepal, *History and Sociology of South Asia*, Vol. 7(1), New Delhi: SAGE Publications, 2013

「ネパールの紛争と性暴力—沈黙を破り正義を求める女性たち」、『季刊 戦争責任研究』第71号、東京：日本の戦争責任資料センター、2011

From confrontation to collaboration: a decade in the work of the squatters' movement in Nepal, *Environment and Urbanization*, Vol 21 (1) London: International Institute for Environment and Development, 2009

移住によって潜在能力は発揮できるか？
ジェンダーの視点で見た滞日ネパール人の特徴

2016年3月

発行 公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号北九州市大手町ビル3階

TEL : 093-583-3434、FAX : 093-583-5195

Email : research@kfaw.or.jp、URL : <http://www.kfaw.or.jp>
